

# 峠三吉自筆草稿画像目録

松尾雅嗣（編）

広島大学平和科学研究センター

## 目次

前書と解説	iii
はじめに	iii
1 資料と収録範囲	vi
2 電子画像の作成と処理上の問題	viii
3 目録の形式と構成	x
3. 1 資料詳細	xi
3. 2 目録の構成と内容	xii
4 CD版画像目録の使用方法	xiii
註、引用文献	xv
謝辞	xvi
峠三吉自筆草稿画像目録	1
(1) 詩	1
(2) 小説・童話	32
(3) 短歌：俳句	34
(4) 評論・主張	41
(5) 台本・シナリオ	48
画像目録表題索引	49
ア行	50
カ行	58
サ行	66
タ行	75
ナ行	80
ハ行	82
マ行	90
ヤ行	93
ラ行	96
ワ行	96
英数字	98
付録 「峠三吉自筆草稿画像目録」	101

## CD版利用申込書

## 前書と解説

### はじめに

現在確認されている峠三吉関係の資料の大半は、広島市立中央図書館と峠鷹志氏によって所蔵されている。広島市立中央図書館所蔵分（以下、中央図書館資料と略称）と峠鷹志氏所蔵分（以下、東京資料と略称）は、いずれもほぼ全点マイクロフィルム化され、広島市立中央図書館に保管されている。現在までに確認された峠関係の資料は、言うまでもなくこれに限らない。例えば、広島文学資料保全の会（以下、保全の会と略称）が保管する資料などもその例である。このほかに他の個人所蔵資料や未確認資料が存在することは言を俟たない。

我々が2004年に『峠三吉資料目録』（以下『資料目録』と略称）として刊行した目録は、中央図書館資料と東京資料を合わせ、さらに追加資料<sup>1)</sup>を加えた既存全資料の統一的目録である。未確認資料が存在する可能性は勿論否定できないとしても、現在これが最も網羅的な目録である。

しかしながら、この目録は二次情報であり、あくまで資料の所在を示すものに過ぎない。研究者、関心のある学生、市民にとって真に有用なのは、資料そのもの、即ち一次情報である。確かに、峠三吉の作品については、何点かの作品集が刊行されている<sup>2)</sup>。また他の資料についても、評伝『八月の詩人』（増岡敏和著 東邦出版社、昭和45年）をはじめ、上記作品集からも作品、日記、随筆、覚書などの一端を窺うことができる。しかし、いずれも紙幅の制約などから部分的な紹介にとどまり、原資料について十分な情報を与えるものではない。ましてや、これら原資料へのアクセスは必ずしも容易ではなく、峠三吉とその時代の研究にとって大きな隘路となってきたことは否めない。

原資料を電子画像化し、提供することの意味はここにある。直接に原資料を検討することができればそれに越したことはないが、現実にはさまざまな障害が存在する。それを克服するひとつの方法が資料を電子画像として提供することである。原資料をデジタル画像化し、これをCDあるいはDVDといった媒体によって提供するという方法である。勿論、電子画像といえども、2節「電子画像の作成と処理上の問題」の項で後述するように画像の精粗や鮮明度によっては、最終的に原資料に拠らなければ内容を確定できないことも少なくはな

い。資料のデジタル化のメリット、特に峠三吉研究にもたらす新たな可能性については既に他の箇所でも触れたので<sup>3)</sup>、ここでは論じない。しかし、この方法により、原資料へのアクセスの問題は格段に改善できるはずである。

デジタル画像への変換、あるいはデジタル画像の作成については、これまでに、中央図書館資料については、峠差出、峠宛の書簡類、峠自筆の日記、草稿、ノートなど峠の生涯と作品に密接な関わりをもつ資料を中心に、東京資料はそのすべてを、マイクロフィルム画像からデジタル化した。その他の資料についても、広島文学資料保全の会保管の資料などをデジタル画像として記録した。これらのデジタル画像については、個人情報扱いなど幾つかの権利に関わる問題があり、すべての資料の画像を直ちに無条件に公開できるものではないが、できるだけ早い機会に、CDなど記憶媒体やインターネットを介して公開することを考えている。

電子媒体ではないが、昭和20年8月6日直後の峠三吉の日記の写真画像を『峠三吉被爆日記』<sup>4)</sup>として冊子体で刊行したのは、電子画像を以って原資料に代える試みのひとつである<sup>5)</sup>。しかしながら、日記の一部のような少数の資料であればいざ知らず、数千に及ぶ画像を印刷物として刊行することは、不可能ではないとしても実現困難であり、現実的な方法としては電子媒体として利用するほかない。しかも、電子媒体で利用するとしても、CD数枚に格納された画像ファイルの中から特定の作品の草稿を探し出すことは相当の時間と労力を要する。利用の便を向上させるためには、何らかの方法で直ちに画像を検索できる形にする必要がある。

本画像目録は、このような作業の一環であり、上述の資料目録から峠三吉の自筆草稿という原資料の画像を迅速かつ容易に呼び出せる形にしたものである。上述のように画像そのものを印刷して提供することも選択肢として考えられないわけではないが、費用の制約と使い勝手を考え、目録自体をCDで提供する。詳細は後に述べるが、このCDに収められたデータを利用することにより直ちに当該資料を画像として表示することができる。

この峠三吉自筆草稿の画像目録は決して完全なものではない。現在知られる資料を網羅しているとしても、自筆草稿のすべてを網羅するという保証はない。

さらに所収の資料の画像についても、原資料自体の劣化、フィルム撮影の問題、電子化過程の問題など多くの問題が残されている。原資料に当たる必要のある場合も少なくない。このような難点を残しているにもかかわらず、この種の資料画像が、資料へのアクセスを容易にし、峠三吉の作品を理解するきわめて有用なツールとなることは確かであろう。

この画像目録は峠三吉の自筆草稿のみを対象とする。日記、書簡等も含む峠三吉関連資料の網羅的な画像目録、少なくとも峠の自筆資料の網羅的な画像付目録が望ましいことは明かである。将来的には、この自筆草稿画像目録を拡張して、自筆資料あるいは関連資料全体の画像目録を作成することを計画している。そしてその準備も遅々としてではあるが、整えつつある。

さらに、デジタル化の完成の後には、テキスト化の課題が存在する。手書原稿を活字として起こす作業である。翻刻はわれわれの時間と能力をはるかに超える作業であり、ここでは将来の課題として指摘するにとどめるが、この作業のためにもデジタル画像が大きな助けとなることは確かであろう。

本画像目録は小さな最初の一步に過ぎない。多くの欠陥、誤謬、誤認もあろう。読者諸氏のご叱正と、ご批判を仰ぎたい。完成されたものではないにせよ、この目録が、将来の峠三吉研究と、ひいては原爆文学、戦後広島の文学・文化活動、原爆被害という未曾有の惨事を体験した地域とそこに生きた人々の営みを理解する一助となれば、编者にとっては望外の幸せである。

2007年10月

编者

松尾 雅嗣

## 1 資料と収録範囲

本目録とその基礎となった『資料目録』の分類は、広島市立中央図書館刊行の『峠三吉資料目録』の分類を基本的に踏襲したものであるが、峠三吉自筆の資料を優先することと、今後の新資料追加の可能性とを考慮に入れ、これに相当の変更を加えたものである。勿論、『資料目録』あるいは本目録の分類や配列が唯一のものではないし、分類の境界が常に明確であるわけではない。また、個別資料についてはどの項目に分類するかが問題になるケースも当然ある。一部の資料を二箇所にて二重記載したのも、利用者の便を考慮したという側面もあるが、多分にこの理由によるものでもある。

本目録の基になった資料分類は以下の通りである。

### 1 自筆草稿類

これは、さらに（１）詩、（２）小説・童話（作文含む）、（３）短歌・俳句、（４）評論・主張（宣言類、覚書含む）、（５）台本・シナリオ類、（６）絵画類（習字含む）、に下位区分した。

### 2 日記類（手帳など含む）

### 3 書簡：電報、グリーティングカードなども含む。

これは、（１）峠三吉差出、（２）峠三吉宛、（３）峠和子関係に下位区分した。大量に残っている「われらの詩」の会宛の書簡などは7の文化活動に含めた。

### 4 蔵書：図書のみ

ただし、峠三吉の関わった詩集などの図書は、次項「雑誌・同人誌」に記載した。

### 5 雑誌・同人誌類

膨大な数の雑誌・同人誌類は、生前と没後とに関わらず、（１）峠三吉編集、発行、峠作品掲載、峠作品紹介、批評、言及等あるものと、（２）その他の雑誌・同人誌に区分した。一部は参照の便を考え、双方に記載した。

「雑誌・同人誌類」と次項の「新聞・機関紙類」の判別は必ずしも容易ではない。分類に問題ある資料なしとしない。

### 6 新聞・機関紙類及び切り抜き

新聞・機関紙などの一部が丸ごと保存されているものと切り抜きとは、敢えて区分せず、（１）生前のものと（２）没後のものに二分した。峠及びその作品に言及ある資料はいずれにも含まれる。但し、没後の新聞：機関紙等で、峠三吉及びその作品に言及のあるものは、参照の便を考慮し、9「没後資料」にも併載した。

### 7 文化活動

峠三吉の多岐にわたる文学・文化活動を明確に区分することは困難であるが、活動母体となった主宰団体と所属団体を基準として、（１）青年文化連盟関係、（２）YMCA関係、（３）瀬戸内海文庫関係、（４）広島詩人協会『地核』関係、（５）『新日本文学会』関係、（６）われらの詩の会関係（これには、われらの詩の会宛書簡、応募原稿を含む）、（７）『原子雲の下より』関係（応募原稿を含む）、（８）その他の文化活動・平和運動関係に大別した。最後の項目には明確に分類しがたい資料が相当に含まれる。なお、評論・宣言・覚書など自筆のものは、原則として「自筆草稿（４）評論・随想」に収録したが、一部については双方に併載した。

## 8 履歴関係

峠三吉の履歴に関する資料、遺品、告別式関連の資料はここに記載した。(1) 履歴関係、(2) 写真・絵葉書・名刺、(3) 遺品など、(4) 告別式関係、(5) その他に区分した。

## 9 没後資料

峠三吉没後の関係資料をここに分類した。但し、新聞・機関紙類、切り抜きは、上述のように6「新聞・機関紙類及び切り抜き」にも掲載した。

すべての資料が、この分類に容易に当てはまるわけではない。例えば、ノートなどひとつの綴りになっているものは一括して分類処理できるが、「詩集」と題された綴りやノートに「短歌」や「日記」が入っている場合は、二重記載で相互参照形式とせざるを得ない。雑誌や新聞類の分類も同様である。それゆえ、必要に応じて分類ごとに注釈や説明を付け加えた。

分類した資料の配列は、原則として年代順、あるいは書簡などは人名順とした。一綴りのノートなどに記録されたものについては、記載順に整理したが、これは「詩集」などと題したノートの例を見れば明らかのように必ずしも年代順になっていない。この場合は、あえて日付順に配置し直すことはしなかった。年代順に配列する場合、年月日を確定できない資料も多く、「不明」として各分類の末尾に置いたが、年代順から言えば問題ありと思われるケースも少なくない。それゆえ、中央図書館資料、東京資料ともに、旧版あるいはマイクロフィルム画像の配列順を優先して、年代を確定できない場合でも、順序を入れ替えずに残したものもある。

本自筆草稿画像目録は、電子画像化した中央図書館資料、東京資料、その他の資料のうち、峠三吉自筆の作品草稿の目録と画像を一体化したものである。具体的には、詩、小説、童話、短歌、俳句、劇作台本、シナリオ、評論、主張の草稿を収録した。檄文、アピールの草稿も含む。また、作品と必ずしも直接のかかわりはないが覚書・メモの類も基本的に収録した。また、自筆のものとはいえ、日記、書簡類は原則として収録対象から除外した。これは現在無条件には公開できないものが含まれるからである。

この画像目録の収録対象は、上述『資料目録』所収の資料のうち、「自筆草稿類」と分類したもののうちの

- (1) 詩、

- (2) 小説・童話、
- (3) 短歌・俳句、
- (4) 評論・主張、
- (5) 台本・シナリオ類

に記録された資料である。しかし、(6) 絵画類（習字含む）は収録対象から除外した。「自筆草稿目録」とは題するものの、台本には、謄写印刷のものも若干含めた。また、資料番号 M1920「座談会記録 文学運動をどう進めるべきか 一破防法をめぐって」などのように記録者が不詳であり、必ずしも峠の手になるものとは言えないものも含まれる。

さらに上記(1)～(5)の資料のうちには、資料番号 M1902 のように、何らかの理由で例外的に画像が存在しないものもある。この種の資料も本目録には記載したが、「画像なし」と明記した。

この目録では、『資料目録』にあった誤りは、これを訂正した。従って、本目録と『資料目録』の間には若干の異同がある。

目録に収録した電子画像は、Acrobat の PDF 形式で作成されている。CD版の目録を使用するためには、最小限 Acrobat Reader が必要である。このソフトはインターネットから容易にダウンロードできる。

## 2 電子画像の作成と処理上の問題

ここでは、目録の電子画像使用の前提として、電子画像作成の詳細とその際遭遇した問題の処理方法について述べておく。本節以降(2～4節)の内容に関しては、別稿(松尾雅嗣(2006)「峠三吉自筆草稿画像目録」、『広島平和科学』, 28、45-62)でも詳細を記したので、参考までに巻末に付録として(CD版ではPDFファイルとして)掲げておく。

目録作成の手順は大略以下のとおりである。まず、フィルムの画像をひとコマごとに tif 形式のファイルに変換する。次いで、元のフィルム画像の不要な余白のトリミング、画像の回転などの編集作業を必要に応じて行う。元の画像は、フィルムのリール番号とコマ番号がファイル名として与えられているだけであり、資料との対応をつける必要があるため、tif のファイル名を『資料目録』の



資料番号に変換する。一件の資料が複数画像から成る場合は、適宜枝番号を付ける。他方、フィルムに撮影されていない資料は、スキャナーを利用し、直接 tif 形式の画像とする。ファイル名は同様の方式で与える。

一度書かれた原稿などの上に、付箋を貼り付けて追記、修正などを施した資料もある。この場合は、付箋を付けた状態と付箋を裏返した元の状態それぞれを示す二つの画像を収録した（資料番号 T0040 の10頁目など）。

この後、tif 形式の画像を PDF 形式に変換し、複数画像から成る資料は連結してひとつの PDF ファイルとする。上述のように大半がマイクロフィルム画像から作成されたので、目録に収めた電子画像も若干の例外を除きすべてモノクロである。

今回提供する画像には、原資料、元のフィルム画像、作成手順に起因するいくつかの難点が残っている。

第一に、フィルム画像が極めて不鮮明で、書かれた文字の判読が困難なものも少なくない。このため、同じ頁や用箋が二度撮影された資料もある。この場合には、一方だけを残した場合もあれば、画像を取捨することなく両方を電子画像として示した場合もある。いずれの場合にも目録本体に複数回撮影された旨の注釈を付した。文字の判読困難は、自筆草稿の用紙の変色、特に黒化、ペン書き文字、特に黒以外のペン書き資料の退色、などが主な理由である。また、用紙の裏表に記された草稿には、裏面の文字が移ったため、程度の差はあるが読みにくくなったものもある。この種の資料については将来原資料を再度撮影することも考慮しなければなるまい。

第二に、使用された用紙は、個々の資料、具体的には草稿（草稿と覚しき断片も含む）と境界が必ずしも一致するわけではない。一枚の用紙に複数の草稿が記されることもあれば、一編の詩が複数の用紙に部分的に記されることもある。具体的には、次のような事例が頻繁に見られる。

- (1) 「詩集」などと題されたノートの場合、一編の詩が頁の途中から始まり、それ以降の頁の途中で終り、また次の草稿が始まる例。

(2) おそらくは戦後の物資不足、特に用紙不足によるものと推察されるが、綴りになっていない用紙一枚を使用する場合にも、一編の草稿を記した後、余白があれば別の草稿が記されている例。極端な場合、用紙の上下あるいは左右を回転させてあるいは斜めに回転させて記されることもある。また、一綴の用紙についても、用紙の左右と上下使用が混在している例もある(資料番号 T0016「小説 ヨハン少年物語(バルバラの恩返し)草稿」、M1719「覚書『落書(3)』(抄録帳) 峠光芳」の2枚目など)。このような画像を見るときには、資料ごとに、場合によっては見開き頁ごとに、PDF画像を回転させて見る必要が生ずる。

上記(1)、(2)の場合、些か煩雑冗長ではあるが、当該資料を特定する目的で、画像内で当該資料を赤枠で囲って示してある。

物資不足、とりわけ用紙不足の影響であろうか、ビラ、反古などの裏面に記された草稿も相当数に上る。この場合、本来は用紙の裏面であったものを草稿の表と解し、本来の表を裏面として扱った。このように利用されたビラなどは作品の理解には直接の関わりはないが、峠の創作活動の一端を窺うよすがともなることから、目録部分に「・・・の裏面使用」と明記し、画像としても草稿部分の後ろに付け加えた場合もある。例えば、資料番号 M1958「離脱」ファイルの最初の頁はこの詩の草稿であり、この詩は「日英豪交歓音楽会会員券」の裏面に記されたものである。ファイルの2頁目には、本来の表である会員券が示される。

### 3 目録の形式と構成

既に述べたように、本画像目録は電子媒体で提供される目録である。印刷した冊子体でも刊行するが、冊子体はあくまで二義的な資料である。それゆえ、以下の説明もCDで提供される目録を念頭に置く。

本画像目録の形式、構成及び内容は、若干の修正と変更はあるが基本的には上記『資料目録』を踏襲する。前述のように若干の例外はあるが、資料の分類、内容、形式、配列等はすべて『資料目録』に従っている。誤解を恐れずに言え

ば、本画像目録は、『資料目録』の個々の資料にその電子画像を対応させたものである。

### 3. 1 資料詳細

本目録の基礎となった『資料目録』における資料の記述は、次の項目から構成されている。

- 1 資料番号
- 2 資料名
- 3 資料詳細
- 4 日付
- 5 形態等備考

本目録では、2の「資料名」と3の「資料詳細」を合わせて一項目とした。『資料目録』では、それぞれの項目に記載する内容については、広島市立中央図書館版掲載分は、明らかな誤植や誤謬を除き、ほぼその記載を全面的に採用した。他の資料については、新たに確定し記載した。本目録では、これに若干の変更を施した。各項目の詳細は以下の通りである。

#### (1) 資料番号

本目録の資料番号は、アルファベット1文字と4桁の数値から成る。最初のアルファベット大文字は寄贈者・保管者を示す。

M：三戸頼雄・今井千栄子氏寄贈資料

K：好村富士彦氏寄贈資料

O：尾津訓三氏寄贈資料

I：池田正彦氏寄贈資料

G：『原子雲の下より』応募原稿

—以上、広島市立中央図書館所蔵—

T：峠鷹志氏所蔵資料（東京資料）

S：坂田（旧姓平岡）和子氏寄贈、保全の会保管の資料

これに続く4桁の資料番号は、中央図書館資料については旧版の資料番号を、東京資料については、前掲池田・松尾（編）「峠三吉東京資料目録」の番号を基本的に踏襲した。後者は、マイクロフィルム収録順に従い、われわれが新たに付したものである。

坂田和子氏寄贈資料及び、保全の会保管資料にはこの番号はないので、新たに番号を付した。坂田資料は、独自の番号を付けた。また保全の会保管資料については、池田氏が保管の責任者でもあることから、便宜的ではあるが、中央

図書館の池田寄贈資料番号に続けた。資料番号 I0115 までは池田正彦氏寄贈資料、資料番号 I0116 以降が保全の会保管資料である。

旧版目録などで枝番が付されているもの、あるいは見落としにより新たな番号を付す必要があるものなどについては、必要に応じて原資料番号にアルファベット大文字（A、Bなど）を付して区別した。

## （２） 資料名

『資料目録』では、独立の項目であるが、本目録では次項「資料詳細」と合わせて、3. 2に示すように「資料名」とした。

本目録では、詩、俳句、短歌等のジャンルは別途分類されているので、「資料名」としては特に示さず、表題のみ与えた。

資料中には、明らかに詩の草稿断片と思われるものも少なくない。これらはすべて<無題>とした。無題のものについては、断片も含め、冒頭の一、二文節を「」で括って示した。「無題」と題されたものについてはこの標記は用いず、単に資料名を「無題」とした。

## （３） 資料詳細（本目録では、「資料名」として前項と併合）

資料の内容を具体的に記す。ルビは原文にあるもののみに付した。また、判読不能の文字は■で示した。

## （４） 日付

日付は資料から確定できるもののみを示した。原文が西暦を使用している場合も含め、年（昭和元号2桁）、月（2桁）、日（2桁）で示す。XXは不明を示す。大正と平成については年の前にそれぞれT,Hを付した。月日及び日のみ不明の場合は、それぞれ年のみ、年月のみ示す。

## （５） 形態等備考（本目録では単に「備考」とする）

広島市立中央図書館版に記載のあるものはそれを採用した。適宜、補足情報、編者の註などを記した。

### 3. 2 目録の構成と内容

上述のように、本目録の構成と内容は『資料目録』をほぼ踏襲している。例えば、本目録の冒頭「（１）詩」の先頭部分は次のようになっている、

資料番号	資料名	日付	備考
M1934	裸木	不明	鉛筆書 A 5 ザラ紙 1 枚 署名
M1935A	そよ風	不明	鉛筆書 A 5 ザラ紙 1 枚
M1937	懸命に立っている 裏面 「生まれて...」	不明	ペン書 葉包紙 1 枚
M1709B	*詩集「潮鳴り」	11~12 晩春	M1709 所収

本目録の冊子体の版とCD版の大きな違いは二つある。第一は、CD版では、目録の青の太字（ボールド体）で示された資料番号がハイパーリンクになっており、任意の資料番号をクリックすれば、当該資料の画像が表示されることである。例えば、上掲目次の資料番号 **M1935A** をクリックすれば、この資料（「そよ風」自筆草稿）の画像が表示される。詳細は次節で述べる。

なお、CD版目録中には、例外的に青のボールド体になっていない資料番号もある。これは上述の画像の見つからない資料であり、備考欄に「画像なし」と記されている。この場合、資料番号をクリックしても画像は現れない。

第二は、CD版では、冊子体とは異なり、作品名、草稿などの表題が判れば、比較的容易に検索が可能である。CD版録はマイクロソフト **WORD** のファイルとして提供されるので、これを検索することも可能である。しかし、資料検索の便のために、本目録には表題または冒頭の一、二語ないし文節を抜き出してアイウエオ順などに配列した表題索引を用意した。表題索引には、「日付」と「備考」の情報は与えられていない。

加えて、CD版には冊子体で刊行した『峠三吉被爆日記』（引用文献参照）を付録として収めた。利用には「峠三吉被爆日記」フォルダーの「はじめに」ファイルを開けばよい。

#### 4 CD版画像目録の使用方法

ここではCD版の利用方法を述べる。付録として収めた『峠三吉被爆日記』の利用法については特に説明の要はないと思われるので割愛する。

なお、CD版は冊子体の本目録には添付しない。利用希望者には、末尾の利用申込書の提出後、無償で提供する。

CD版の提供に当たっては、当然のことながら、

研究目的以外には使用しないこと、

目録利用による成果を公表する場合は、原資料所蔵者と目録作成者を明記すること、

そのままの形であれ加工した形であれ、第三者に譲渡・提供しないこと

が条件となる。

本目録の利用のためのOSは **Microsoft Windows XP** である。これ以降の **Windows** のバージョンについてはテストしていない。提供されたCDをそのまま利用することも可能であるが、ハードディスクに適当なフォルダーを作成してCDの内容をすべてそのフォルダーにコピーしておいたほうがはるかに使い勝手がよい。「被曝日記」も同様である。このとき必要なメモリは約600MBである。

本目録に収録された資料はすべて **Acrobat** のPDFファイルとして提供される。従って、前述のように本目録の使用には **Acrobat Reader** が必要である。

具体的使用の手順は以下のとおりである。このとき、**Acrobat Reader** は予め開いておくことが望ましい。なお、以下で述べる「前書と解説」、「草稿画像目録」、「表題索引」の文書ファイルはいずれも、ブックマークやハイパーリンクの挿入を含め、利用者が改変可能である。言うまでもなく改変の責は利用者に戻る。

- (1) 「目次」というファイルを開く。このファイルは **WORD** 文書であり、目次の任意の項目をクリックすれば、本前書を含め、該当の箇所を呼び出すことができる。**CTRL** キーとクリックを併用する設定になっていることもあるので、適宜設定を変更する。

資料の画像を呼び出すには、目録本体と表題索引のいずれを使用することもできる。いずれかをクリックすればよい。目録本体については、詩、小説・童話、短歌・俳句、評論・主張、台本・シナリオ類のいずれかを選択することもできる。表題索引では、50音の各行に直接ジャンプすることもできる。

目録、表題索引のいずれでも、まず目録や索引を呼び出して、後にジャンルや50音の任意の行にジャンプすることもできる。

(2) (1) で呼び出した画像目録と表題索引は、先頭から順に見る場合と、WORD などの検索ツールを使って特定の語句を含む資料や、他の特定の条件を満たす資料を検索することもできる。この検索方法は、言うまでもなく、目録と索引にある文字列についてのみ可能であり、画像化された文字(列)情報を対象とするものではない。

(3) 資料が特定されれば、資料に付された資料番号をクリックすれば、画像が表示される。複数画像からなる資料は、ひとつのPDFファイルとして連結されているので、Acrobat Reader の機能を使い任意の順で表示できる。Acrobat Reader は利用者にとって最適の拡大率で画像を表示するとは限らないので、表示された画像は拡大・縮小する必要がある。画像の拡大、縮小、回転なども同様に Acrobat Reader の機能を利用する。

なお、Acrobat の標準版を利用する場合、利用者の行った変更が、削除も含めそのまま記録されることもある。このような改変の責は利用者に帰する。

表示した画像の印刷、複写は、上述の3つの条件の下で利用者の自由である。

(4) 任意の資料の画像を見終わった時には、画像を閉じ、必要に応じ、上記(2)～(3)を繰り返す。ツールバーでWEB用のアイコンを表示しておけば、画像を呼び出したファイルに戻ることもできる。

## 註

- 1 詳細については、松尾・池田(2004)、「まえがき」参照。
- 2 『原爆詩集』(峠三吉著 青木書店、昭和27年)、『にんげんをかえせ・峠三吉全詩集』(且原純夫解説 風土社、昭和45年)、『峠三吉作品集 上・下』(増岡敏和解説 青木書店、昭和50年)など。
- 3 池田・松尾(2004a), 104-109 参照。
- 4 池田・松尾(2004b)。
- 5 この画像は、広島大学ひろしま平和科学コンソーシアムのホームページ

(<http://home.hiroshima-u.ac.jp/heiwa/cons/05.html>) でも公開している。

## 引用文献

- 池田正彦・松尾雅嗣 (2004a) 「峠三吉東京資料：峠資料電子化の文脈で」、『広島平和科学』, 26, 101-131
- 池田正彦・松尾雅嗣 (編) (2004b)、峠三吉被爆日記、広島大学ひろしま平和科学コンソーシアム
- 広島市立中央図書館 (編) (1990)、峠三吉資料目録、広島市立中央図書館
- 松尾雅嗣・池田正彦 (編) (2004)、峠三吉資料目録、広島大学平和科学研究センター研究報告 32

## 謝辞

本研究には、平成15年度前期広島大学研究支援金「原爆文学を中心とした広島原爆資料の目録作成と電子化の研究」(研究代表者：松尾雅嗣)、平成17-19年度科学研究費補助金基盤研究(C)「自筆資料を中心とした原爆文学資料の電子化の研究」(研究代表者：松尾雅嗣)の支援を受けた。

峠三吉著作権継承者である峠鷹志氏と、マイクロフィルム版の所蔵者である広島市立中央図書館には資料閲覧とデジタル化に際しお世話になった。

広島文学資料保全の会の池田正彦氏には、この研究の機会を提供していただくとともに、本目録の校閲、資料の整理、資料所有者との仲介、共同研究など多くの協力と支援をいただいた。

広島大学大学院国際協力研究科博士課程前期学生の深林真理さん、前田さららさん、橋本金平さん、徳光祐二郎さん、安田女子大学の日高愛さん(いずれも当時)には資料のデジタル化でお世話になった。

ここに記して感謝の意を表したい。



## 峠三吉自筆草稿画像目録

- (1) 詩
- (2) 小説・童話
- (3) 短歌・俳句
- (4) 評論・主張
- (5) 台本・シナリオ

### (1) 詩

資料番号	資料名	日付	備考
M1934	裸木	不明	鉛筆書 A5 ザラ紙1枚 署名
M1935A	そよ風	不明	鉛筆書 A5 ザラ紙1枚
M1937	懸命に立っている 裏面 無題「生まれて...」	不明	ペン書 薬包紙1枚
M1709B	*詩集「潮鳴り」	11～12 晩春	M1709 所収
T0380A	表紙：詩集 <small>HATODOKETI</small> 鳩時計 みつよし	13 08～16 01 01	T0381～T0499 を所収
T0381	白い生活より	13 08	『療養生活』入選
T0382	テント虫		頁下段
T0383	ホタル		頁下段
T0384	美しい日は去る	13 10	『療養生活』首位入選
T0385	暑い日	14 07	『療養生活』入選
T0386	柘榴		『療養生活』入選
T0387	夏祭	13 09	『療養生活』入選
T0388	秋の小山		
T0389	青い星	14 03	『療養生活』入選
T0390	ゆふべ	14 03	『療養生活』入選
T0391	白蛾	14 10 29	
T0392	ぼんがん靴		

T0393	あさ・ひる・ばん (タカシをよめる)	14 晩秋	
T0394	無題「よいあさであった…」		
T0396	たばこ		
T0397	夏の夜		
T0398	走りゆく波	14	2枚目は上部に T0399 あり
T0399	くすり詩抄	14 07	上段使用
T0400	無題「銀の木靴が…」		他作品の一部か
T0401	無題「ヒルムのように…」		他作品の一部か
T0402	瞼の裏の印象		
T0403	瀕死の金魚		
T0404	秋の林		
T0405	石露	14 10	
T0406	<small>とうおう</small> 冬鶯		
T0407	街	14 12 23	
T0408	森	14 11 22	『療養生活』入選
T0409	春雪の夜 (ポストへと或る便りを)	15 02	
T0410	雪解	14 12 26	
T0411	寂寥	15 春	
T0412	猫抱いて		
T0413	早春		頁下段 『療養生活』及『療養日記』輯録
T0414	瞑想	15	
T0415	或る夜の私・Q氏		
T0416	庭で		頁下段 『療養生活』及『療養日記』輯録
T0417	椿と山脈		
T0418	沈丁の花		
T0419	追恨		
T0420	或る唄		
T0421	二つの草花	14 04 26	

T0422	希ひ	15 01 15	『健康ニュース』 15年6月号掲載 欄外メモ
T0423	わが季節の Image		
T0424	ほゝえみ		
T0425	病ひ篤き時の或る心象		上段欄外
T0426	短劔		
T0427	リリィ島では (小唄風に)		
T0428	習作		
T0429	みどりいろの夢		
T0430	押花に寄せて	15 05 27	
T0431	洋紅の詩		
T0432	夕方		
T0433	空をごらん		
T0434	道化師の朝の唄	15 05	
T0435	デス・マスク		
T0436	青い焰のやうに		
T0437	心のたから		
T0438	ひかり		
T0439	おとうと (スティーブンソン・ほんあん)		
T0440	春の唄 (小英雄を読みて)	15 05	
T0441	たそがれの心象		
T0442	夏祭	13 07	『療養生活』 入選
T0443	幻影	12 08	『療養生活』 入選 欄外メモ
T0444	臥椅子にて	15 10	
T0445	心の風景 (1) 飛行機 (2) 潜航艇	15 10	
T0446	無題		
T0447	夢魔		
T0448	訪れ		

<b>T0449</b>	星を見ながら眠るとき		
<b>T0450</b>	朝の徑にて	15 10	
<b>T0451</b>	眞白なる壺		
<b>T0452</b>	峠の秋		
<b>T0453</b>	無題		
<b>T0454</b>	わが愛するもの	15 10	
<b>T0455</b>	永遠の座~故谷山巖君の靈に捧ぐ~	15 11 21	
<b>T0456</b>	絶頂	15 10	欄外メモ
<b>T0456B</b>	ひめぐと		
T0457	絶頂	15 10	T0456 と同じ
<b>T0458</b>	春の夜の言葉		
<b>T0459</b>	思ひ出		
<b>T0460</b>	灯を		
<b>T0461</b>	鳥		
<b>T0462</b>	祈り	16 02 08	
<b>T0463</b>	美しき序詩		
<b>T0464</b>	黄金の牛		
<b>T0465</b>	季節の鈴		
<b>T0466</b>	灯ともし頃		
<b>T0467</b>	初秋の島		
<b>T0468</b>	雲		
<b>T0469</b>	白き梢		
<b>T0470</b>	憧憬（海を隔てての）	16 05	欄外メモ
<b>T0471</b>	アラビヤの黄金		
<b>T0472</b>	遺す言葉		
<b>T0473</b>	岬の家		
<b>T0474</b>	汽笛に寄する想念		
<b>T0475</b>	歴史		
<b>T0476</b>	かたばみ		

<b>T0477</b>	別離		欄外メモ
<b>T0478</b>	水禽（みづどり）		
<b>T0479</b>	旗		
<b>T0480</b>	まこと	16 07	
<b>T0481</b>	虹	16 08	欄外メモ
<b>T0482</b>	自然意志		
<b>T0483</b>	お空に住んでいるもの		
<b>T0484</b>	ネギの根		
<b>T0485</b>	たのしさ		
<b>T0486</b>	お正月		
<b>T0487</b>	小鬼		
<b>T0488</b>	青い海の絵		
<b>T0489</b>	勉強		
<b>T0490</b>	ピアノ		
<b>T0491</b>	手	16 10	欄外メモ
<b>T0492</b>	南瓜畑を歩きし時		
<b>T0493</b>	川端に涼む若き母親		
<b>T0494</b>	孤獨	16 09	
<b>T0495</b>	中年の労働者		
<b>T0496</b>	鳶と私	16 02	
<b>T0497</b>	私の世界	16 10～16 11	
<b>T0498</b>	秋空		
<b>T0499</b>	*引用：コサック古代民謡より		
<b>T380B</b>	裏表紙		
<b>T0261A</b>	詩集：つる草文集 みつぼしの署名 「古きノートより」と「詩集（主として小曲） 峠 みつよし」を合冊	14 09～20 03	T0262 - T0322 を所収

<b>T0262</b>	詩集「古きノートより」(合冊の1)		T0262 - T0299 を所収
<b>T0263</b>	白い外套 (奉秋の夜に)		
<b>T0264</b>	僕の手	14 09	『療養生活』掲載
<b>T0265</b>	早春譜	11	
<b>T0266</b>	埋火		
<b>T0267</b>	椿	11	
<b>T0268</b>	つとめ帰り	13	
<b>T0269</b>	ざくろ	13	
<b>T0270</b>	回想	13 12 24	『療養生活』掲載
<b>T0271</b>	銀の笛		
<b>T0272</b>	笛	11	
<b>T0273</b>	月夜	11 08	
<b>T0274</b>	月夜	11 08	
<b>T0275</b>	雨	11 09	
<b>T0276</b>	花散れば	11 10	
<b>T0277</b>	夕焼け	11 10	
<b>T0278</b>	河	11 10	
<b>T0279</b>	渚には	14 08	
<b>T0280</b>	私	13	
<b>T0281</b>	英魂に捧ぐ (英霊を讃える歌応募作)	14 10	
<b>T0282</b>	英霊讃頌	14 10	
<b>T0283</b>	大陸行進曲 応募作	13 秋	
<b>T0284</b>	朝静か	14 09	
<b>T0285</b>	凍雲	14 10	
<b>T0286</b>	石露		
<b>T0287</b>	からの花 ~ 西お兄よりもらいし花	15 02 16	
<b>T0288</b>	王冠	14 11 22	
<b>T0289</b>	勤労奉仕の歌	14 10	
<b>T0290</b>	月夜	14 08	『療養生活』掲載

<b>T0291</b>	悲しみ	14 11	
<b>T0292</b>	愛国行進曲		
<b>T0293</b>	誰も知らない喫茶店	14 12 26	
<b>T0294</b>	或る突撃の歌		
<b>T0295</b>	菊 国民歌謡応募	15 10	
<b>T0296</b>	憧れ	15 10	
<b>T0297</b>	我が家		
<b>T0298</b>	母		
<b>T0299</b>	幻影	12 07	「はじめて活字となりし詩」とあり 『療養生活』掲載
<b>M2093</b>	大土堤に上れば	16	ペン書 原稿用紙3枚 (№1 欠落)
<b>T0300</b>	詩集 (主として小曲) 峠みつよし (合冊の2)		T0301 ~ T0322 所収
<b>T0301</b>	雪崩	18 06 25	
<b>T0301B</b>	無題「われ無限へ…」		
<b>T0302</b>	梳雲	18 10	
<b>T0303</b>	姉のコラールの為に (2)	19 03	
<b>T0304</b>	嘆きの聖母 (美戸律子曲コラール一篇に附して)		
<b>T0305</b>	調べの想い (絵に添えて)	19 04 21	
<b>T0306</b>	生くるといふ事は	19 05	
<b>T0307</b>	或る日	19 05	
<b>T0308</b>	二人の姉	19 05	
<b>T0309</b>	愛	19 05	
<b>T0310</b>	み楯の日	19 08 16	
<b>T0311</b>	心の園	19 08 17	
<b>T0312</b>	近寄っては!	19 08 17	
<b>T0313</b>	懐しき	19 08	
<b>T0314</b>	神のよろこび	19.8	

<b>T0315</b>	ほゝえみ	18 09 03	
<b>T0316</b>	悲しみの	19 09 03	
<b>T0317</b>	痴愚	19 06	
<b>T0318</b>	友 (T. T. 君へ)	19 09 13	
<b>T0319</b>	石露の花	19 09 18	
<b>T0320</b>	秋の人	19 10	
<b>T0321</b>	驚きと歓びと	19 10	
<b>T0322</b>	花鉢	20 03	
<b>T0261B</b>	合冊 裏表紙		
<b>T0136A</b>	詩集：「NOTE BOOK 詩 (三)」	16 ~ 17 初頭	T0137 ~ T0174 所収
<b>T0137</b>	いたみ	16 11	
<b>T0138</b>	勇者	16 11	
<b>T0139</b>	宝石	16 02	
<b>T0140</b>	追想	16 11	
<b>T0141</b>	晩秋茶房譜	16 11	
<b>T0142</b>	珠数のやうに	16 11	
<b>T0143</b>	その人～聖画に題して	16 11	
<b>T0144</b>	海をあをきを	16 11	
<b>T0145</b>	野にて	16 11	
<b>T0146</b>	秋の思ひ	16 11	
<b>T0147</b>	盲目の児と瑪瑙の塔	16 11	
<b>T0148</b>	失ひ	16 11	
<b>T0149</b>	白い寝巻	16 12	
<b>T0150</b>	方向	16 12	
<b>T0151</b>	病臥しつつ	16 12	
<b>T0152</b>	原生	16 12	
<b>T0153</b>	らっきょうに寄せて	16 12	
<b>T0154</b>	昭和十六年十二月八日の詩		



<b>T0155</b>	流れに歌ふ	16 12	欄外メモ
<b>T0156</b>	紅の章 <sup>シムシム</sup>	16 12	
<b>T0157</b>	顯示	16 12	
<b>T0158</b>	夢いまだ	16 12	
<b>T0159</b>	求め	16 12	
<b>T0160</b>	薄暮	16 12	
<b>T0161</b>	此の時	16 12	
<b>T0162</b>	恩寵	16 12	
<b>T0163</b>	花を入ると	16 12	
<b>T0164</b>	街角の陰	16 12	
<b>T0165</b>	小さい詩	16 12	
<b>T0166</b>	燐寸の火	16 12	
<b>T0167</b>	動いてはいけない	17 01	
<b>T0168</b>	心に	17 01	
<b>T0169</b>	立札	17 01	
<b>T0170</b>	眼	17 01	
<b>T0171</b>	湖	17 01	
<b>T0172</b>	親切にしてやったとき	17 01	
<b>T0173</b>	無題「それはほんの他愛のない…」	17 01	
<b>T0174</b>	あらはれ	17 01	
<b>T0136B</b>	裏表紙		
<b>T0175A</b>	シ(四) 峠 光芳	17~18	T0176 - T0213 所収
<b>T0176</b>	過程	17 01	
<b>T0177</b>	立場	17 01	
<b>T0178</b>	メシ(苦しき日に)	17 01	
<b>T0179</b>	一或る苦しき日に 六編	17 01	
<b>T0180</b>	横さまの陽かげの中に~雨之助先生の為に~	17 02 25	
<b>T0181</b>	残照(まどみの療友達へ)	17 02 初旬	『療養生活』17年4月号掲載

<b>T0182</b>	水音 「何処かで・・・」	17 02	
<b>T0183</b>	噫！否！（死の刻に寄せて）	17 02	
<b>T0184</b>	美しき時（青春）の秘密		
<b>T0185</b>	天才	17 03	
<b>T0185B</b>	星かげ		
<b>T0186</b>	「七洋制覇の歌」応募作		
<b>T0187</b>	河沿ひに歩いてみると	17 06	
<b>T0188</b>	求め		
<b>T0189</b>	花を手折るときに		
<b>T0190</b>	結核恢復者（複十字人）	17 10	
<b>T0191</b>	負けさうな刻	18 03	
<b>T0192</b>	早吉の死（頼雄への頼りに添えて）		早吉：三戸家の雄鶏
<b>T0193</b>	春夜の賦		
<b>T0194</b>	聲音	18 09	
<b>T0195</b>	ダリアと赤児	18 10 25	
<b>T0196</b>	一途	18 09	
<b>T0197</b>	朧夜	18 10 26	
<b>T0198</b>	領域	18 10 28	
<b>T0199</b>	かかる時にも	18 06	
<b>T0200</b>	五月	18 06	
<b>T0201</b>	結婚	18 06	
<b>T0202</b>	愛苦	18 11 03	
<b>T0203</b>	曇天薄暮	18 11	
<b>T0204</b>	透身の踊り	18 11 23	
<b>T0205</b>	日本は勝つ（山本兵長の記事に感動して）	17 08 26	
<b>T0206</b>	或る未明の戦闘（突撃）	17 03	
<b>T0207</b>	梅雨曇りの朝 ー病院にてー	18 06	
<b>T0208</b>	暁の戦闘	17 03	
<b>T0209</b>	遠い谷間	18 06	

<b>T0210</b>	地圖	17 02	
<b>T0211</b>	日輪の国		
<b>T0212</b>	みどりなす		
<b>T0213</b>	*覚書：ショパンの“澄心”について		
<b>T0175B</b>	裏表紙		
<b>T0101A</b>	表紙「(詩二) ゆたか・みつぼし・光芳・峠」、 「推稿一束 回想のよすがに みつよし」と記	15 ~ 21	T0102 ~ T0135 所収
<b>T0102</b>	比喻		
<b>T0103</b>	夕ぐれ (映像)		
<b>T0104</b>	おもかげ	15 03	別の詩あり？
<b>T0105</b>	幻想の地に	15 05	
<b>T0106</b>	鞆		
<b>T0107</b>	郷里		
<b>T0108</b>	便りに添へて	15 05	
<b>T0109</b>	聾啞学校に移譲せられたる旧校舎の講堂に寄せて		欄外メモ
<b>T0110</b>	彼		欄外メモ
<b>T0111</b>	夕ぐれは		
<b>T0112</b>	ゆたかな寂しさの		
<b>T0113</b>	一筋の道 ~ 故成瀬軍曹に捧ぐ~		
<b>T0114</b>	ジャック (戦死した犬の為に)		
<b>T0115</b>	初秋の頃	15 08	
<b>T0116</b>	そのまぶた		
<b>T0117</b>	*短歌：紫なせる (ある人に)		
<b>T0118</b>	知りたいこと		
<b>T0119</b>	思慕		
<b>T0120</b>	貧しき児		
<b>T0121</b>	さくらんぼ		

<b>T0122</b>	はつ夏の少女 (ヲトメ)		
<b>T0123</b>	惜離		
<b>T0124</b>	名		
<b>T0125</b>	囚はれ		
<b>T0126</b>	ヴィンの森の物語—或る人の夢に和して		
<b>T0127</b>	無題「怖しき悲しみなく…」		
<b>T0128</b>	蟋蟀	16 08	
<b>T0129</b>	昔の家族		
<b>T0130</b>	<small>ウシオ</small> <small>フイ</small> 潮と浮標と		
<b>T0131</b>	慰め		
<b>T0132</b>	滅亡		欄外メモ
<b>T0133</b>	そのこと		欄外メモ
<b>T0134</b>	月夜の雲		
<b>T0135</b>	心の船	15 01	追記「人ゆく夜に」
<b>T0101B</b>	裏表紙		
<b>M1938</b>	無題「あゝ学舎もこの業も…」	18 11 27	鉛筆書 便箋 1 枚両面
<b>M1939</b>	無題「南の風が湿りを…」	19	ペン書 ザラ紙 1 枚
<b>M2006</b>	「復活祭に寄せて」ほか	19 頃	B 5 罫紙 1 枚両面
<b>T0545A</b>	詩集 S.TOGE (中扉あり)	19 冬 ~ 20 夏	T0546 – T0574 所収
<b>T0546</b>	道程	19 01 03	20 01 訂正
<b>T0547</b>	或る想念	19 03	
<b>T0548</b>	春		
<b>T0549</b>	顯示 (「逸楽」を変更)	19 04 05	
<b>T0550</b>	讚美のうた 姉のコラール作曲のために	19 03	末尾に別の詩?
<b>T0551</b>	別れは	19 04 08	
<b>T0552</b>	夕ぐれは	19 04 10	
<b>T0553</b>	樹木と神	19 04 11	

<b>T0554</b>	二度目の思慕 <sup>おもひ</sup>	18 05	
<b>T0555</b>	そうして！	19 04 12	
<b>T0556</b>	楽想	19 04 23	
<b>T0557</b>	老人	19 05 30	
<b>T0558</b>	子供	19 04 17	
<b>T0559</b>	揚棄（宣戦）	19 05	
<b>T0560</b>	藤樹の死に寄す~その日我は観能の席にありき~		
<b>T0561</b>	或る少年の手紙	19 05	
<b>T0562</b>	同志	19 08 24	
<b>T0563</b>	暗い路	19 06	
<b>T0564</b>	神の中に	19 09 06	
<b>T0565</b>	花火	19 09 07	
<b>T0566</b>	ゆふぐれへの手紙	19 04	
<b>T0567</b>	海に寄せて	19 07	
<b>T0568</b>	めざめ		T0567 と同じ頁に貼付
<b>T0569</b>	眼覚め	19 09	
<b>T0570</b>	母が嶺	19 03 16	
<b>T0571</b>	鹹湖	19 09 25	
<b>T0572</b>	彗星	19 09	
<b>T0573</b>	花陰	19 09 28	
<b>T0574</b>	小さくておほきな花	19 10 15	
<b>T0545B</b>	裏表紙		
<b>T0575</b>	詩集： 峠 みつよし		T0576 ~ T0626 所収
<b>T0576</b>	絶望	20 02 02	
<b>T0577</b>	手帳より	20 03 18	
<b>T0578</b>	雲（雲よ！遠く沈んでより心をみせるお前よ）	20 03	
<b>T0579</b>	少女裸像	20 03 15	

T0580	裸木	20 03 14	
T0581	泪（仕合せは飛び掠める翼なの）		
T0582	雛鷺	20 03 16	
T0583	美と美は	20 03 31	
T0584	小さき者	20 03	
T0585	苦しみは	20 03	
T0586	落差	20 03	
T0587	告知	20 03	欄外メモ
T0588	犬	20 03	
T0589	悲劇	20 01	
T0590	無極の赦し	20 03	
T0591	わが心の陰を	20 03	
T0592	春浅い半月の	20 03	
T0593	瞳	20 03	
T0594	脱皮	20 03	
T0595	戦ひにより美しく	19 12	
T0596	暗く寂しく（K. T. に寄す）	20 03	
T0597	変革	20 04	
T0598	眠り	19 11	
T0599	盲ひた獣が	19 10	
T0600	苦痛	19 11	
T0601	復讐の頌		
T0602	累戦	20 07 08	欄外メモ
T0603	わが故郷 <small>ふるさと</small> の曠野 <small>ひろの</small> は		
T0604	死（壕 <small>ほ</small> の中にて）	20 09	
T0605	病ひ（糸崎 <small>いとさき</small> にて）	20 09	欄外メモ
T0606	風	20 09	
T0607	或るベアトリッチェ	20 09	

<b>T0608</b>	風	20 08	
<b>T0609</b>	対話		
<b>T0610</b>	絵本	20 08	
<b>T0611</b>	聖き憎しみ	20 08	
<b>T0612</b>	念珠 <sup>コガリノ</sup>		
<b>T0613</b>	遙かなる空に	20 09	
<b>T0614</b>	まことの愛	20 09	
<b>T0615</b>	眞実	20 09	欄外メモ
<b>T0616</b>	夕暮に	20 09	
<b>T0617</b>	雪野 <sup>ユキノ</sup>	21 01	
<b>T0618</b>	登行	20 08	
<b>T0619</b>	八月十五日	20 08 15	
<b>T0620</b>	土	20 08	
<b>T0621</b>	怒りの焰	20 08	
<b>T0622</b>	子よ四つ手網を	20 09	
<b>T0623</b>	暁	20 09	
<b>T0624</b>	舷にて <sup>フナバタ</sup>	20 09	
<b>T0625</b>	船にて	20 09 18	
<b>T0626</b>	秋月夜		欄外メモ
<b>M1940</b>	義兄危篤にて長崎へ急ぎつつ	20 12 11	鉛筆書 危篤電報用紙裏
<b>M1941</b>	絶望	不明	ペン書 B 4 ノート用紙 計算書裏面使用
<b>M1942</b>	プロテスタントとカトリシズム	不明	A 5 箋 1 枚 署名 請求書裏面使用
<b>M1943</b>	無題「昂ぶりし後の湛えの…」ほか	20	ザラ紙 1 枚 売上帳裏面使用
<b>M1944</b>	小さき花	20	みつよし名 ペン書 B 5 便箋 1 枚両面
<b>M1945</b>	「猫」ほか	20	ペン書 B 4 ザラ紙 1 枚 売上帳裏面使用
<b>M1946</b>	良夜	21 01	ペン書 B 4 原稿用紙 2 枚
<b>M1947</b>	「抱擁」ほか	21 03 23	鉛筆書 B 5 ザラ紙半切 1 枚

<b>M1948</b>	「自分との別れ」、「何を書こうか」	不明	鉛筆書 B 5 ザラ紙 1 枚両面
<b>M1949</b>	ブローチ	21	鉛筆書 B 5 ザラ紙半切 1 枚
<b>M1950</b>	思ひ出	21	ペン書 B 5 ザラ紙半切 1 枚 裏面使用
<b>M1951</b>	蘇へる春	21 02 27	峠みつぼし名 ペン書ノート用紙 1 枚両面
<b>T0627A</b>	詩集 表紙：詩集<3の附録> 峠三吉 表題 みつぼし小曲・抒情詩抄『こころの虹』	21 早春	T0628～T0664 所収
<b>T0628</b>	虹		見開き右頁 序言
<b>T0629</b>	見出し <<春>>		
<b>T0630</b>	宵		
<b>T0631</b>	戯れ		
<b>T0632</b>	牧歌		
<b>T0633</b>	隠れん坊		
<b>T0634</b>	野火		
<b>T0635</b>	朧夜		
<b>T0636</b>	漣		
<b>T0637</b>	花の眸		
<b>T0638</b>	汝 <small>ナレ</small> に		
<b>T0639</b>	見出し <<夏>>		
<b>T0640</b>	気まぐれ		
<b>T0641</b>	美 <small>ウツク</small> し		
<b>T0642</b>	瞳 <small>ウツク</small> く心		
<b>T0643</b>	わが想ひ		
<b>T0644</b>	宵路		
<b>T0645</b>	夏の女		
<b>T0646</b>	向日葵		
<b>T0647</b>	見出し <<秋>>		
<b>T0648</b>	星		



<b>T0649</b>	面影		
<b>T0650</b>	<sup>スハク</sup> 昂		
<b>T0651</b>	高殿		
<b>T0652</b>	<sup>ツツ</sup> 虔しみ		
<b>T0653</b>	星はみどりに		
<b>T0654</b>	眞情		
<b>T0655</b>	心の入江		
<b>T0656</b>	芒野		
<b>T0657</b>	見出し <<冬>>		
<b>T0658</b>	暈月		
<b>T0659</b>	再会		
<b>T0660</b>	夢		
<b>T0661</b>	猫		
<b>T0662</b>	いかで忘れむ		
<b>T0663</b>	愛の極北		
<b>T0664</b>	紅椿		
<b>T0627B</b>	裏表紙		
<b>T0019</b>	詩集 Lyrical Ballads (Mitsuyoshi Toge)		T0020 ~ T0027 所収
<b>T0020</b>	愛の季節 峠みつぼし名	22 08 26	
<b>T0021</b>	愛の黎明		
<b>T0022</b>	透身の踊り		
<b>T0023</b>	<sup>ウタ</sup> 歌	22 08 26	左端メモ
<b>T0024</b>	春釀		
<b>T0025</b>	<sup>と</sup> 秘め言	22 08 26	
<b>T0026</b>	灰碧の花		
<b>T0027</b>	回帰	22 06 30	

<b>T0214A</b>	詩集表紙：峠 みつぼし 第一頁：あふれ 溢れ みつよし	21 02 ~ 23 01	T0215 ~ T0246 所収
<b>T0215</b>	倂	21 02	
<b>T0216</b>	花鉢	21 02	
<b>T0217</b>	再会		
<b>T0218</b>	津浪		
<b>T0219</b>	幼い二人		
<b>T0220</b>	春怨		
<b>T0221</b>	ゆく春		
<b>T0222</b>	しぐれ		
<b>T0223</b>	時雨		
<b>T0224</b>	年月		
<b>T0225</b>	岬		
<b>T0226</b>	憩ひ		
<b>T0227</b>	稚き歌（草上ピアノに添えて）		
<b>T0228</b>	手紙		
<b>T0229</b>	秋の日（遠き人の愛情を歌える）	21 02 20	
<b>T0230</b>	惑ひ		
<b>T0231</b>	吐息		
<b>T0232</b>	年 <sup>ろ</sup> 蘭 <sup>り</sup> けて		
<b>T0233</b>	陥没		
<b>T0234</b>	うす <sup>ろ</sup> 明 <sup>り</sup>		
<b>T0235</b>	幸連 <sup>り</sup> 禱	21 03	
<b>T0236</b>	真実の愛		
<b>T0237</b>	喪 <sup>り</sup> ひ		
<b>T0238</b>	誤 <sup>り</sup> 解		
<b>T0239</b>	道		
<b>T0240</b>	霧 <sup>り</sup> 闇		

<b>T0241</b>	怖れ		
<b>T0242</b>	朝夕		
<b>T0243</b>	雨後に	xx 04 01	
<b>T0244</b>	少女の希い		
<b>T0245</b>	平和の歌 (懸賞応募)	23 01	
<b>T0246</b>	平和の歌 2		
<b>T0214B</b>	裏表紙		
<b>T0041</b>	袂別	21 10 20	裏面 覚書 T0041B
<b>T0323A</b>	詩集 峠みつぼし	21 01 ~ 24 02 06	T0324 - T0379 所収
<b>T0324</b>	故郷良夜	21 01	
<b>T0325</b>	雪晴れ	20 11	
<b>T0326</b>	追憶の美果	21 01	
<b>T0327</b>	言葉	21 01	
<b>T0327A</b>	シオンを想ひて泣けるヘブレアの歌人に和して	21 03 20	
<b>T0328</b>	墓穴掘り	21 03 02	
<b>T0329</b>	無関心	21 03 23	
<b>T0330</b>	抱擁 (或る種 <sup>KYOSAN JINEI NO</sup> の青年達に)	21 03 23	
<b>T0331</b>	夏の朝		
<b>T0332</b>	春	21 03 26	
<b>T0333</b>	天なる假睡		
<b>T0334</b>	あゝ我に		
<b>T0335</b>	聖暗	21 03 29	
<b>T0336</b>	寂しき歌	21 03	
<b>T0337</b>	風媒の花	21 04 13	
<b>T0338</b>	蘇る春—広島青年文化聯盟の生誕を祝して		『探求』 3月号掲載
<b>T0339</b>	流刑	21 05 04	
<b>T0340</b>	プロテスタントとカトリシズムの交響	21 04	

T0341	先駆者 H・Y・C・Aの人々に	21 06	
T0342	月夜の怖れ	21 07 27	
T0343	劫初の朝	22 04 13	
T0344	由美子と火事	22 02 26	
T0345	リルケに捧ぐ	21 12	
T0346	離脱	22 04 18	
T0347	小さき星	22 04 02	
T0348	棺の釘を打つ者	22 06	
T0349	友よ	22 06	
T0350	日頃 (どん底)	22 10 29	
T0351	何故?	22 12 22	
T0352	ねらひ	22 12 22	
T0353	太陽	22 12 22	
T0354	体 <small>カラダ</small> をかけて	23 01 04	『月刊中国』 23. 3月掲載
T0355	肉体の上に	23 01 03	
T0356	(Kへの手紙に)	22 05 09	
T0357	公報	23 09 04	
T0358	春風	21 03	
T0359	故郷良夜		
T0360	若樹	23 02 10	
T0361	風	23 09 30	「季節の声」用放送原稿
T0362	めざめ		
T0363	秋二題 (表紙のポスターのために)		
T0364	祝婚歌		
T0365	雪	23 10 19	
T0366	雪		「スペースの関係でちぢめる」とあり
T0367	雪		
T0368	初玄 (青い上着の女に寄す) (西條にて)	23 11 07	

<b>T0369</b>	輝き		
<b>T0370</b>	愛のうた	23 11 15	
<b>T0371</b>	少女像（紅いオーバーをまとい白いマスクをせる絵にそへて）		
<b>T0372</b>	會話～情念は過度でなくては美しくあることができぬ～パスカル	23 05	「S 2 3. 5月朗読用として作る」
<b>T0373</b>	焦燥	23 06	
<b>T0374</b>	推移	23 11	
<b>T0375</b>	希い 西條療養所のために～白井氏作曲～	23 01 20	
<b>T0376</b>	愛の黎明		
<b>T0377</b>	公報	24 02 06	
<b>T0378</b>	僕達の力は根を張ってゆく		
<b>T0379</b>	未来		
<b>T0323B</b>	裏表紙		
<b>T0028</b>	詩集 愛と屍 (M.TOGE)		
<b>T0029</b>	愛と屍と	22 11 01 ~ 22 11 07	
<b>M1953</b>	尾張町すきや橋にて	不明	ペン書 ザラ紙1枚 裏面住所録
<b>M1955</b>	却初の朝	22 04 13	ペン書 B 4原稿用紙1枚裏面 朱校入 付箋あり 二度撮影
<b>M1956</b>	却初の朝	22 04 13	ペン書 陸軍用箋3枚
<b>M1957</b>	回帰	22 06 30	赤鉛筆書 陸軍用紙3枚 印影不鮮明
<b>M1958</b>	離脱	22 04 18	ペン書 裏面日英豪交歓音楽会会員券
<b>M1959</b>	無題「四辺の山々に…」	不明	ペン書 裏面旅費領収書
<b>M1960</b>	それは…	不明	鉛筆書 B 5原稿用紙1枚
<b>M1961</b>	あひ寄る魂は	不明	ペン書 陸軍便箋1枚 裏面 日記体メモ

M1962	めざめ	22	ペン書 円形色付き紙 裏面
M1963A	めざめ	22	ペン書 B 5 瀬戸内海文庫用紙 1 枚
M1963B	湖	不明	
M1964	夜の波止場 トウゲ名	不明	B 5 画用紙裏面使用
M1965	小さき星	22 04 20	ペン書 音楽会会員券裏面使用
M1966	「泪」「ねらい」「弾」ほか	22 12 22	鉛筆書 B 5 原稿用紙 1 枚両面
M1952	初玄 M.TOGE 名	23	青ペン書・赤鉛筆書 箋 1 枚
M1967	会話 峠みつよし名	23 05 11	ペン書 B 5 レポート用紙 4 枚
M1968	会話	23 05 11	ペン書 B 5 箋 2 枚
M1969	夏祭り	23 07 20	ペン書 ビラ裏面使用
M1970	夏祭り	23	ペン書 原稿用紙 2 枚
M1971	夏祭り	23	ペン書 原稿用紙 2 枚
M1972	祭	23	ペン書 原稿用紙 2 枚
M1973	営み	23 08 07	ペン書 B 5 原稿用紙 1 枚
M1974A	背中・ボタン	23 09	ペン書 B 5 原稿用紙 1 枚
M1974B	たそがれのウィーン		M1974A の裏面使用
M1975	花に思ふ M. TOGE 名	23 10 26	ペン書 原稿用紙 2 枚 内 1 枚裏面メモ
M1976A	星はみどりに 峠三吉・作 水戸嘉子・作曲	23 12 16	ペン書 B4 原稿用紙 1 枚
M1976B	無題「重なり重なり…」		M1976A の裏面
M1977	朝	22	ペン書 B 5 原稿用紙 1 枚
M1978A	真理の狩猟	不明	鉛筆書 B 5 ザラ紙 1 枚
M1978B	無題「子供に…」		M1978A の裏面
M1982A	歌詩「 <small>いくさまちはいきよ</small> 軍都廢墟と化して…」	不明	ペン書 便箋 1 枚 (虫食い穴あり)
M1982B	無題「雲は灰金?…」	不明	M1982A の裏面
M1983	無題「飛行機が広島のこと…」	不明	鉛筆書 B 5 原稿用紙 1 枚裏
M1987	溢れる想ひ	23 01 23	ペン書 A 4 ザラ紙 1 枚両面
M1986	無題「今私は東京を…」	23 04 13	ペン書 弁当包み裏面使用
M1988	カズ子の歌	22 10 20	鉛筆書 便箋 1 枚

<b>M1989</b>	熊まつり	不明	鉛筆書 B 5 裏紙半切 1 枚
<b>M1990</b>	無題「汚い服の人達は…」	不明	ペン書 原稿用紙半切
<b>M1991</b>	愛の風景	不明	ペン書 ザラ紙 4 枚 領収書など裏面使用 裏面記入あり
<b>M1994</b>	無題数点「あゝ冰山か南に流れ…」ほか	不明	鉛筆書 B 4 売上調査表の裏面使用
<b>M1995</b>	無題「あゝ私にこんな幸福が…」	不明	ペン書 山陽図書用紙 1 枚
<b>M1997</b>	春日	不明	青ペン書 B 5 箋半切 1 枚 請求書裏面使用
<b>M2001</b>	別れていったもの	不明	B 5 箋半切 1 枚 裏面断片か
<b>M2007</b>	宗大仙宛書簡草稿 裏面無題「空は曇り…？」	不明	鉛筆書 原稿用紙半切 1 枚
<b>M2008</b>	無題「日本という言葉が…」	不明	鉛筆書 B 5 ザラ紙 1 枚
<b>M2010</b>	碧空	不明	鉛筆書 B 5 便箋
<b>M2014</b>	和さんという女のひとに		ペン書・鉛筆書 B 5 箋半切 2 枚
<b>M2015</b>	無題「美しい風景は…」	不明	松江内科医院計算表 (19 06 21) の裏面使用
<b>M2034</b>	墓穴掘り	不明	ペン書 B 5 旅費請求・領収書使用
<b>M2035A</b>	無題「煙りの咽ぶ遠い…」	不明	ペン書 A 5 勝山商会用箋裏面使用 用箋表は支出記録 (M2035B)
<b>M2035B</b>	* 支出記録	不明	ペン書 A 5 勝山商会用箋使用 M2035A の表
<b>M2036A</b>	無題「戦争なんて…」	不明	ペン書 YMCA メモ用紙裏面
<b>M2036B</b>	無題「光栄ある…」	不明	ペン書 YMCA メモ用紙
<b>M2037A</b>	無題「この一書の中には…」	不明	ペン書 便箋 1 枚
<b>M2037B</b>	無題「逃げて…」	不明	M2037A 裏面
<b>M2038</b>	サーカス	不明	ペン書 B 5 陸軍用箋 1 枚
<b>M2039</b>	寂しき歌	不明	ペン書 B 5 ザラ紙半切 1 枚
<b>M2040A</b>	三郎君の見た夢	不明	鉛筆書 便箋裏面 1 枚
<b>M2040B</b>	* 書簡草稿	不明	M2040A の裏面
<b>M2041</b>	無題「さわさわと桜若木に…」	不明	鉛筆書 ノート 3 枚両面
<b>M2042A</b>	混迷	不明	鉛筆書
<b>M2042Z</b>	無題「くったくのなさそうな…」		M2042A の裏面

<b>M2042B</b>	無題「キタイスカヤ街の…」	不明	
<b>M2042C</b>	無題「ああ一人で…」	不明	
<b>M2042D</b>	混迷 山本理枝名	不明	
<b>M2042E</b>	焦燥と空虚と	不明	
<b>M2043</b>	混迷	不明	青ペン書 B 5 ザラ紙 1 枚
<b>M2044</b>	こゝろの村	不明	鉛筆書 山陽図書用紙 1 枚
<b>M2045</b>	「恋人」、「黒い屍」、「焼跡」ほか	不明	鉛筆書 便箋 1 枚
<b>M2048</b>	「灯」「海に臨む街の夏の夜」ほか	不明	ペン書 B 5 箋半切 1 枚
<b>M2049</b>	風媒の花	不明	ペン書 定形外ザラ紙 1 枚 裏面メモか
<b>M2050</b>	肉体の上に	xx 01 03	ペン書 B 5 ザラ紙 2 枚
<b>M2051</b>	野火 峠みつよし名	不明	ペン書 原稿用紙 2 枚
<b>M2052</b>	8. 3 サークスにて	不明	ペン書 B 4 原稿用紙 2 枚
<b>M2088</b>	由美子と火事 峠みつよし名	22 06 26	ペン書 原稿用紙 5 枚
<b>M2054</b>	僕達の力は根を張ってゆく	23	ペン書 B 4 原稿用紙裏 印刷指定の赤字 『地核』掲載
<b>M2081</b>	黄金の魚	23	ペン書 原稿用紙 3 枚
<b>T0500A</b>	詩集 B U I C K	24 05 26 ~ 24 09 23	T0501 - T0533 所収 右頁は反古紙、左ページのみ使用
<b>T0501</b>	色彩風景~交通警察に~	24 05 26	
<b>T0502</b>	*覚書		T0500 所収
<b>T0503</b>	巷にて		
<b>T0504</b>	わか葉	xx 05 20	
<b>T0505</b>	無題「いたづらな子供が…」		
<b>T0506</b>	金婚式 (頼雄の編曲のために)		
<b>T0507</b>	怒りのうた (日鋼争議暴圧事件)	24 06 30	
<b>T0508A</b>	共闘の誓い~日鋼労働者の妻子に捧ぐ~	24 06 15	民婦協広島支部 (山田典子娘朗読)
<b>T0508B</b>	無題「われらは愚か者だから…」		
<b>T0509</b>	永遠		



<b>T0510</b>	痴呆の市	24 07 19	
<b>T0511</b>	金貨	24 07 13	
<b>T0512</b>	故郷		
<b>T0513</b>	晨 <small>アサ</small>		
<b>T0514</b>	蒼く昏れる心の中に	23 06 23	
<b>T0515</b>	悔		
<b>T0516</b>	こころの蛇行		
<b>T0517</b>	文化の日の歌		
<b>T0518</b>	夢		
<b>T0519</b>	住吉祭り		
<b>T0520</b>	切線	24 08	
<b>T0521</b>	ラヂオのあかり		原田和子作
<b>T0522</b>	みんなの歌		
<b>T0523</b>	後愁	23 10	
<b>T0524</b>	雨の日に	24 09 22	
<b>T0525</b>	笑いの花~日鋼事件法廷にて~		
<b>T0526</b>	出発	24 09 23	
<b>T0527</b>	WANA		
<b>T0528</b>	時々母のみない子のような気がする		
<b>T0529</b>	なぜに		
<b>T0530</b>	夜の反逆		
<b>T0531</b>	なぜに	24 10 99	
<b>T0532</b>	無題「雨が降る…」		
<b>T0533</b>	父の病気	24 12 15	原田治作 峠三吉転写
<b>T0500B</b>	裏表紙 M.TOGE 署名		
<b>T0247A</b>	詩集	24 05 30 ~ 24 07 19	日記帳を使用 T0248 ~ T0260 所収
<b>T0248</b>	電車路線のつぎ目を見たまえ		

<b>T0249</b>	絵本		
<b>T0250</b>	こんなとき父親となる		
<b>T0251</b>	修学旅行～第二の父の歌える	24 10 30 夜	
<b>T0252</b>	たかきものは群れ輝いて	24 09 07	
<b>T0253</b>	色彩風景	xx 05 26	
<b>T0254</b>	巷にて	xx 05 23	
<b>T0255</b>	わか葉	24 05 20	
<b>T0256</b>	金婚式（頼雄の編曲のために）	xx 05	
<b>T0257</b>	痴呆の市	24 07 19	
<b>T0258</b>	金貨	24 07 13	
<b>T0259</b>	故郷		
<b>T0260</b>	蒼く昏れる心の中に	23 06 23	
<b>T0247B</b>	裏表紙		
<b>M2057</b>	無題「春がくるというのに…」	不明	ペン書・鉛筆書 B 5 ザラ紙半切 1 枚 別の断片あり
<b>M2057B</b>	無題「行政協定は…」	不明	M2057 の裏面か
<b>M2058</b>	同志山本均に贈る詩	不明	ペン書 B 4 ザラ紙 1 枚
<b>M2063</b>	黎明	不明	ペン書 B 5 原稿用紙 1 枚
<b>M2064A</b>	列車暮唱	xx 09 13	ペン書 便箋 1 枚
<b>M2064B</b>	*日録	不明	M2064A の裏面
<b>M2066</b>	無題「わが想ひ咲きゆくなべに…」ほか断片	不明	ペン書 ザラ紙 (20×15 cm) 1 枚
<b>M2070</b>	「白衣」「療養所の幻影」	不明	ペン書 B 4 ザラ紙 1 枚
<b>M2071</b>	秋	不明	ペン書 原稿用紙 3 枚
<b>M2073A</b>	加代子よお前は叫べ	不明	ペン書 B 5 原稿用紙半切裏
<b>M2073B</b>	白衣(部分)	不明	ペン書 B 5 原稿用紙半切 M2073A の裏面
<b>M2076</b>	苦しみは 峠みつよし名	不明	ペン書 原稿用紙 1 枚
<b>M2077</b>	クリスマス	不明	ペン書 便箋 1 枚
<b>M2078</b>	呉の街にて	不明	赤ペン書 B 5 ザラ紙半切 1 枚

M2080	巷にて	不明	ペン書 B 4 箋 1 枚
M2082A	失はれた腕に	xx 03 15	ペン書 横封筒展開紙に記入
M2082B	*地図など		M2082A の裏面
M2084	大橋の夕べ	不明	鉛筆 B 5 実民会用箋 2 枚
M2086	駅にて	不明	青ペン書 B 4 原稿用紙 2 枚
M2087	顔	不明	鉛筆書 B 5 便箋 1 枚
M2095	無題「咳きあげるとどろどろと凝りかけた…」	不明	鉛筆書 B 5 ザラ紙 2 枚 2 枚目以下フィルムなし
M2096	操車場にて	不明	鉛筆書 B 5 ザラ紙 裏面メモ
M2099	「つばめ」他	不明	青ペン書 B 5 原稿用紙 1 枚
M2100	無題「手をにぎらうよ…」	不明	鉛筆書 B 5 ザラ紙半切 1 枚
M2102	無題「僕は歯科医の…」、「或る静かな…」、「風化してみた…」	不明	ペン書 陸軍野紙二段書
M2074	歌（「焚火は消された…」）	24	鉛筆書 B 5 ザラ紙 1 枚 裏面数字メモ
M2075	歌（「焚火は消され…」）	24 11 20 発表	ペン書 B 5 ザラ紙 1 枚 『われらの詩』 1 号掲載
M2056	怒りのうた	24 06 15	謄写印刷 B 5 箋半切 1 枚
M2055	共闘の誓ひ	24 06 16	ペン書 原稿用紙 2 枚
T0534	無題「英タン父タン…」～同志〇のために～	24 06 21	「子よ！」草稿
M2105	復員列車 MEMO Mitsuyoshi 名	24 07 02	青ペン書・鉛筆書 ザラ紙印刷物 3 枚
T0540	笑いの花～日鋼事件法廷にて～	24 09 23	
M2270	一九五〇・八・六	24	鉛筆書 YMC A メモ用紙 1 枚
M2271	無題「見なければならぬ…」ほか	24	鉛筆書 B 5 ザラ紙 1 枚両面
M2443	怒りの歌	24	B3 用紙横 1 枚 フィルムなし
M2272	無題「7 丁目のトーフや…」	不明	鉛筆書 B 5 原稿用紙 1 枚
M2273	無題「電車通りを渡ったそれは…」、「爆裂」ほか	不明	鉛筆書 YMC A メモ用紙 1 枚
M2274	晴れた日	不明	ペン書 B 4 上質紙 1 枚
M2103	封殺の季節	25 06 12	ペン書 B 4 原稿用紙裏 1 枚
M2444	辻詩 抱き合う子供	25 08	B 2 大用紙 1 枚 セピア色 フィルムなし

M2267	河のある風景	25 10	ペン書 B 4用紙1枚
M2268	河のある風景	25 12 05 発表	ペン書 原稿用紙2枚 印刷指定書き込み
M2072	プークに捧ぐる詩	25	ペン書 B 4箋1枚 朱校あり
M2089	父	25	鉛筆書 B 5半紙3枚
M2246	負傷者収容所	25	ペン書 原稿用紙7枚 7枚目フィルム欠
M2247	絵本	25	ペン書 B 4西洋紙1枚
M2248	繪本	25	ペン書 B 4原稿用紙1枚
M2437	*詩画 「花と乳房で…」 峠三吉詩 四国五郎画	25	B 4用紙1枚
M2438	*詩画 「ピカドンで死んだトウチャン」 峠三吉詩 四国五郎画	25	B 4用紙1枚
M2249	友	不明	ペン書 B 5 ザラ紙1枚 裏面メモ
M2250	墓標	25	ペン書 B 4 ザラ紙1枚両面
M2254	丸木位里・赤松俊子原爆の凶に寄せて	不明	ペン書・鉛筆 B 4原稿用紙1枚
M2263	希い ー原爆の凶出版によせて	25	ペン書 A 4原稿用紙1枚
M2275	無題「君はそこに…」	25	鉛筆書 B 4 ザラ紙1枚 裏面メモ
M2277	八月六日 峠三吉名	25	ペン書 B 5 ザラ紙2枚
M2298	一九五〇年の八月六日	25	ペン書 変形原稿用紙6枚
M2899	「自由労組の人々に捧げる詩」新日本文学会広島支 部人民文学広島友の会	不明	鉛筆書 B 5 ザラ紙5枚 フィルム欠
M2276	序曲（曲ったペン）	26 07 15	青ペン書 A 4原稿用紙1枚
M2278	一九五一年のヒロシマ（その1）	26 07 20	ペン書 原稿用紙2枚
M2269	山口県平和擁護委員会結成大会の記録 裏面メモ	26 08 14 発表	ペン書 B 4原稿用紙1枚 (No.1、2欠)
M2251	原爆詩抄構想	26	青ペン書・鉛筆書 B 4西洋紙1枚
M2252	構成案	26	B 4 ザラ紙1枚 「けやき」裏面使用
M2253	無題「さらに数年…」 裏面無題「家族が…」	不明	ペン書 B 5 ザラ紙1枚 裏面メモもあり
M2079A	呉の街にて	26	ペン書 今本用A 4原稿用紙1枚
M2079B	無題「再び浮かぶ顔がある…」		M2079A の裏面
M2108	修学旅行	27 以降	青ペン書 B 4 ザラ紙3枚 M2393 の裏面

			(27 07 16 付) 使用 後 2 枚は同一内容推敲
<b>M2109A</b>	修学旅行の夜に		赤ペン書 B 5 たけや原稿用紙 2 枚 M2108 の修正版 欄外に「1949年10 月出発」とあり
<b>M2109B</b>	*手書地図		M2109A の裏面
<b>M2111</b>	無題「誰も知らぬ病院の…」 裏面無題「私は枕の横に…」	27 03	黒ペン・鉛筆書 A 4 ザラ紙半切 1 枚
<b>T0004</b>	大山郁夫氏に捧げる詩	27 06 27	
<b>T0003</b>	急患輸送車にて	27 08 04 夜	
<b>M2376</b>	傷	27	ペン書 B 4 ビラ裏面 2 枚
<b>M2377</b>	傷痕	27	赤ペン書 B 5 ザラ紙 1 枚
<b>M2378</b>	傷	27	赤ペン書 B 5 原稿用紙 2 枚
<b>M2065</b>	無題「もはや詩に戯れる事を…」	28 頃	ペン書 ザラ紙 (9×15 cm) 1 枚
<b>M2255</b>	靴	28 01 18	ペン書 B 5 便箋 1 枚
<b>M2257</b>	無題「国内のわたしたちが…」	不明	青ペン書 B 5 ザラ紙半切 2 枚
<b>M2259A</b>	第三次世界大戦はおこるかもしれない	xx 11 09	ペン書 B 5 原稿用紙 1 枚
<b>M2259B</b>	求めようとする心のために	xx 01 06	M2259A の裏面
<b>M2260</b>	ある婦人え	不明	ペン書 B 4 用紙 2 枚
<b>M2261</b>	或る婦人へ	不明	鉛筆書 B 4 ザラ紙 1 枚
<b>M2262</b>	夜	不明	ペン書 B 4 ザラ紙 2 枚
<b>M2264</b>	希い	不明	鉛筆書 B 5 原稿用紙 1 枚両面
<b>M2265</b>	無題「その少女をどうしよう…」	不明	ペン書 B 5 ザラ紙 1 枚両面
<b>M2266</b>	生理 母と娘、裏面 別人の原稿?	不明	鉛筆書 原稿用紙両面 1 枚
<b>T0037</b>	すべての声は訴える~序文にかえて (『原子雲の下より』序文原稿)	不明	
<b>M1888</b>	無題 判読不能 裏面和歌	不明	青ペン書 薬包紙 2 枚
<b>T0001</b>	くろい燕に寄せて歌える	不明	
<b>T0002A</b>	白衣~H旧軍人療養所にて	不明	
<b>T0002B</b>	白衣	不明	

<b>T0005</b>	丘のある風景	不明	
<b>T0006</b>	患者輸送車にて	不明	
<b>T0007</b>	朝	不明	
<b>T0008</b>	めざめ	不明	
<b>T0009</b>	湖	不明	M1963B と同じ
<b>T0012</b>	ある婦人え	不明	
<b>T0013</b>	ある夜のコンサート	不明	
<b>T0036</b>	求めあえなく	不明	片側反転の画像あり
<b>T0535</b>	無題「むこうの…」	不明	一部欠落 「愛の歌」 草稿
<b>T0536</b>	プークに捧ぐる詩	不明	
<b>T0537</b>	劇団プークに捧ぐる詩	25 10 16	
<b>T0538</b>	無題「すでに落日は…」	不明	「河のある風景」 草稿
<b>T0539</b>	絵本	不明	
<b>T0541</b>	なぜに	不明	
<b>T0542</b>	子よ	不明	
<b>T0543</b>	無題「英タン父タン…」 -Oのために-	不明	「子よ！」 草稿
<b>T0544</b>	暗夜	不明	印影薄く判読不可能
<b>S0008</b>	カチューシャ楽団に捧ぐる詩	不明	「反戦詩歌人集団」 名義
<b>S0009</b>	「Album に寄せて」 -平岡嬢へ-	不明	T署名
<b>M2279</b>	「生」(会社へと食物あさりにと…)	不明	鉛筆書 B 5 ザラ紙 1 枚
<b>M2280</b>	「生」(勤めえと食物あさりて…) 裏面別草稿?	不明	ペン書 B 4 西洋紙 1 枚
<b>M2281</b>	こどもえ	不明	ペン書 B 4 西洋紙 3 枚
<b>M2282</b>	*構成案 詩集の構成・プラン	不明	ペン書 原稿用紙 1 枚
<b>M2283</b>	A. 構図	不明	ペン書 B 4 原稿用紙裏 2 枚
<b>M2284</b>	死-全ての理想と勇気を失った夜に-	不明	鉛筆書 ザラ紙 3 枚 4 枚目は 3 枚目の裏面? 峠宛ツゲ トシユキ書信
<b>M2285</b>	B. 死	不明	ペン書 ザラ紙 1 枚
<b>M2286</b>	2. 死	不明	ペン書 B 4 原稿用紙 5 枚
<b>M2287</b>	C. 負傷者収容所	不明	ペン書 B 4 ザラ紙 2 枚

<b>M2288</b>	歴史 峠三吉名	不明	ペン書 B 4原稿用紙7枚
<b>M2289</b>	無題「梁の下 埃煙の…」	不明	ペン書 B 5原稿用紙裏面1枚
<b>M2204B</b>	無題「しんちゅうの…」	不明	M2204A の裏面

## (2) 小説・童話

資料番号	資料名	日付	備考
M2002	小説「二八は結婚…」	不明	B 5 ザラ紙半切 1 枚両面
M2005	小説作品プロットなど	不明	B 5 使用済便箋裏面使用
M2047	童話「稚彦様」プロット	不明	ペン書 B 5 便箋 (礼状書き出し) 裏面使用
T0016	小説 ヨハン少年物語 (バルバラの恩返し)	16 09	
M2110	童話 シャボン玉とユリの心	18 07 発表	鉛筆書 B 5 箋 2 2 枚
T0018	童話 シャボン玉とユリの心	18 07 15	4-5、10-11、14-15 欠落
M2117	小説 鏡占ひ	22	ペン書 B 5 原稿用紙・便箋 5 4 頁 No.2 欠 (フィルムなし)
T0017	小説 鏡占い 山下三夫名		
T0849A	童話集「童話 とうげみつよし」		T0850 - T0854 所収
T0850	童話 百足競争	20 04 27 ~ 20 10 20	
T0851	童話 お爺さんと娘	20 11 20 ~ 20 11 25	
T0852	童話 虹	21 03 09 ~ 21 03 11	
T0853	童話 ドッジ・ボール	22 03 22	
T0854	童話 三人の子供	22 08 14	
T0849B	裏表紙		
T0833	*小説 遠雷	21 05 08 ~ 11	T0829 所収
T0856A	小説集 「創作 m. とうげ」		T0857 - T0858 所収
T0857	小説 鏡占	22 09.~	
T0858	小説 墓参	22 11 11 ~ 22 11 20 夜	



<b>T0856B</b>	裏表紙		
<b>M2061</b>	童話 万三郎の笛	25 0 1 14	ペン書 B 4 原稿用紙 2 枚 印刷指定あり
<b>M2107</b>	童話 おとぎばなし 狐と狸	25 09 12	ペン書 A 4 原稿用紙 1 枚
<b>M2059</b>	小説 えいちゃん 野田二郎名	27	ペン書 原稿用紙 4 枚
<b>M2104B</b>	無題 「それは私が…」	不明	M2104A の裏面

## (3) 短歌・俳句

資料番号	資料名	日付	備考
<b>M1933</b>	峠三吉俳句抄	12～19	青ペン書便箋4枚 4枚目は裏面メモあり
<b>T0665A</b>	句集 俳句「饗宴」 <sup>KYUEN</sup> みつよし	11～14	T0666～T0670 所収
<b>T0666</b>	俳句 手帳・ノートより 123句	11	
<b>T0667</b>	俳句 潮鳴り 202句	12 晩春追記	
<b>T0668</b>	俳句 葦笛 308句	12	
<b>T0669</b>	俳句 砂城 1025句	13	
<b>T0670</b>	俳句 星雲 715句	14	
<b>T0665B</b>	裏表紙		
<b>T0671</b>	句集 俳句(2) MITSYOSI(ママ)	16～19	T0672～T0703 所収
<b>T0672</b>	*請求書 俳句文芸社より峠三吉宛会費請求	16 05 19	T0671 に貼付
<b>T0673</b>	曼珠沙華 34句		
<b>T0674</b>	九月のサナトリウムにて 37句		
<b>T0675</b>	か・え・る・よ 4句		
<b>T0676</b>	アル日のうた 26句		
<b>T0677</b>	朝霧の駅 10句		
<b>T0678</b>	林の秋 22句		
<b>T0679</b>	生活 7句		
<b>T0680</b>	「ニッポン号」讃歌 8句		
<b>T0681</b>	火の星 6句		
<b>T0682</b>	夜の木馬 3句		
<b>T0683</b>	あをいよる 11句		
<b>T0684</b>	雲のうた 9句		
<b>T0685</b>	夜の灯 16句		
<b>T0686</b>	<sup>オアシス</sup> 緑地 27句	以下 15	

<b>T0687</b>	わがうたよ 45句		
<b>T0688</b>	青芝 107句		
<b>T0689</b>	季節 季節 17句		
<b>T0690</b>	無題 148句	以下 16	
<b>T0691</b>	食の夜 201句		
<b>T0692</b>	再建 8句	以下 17	
<b>T0693</b>	雲の日に 28句		
<b>T0694</b>	凝り輝る月の石 28句		
<b>T0695</b>	九つの眞珠のみたま 13句		
<b>T0696</b>	おぼろ夜 27句		
<b>T0697</b>	Nの応召を送る 27句		
<b>T0698</b>	軍鶏 7句		
<b>T0699</b>	無題 212句		
<b>T0700</b>	朱泥 117句	18	
<b>T0701</b>	折々に 29句	以下 19	
<b>T0702</b>	山口司令搭乗我が航空母艦 20句		
<b>T0703</b>	*覚書 あと書き (抄録)		
<b>M1932</b>	峠三吉短歌抄	11~19	ペン書 便箋4枚
<b>T0704A</b>	歌集 短歌 Mitsyosi <small>BENIZURU</small> 紅鶴 みつよし		T0705~T0711 所収
<b>T0705</b>	38首	11	
<b>T0706</b>	203首	12	
<b>T0707</b>	139首	13	
<b>T0708</b>	155首	14	
<b>T0709</b>	103首	以下 15	
<b>T0710</b>	自由律短歌 203首		
<b>T0711</b>	*覚書 近代短歌の流れ		

<b>T0704B</b>	裏表紙		
<b>M1935B</b>	短歌 10首	15 頃	原稿用紙半切1枚
<b>T0117</b>	*短歌 紫なせる (ある人に)	15 08	T0101 所収
<b>T0712A</b>	歌集 短歌 mitsyosi		T0713 ~ T0716 所収
<b>T0713</b>	新古今習作 456首	15	
<b>T0714</b>	昭和16年 372首	以下 16	
<b>T0715</b>	春雨の日 83首		
<b>T0716</b>	徴兵検査 14首		
<b>T0712B</b>	裏表紙		
<b>T0717A</b>	歌集 短歌 Mitsyosi (ママ)		T0718 ~ T0765 所収
<b>T0718</b>	散歩にて 23首		
<b>T0719</b>	桜の実 抒情 16首		
<b>T0720</b>	夕暮の散景 19首		
<b>T0721</b>	採果の幸 17首		
<b>T0722</b>	散歩より 23首		
<b>T0723</b>	三日月の夜更け 3首		
<b>T0724</b>	ひとり 22首		
<b>T0725</b>	雨の唄 3首		
<b>T0726</b>	或る日のひと 13首		
<b>T0727</b>	葡萄畑など 30首		
<b>T0728</b>	七月二十八日祖母命日 7首		
<b>T0729</b>	紅き小櫛 13首		
<b>T0730</b>	星の夜 25首		
<b>T0731</b>	或る朝の歌 57首		
<b>T0732</b>	心の隅より 24首		
<b>T0733</b>	タオルズボンを作りもらひて 4首		

<b>T0734</b>	父上 5首		
<b>T0735</b>	轉機 14首		
<b>T0736</b>	17首		
<b>T0737</b>	或る時 13首		
<b>T0738</b>	夜を送りて 10首		
<b>T0739</b>	最後の夢 44首		
<b>T0740</b>	祝日歌 35首		
<b>T0741</b>	その夜 7首		
<b>T0742</b>	心弱き折 20首		
<b>T0743</b>	未完成交響曲を觀て 7首		
<b>T0744</b>	一周忌の谷山宅を訪れて 39首		
<b>T0745</b>	喫茶店に一人行きて 20首		
<b>T0746</b>	25首	以下 17	
<b>T0747</b>	或る友より 7首		
<b>T0748</b>	又別の友より 3首		
<b>T0749</b>	苦患 11首		
<b>T0750</b>	縣病院の庭に行く 14首		
<b>T0751</b>	ハワイ眞珠湾潜入の詳細をきいて 10首		
<b>T0752</b>	17首		
<b>T0753</b>	人を送りて 20首		
<b>T0754</b>	健康相談所に行き 18首		
<b>T0754B</b>	或る人の病ひ篤しと聞きて 17首		
<b>T0755</b>	宇品保養園にて 16首		
<b>T0756</b>	～河辺貞吉師傳道会～ 9首		
<b>T0757</b>	左部寿一郎先生逝去の通知を受く 23首		
<b>T0758</b>	20首<明け空の…>		
<b>T0759</b>	父よ! 24首		
<b>T0760</b>	住吉橋病院にて 9首		
<b>T0761</b>	或る夕ぐれに 7首		

<b>T0762</b>	～オリオンの頃～ 12首		
<b>T0763</b>	寒の夜 6首		
<b>T0764</b>	～新しきいのち～ 27首		
<b>T0765</b>	*覚書 投稿時筆名		
<b>T0717B</b>	裏表紙		
<b>T0766A</b>	歌集 短歌(4) 峠みつよし		T0767～T0828 所収
<b>T0767</b>	祈祷会 7首	以下 18	
<b>T0768</b>	早春 7首		
<b>T0769</b>	復活祭に寄せて 6首		
<b>T0770</b>	生活よ 6首		
<b>T0771</b>	暈 12首		
<b>T0772</b>	空襲 4首		
<b>T0773</b>	入院前 12首		
<b>T0774</b>	病院にて 11首		
<b>T0775</b>	病ひ良き折 11首		
<b>T0776</b>	医師の子 11首		
<b>T0777</b>	退院前後 6首		
<b>T0778</b>	金刀羅夏祭り 19首		
<b>T0779</b>	南部の家 8首		
<b>T0780</b>	夜汐 12首		
<b>T0781</b>	青柿 6首		
<b>T0782</b>	秋に入る頃 8首		
<b>T0783</b>	此の秋 6首		
<b>T0784</b>	薄弼 6首		
<b>T0785</b>	金木犀 6首		
<b>T0786</b>	硬き花 5首		
<b>T0787</b>	薄明 6首		
<b>T0788</b>	秋夜 9首		

<b>T0789</b>	冬至る 5首		
<b>T0790</b>	万華鏡 4首		
<b>T0791</b>	正義 3首	以下 19	
<b>T0792</b>	雪晴れ 1 1首		
<b>T0793</b>	其為の心 6首		
<b>T0794</b>	弔歌 4首		
<b>T0795</b>	霞 8首		
<b>T0796</b>	蒼き夢 4首		
<b>T0797</b>	飛鳥の代 6首		
<b>T0798</b>	入院追詠 8首		
<b>T0799</b>	わが大君 1 1首		
<b>T0800</b>	轉住 8首		
<b>T0801</b>	雲 1 3首		
<b>T0802</b>	眼裏 8首		
<b>T0803</b>	月と兄 6首		
<b>T0804</b>	目張り 7首		
<b>T0805</b>	花粉 6首		
<b>T0806</b>	或る時 5首		
<b>T0807</b>	藤樹の死 4首		
<b>T0808</b>	又或る時 9首		
<b>T0809</b>	八月雑詠 1 8首		
<b>T0810</b>	街にて 4首		
<b>T0811</b>	サイパン島女子自決 1 6首		
<b>T0812</b>	夏より秋へ 1 4首		
<b>T0813</b>	己れ 2 1首		
<b>T0814</b>	出撃前後 1 4首		
<b>T0814B</b>	絵に寄せて 4首		
<b>T0815</b>	出撃（車中にて詠める） 6 2首		
<b>T0816</b>	到着 6首		

<b>T0817</b>	旅の地 11首		
<b>T0818</b>	太郎 11首		
<b>T0819</b>	味爽 7首		
<b>T0820</b>	ニュース映画を観て(11月14日) 10首		
<b>T0821</b>	神風特別攻撃隊出撃情景 15首		
<b>T0822</b>	妙蓮寺にて 8首		
<b>T0823</b>	男の子 6首		
<b>T0824</b>	富士 22首		
<b>T0825</b>	菊名池 7首		
<b>T0826</b>	工場 10首	以下 20	
<b>T0827</b>	或る病友 10首		
<b>T0828</b>	戦ひ(5.29横浜大空襲)		
<b>T0766B</b>	裏表紙		
<b>M1715</b>	句集「蓑虫」第二輯(323句)	22 01 01~23 春	
<b>M1996</b>	1首 MITSU名<青野原…>	22 07 30	青ペン書 B5箋半切1枚
<b>M2062</b>	2首<病む身ひとり…>	不明	鉛筆書 B5ザラ紙半切1枚両面



(4) 評論・主張

注：以下、分類について記録性の高いものは「覚書」、峠自身の思考、発想を示すものは「評論」としたが、絶対的なものではない。

資料番号	資料名	日付	備考
T0499	*引用 コサック古代民謡より		T0380 所収
T0213	*覚書 ショパンの“澄心”について		T0175 所収
T0703	*覚書 あと書き(抄録)		T0671 所収
T0711	*覚書 近代短歌の流れ		T0704 所収
T0765	*覚書 投稿時筆名		T0717 所収
M1718	覚書 「f a i t h」 キリスト教に関する文章	17 前後	大学ノート
M1719	覚書 「落書(3)」(抄録帳) 峠光芳	17 04 17~	大学ノート N0.2 など二度撮影のものあり
T0077	*随筆 無題「…伸び上がりながら…」	17 11 21	T0076 所収 冒頭一部(画像) 欠か
M1720	「断想 覚書」みつよし	18 02 ~ 19 秋頃	大学ノート 同一画像複数あり。
M1853	評論 伝導の前衛としての青年会の前進	18 12 ~ 19 01	ペン書 B 5 便箋 12 枚両面
T0855	*覚書 フランス文学者名列挙		T0849 所収
M1722	覚書 「覚え書(4)」 みつよし	20 04 ~	大学ノート 同一資料複数画像もあり
M1723	覚書 OBOEGAKI	21 02 ~ 24 04	大学ノート
M1854B	随想<断片> 季節の雑感	不明	冒頭のみ
M1855	評論 広島歌壇評	不明	鉛筆書 B 4 原稿用紙 5 枚
M1856	覚書 方法論	不明	鉛筆書 B 5 ザラ紙 1 枚
T0829A	随想集 「文苑」(評論・随筆) 峠三吉	21 03 22 ~ 22 05 01	T0830 ~ T0841 所収
T0830	目次		
T0831	随筆 拍手について	21 03 22	
T0832	随筆 V 青年に	21 01 27	
T0833	*小説 遠雷	21 05 08 ~ 11	
T0834	随筆 港にて		

<b>T0835</b>	随筆 新しき道徳目標の把握		3枚目は2枚目に挿入されたメモ
<b>T0836</b>	随筆 二十年後のヒロシマ		
<b>T0837</b>	随筆 青年運動の行く道	21 11 26	
<b>T0838</b>	随筆 青年よ蘇れ		
<b>T0839</b>	宣言 吉田内閣打倒国民大会へ送るメッセージ	22 01 28	在広文化団体 名
<b>T0840</b>	宣言 メーデーに送るメッセージ	22 05 01	
<b>T0841</b>	随筆 新時代への苦悩 広島青年文化連盟	22 03 04	
<b>T0829B</b>	裏表紙		
<b>M1857</b>	評論 ショパンの生涯 ほか	22	鉛筆書 原稿用紙4枚
<b>M2053A</b>	評論 花咲く広島サロン	22 10 14	同日付中国新聞夕刊2面に掲載 鉛筆書 原稿用紙2枚裏面使用 M2053B 参照
<b>M2053B</b>	随想 平和記念聖堂に関する原稿(部分)		原稿用紙 No 1,2 欠。M2053A の表
<b>M1858</b>	覚書 作品分析ほか	不明	原稿用紙裏 記入上下二段
<b>M1859</b>	主張 広島に於けるヒューマニズム運動	不明	鉛筆書 ザラ紙2枚 山下一夫名
<b>M1860</b>	覚書 自我と社会	不明	A 5 箋4枚 4枚目裏面書き込み
<b>M1861</b>	評論 講演草稿(伝道の母体としての…)	不明	A 5 箋
<b>M1862</b>	評論 広島詩壇の歴史	不明	鉛筆書 B 4 原稿用紙2枚 ザラ紙1枚
<b>M1954</b>	随想 風のなかに	不明	ペン書 B 5 便箋1枚
<b>T0082</b>	*覚書 平和祭	23 08 06	T0081 (日記)の続きに記入
<b>M1863</b>	評論 美の解放	23	ペン書 B 4 便箋
<b>M1864</b>	評論 青年と文化	不明	鉛筆書 原稿用紙7枚
<b>M1865</b>	評論 青年文化連盟用	不明	鉛筆書 B 5 私製原稿用紙(6枚の内1~4欠落)
<b>M1866</b>	評論 象徴的手法について	不明	ペン書 入学案内の裏2枚使用
<b>M1867</b>	評論 芸術に於ける普遍性の問題	不明	鉛筆書 原稿用紙2枚
<b>M1867B</b>	評論 ども又の死		
<b>M1868</b>	評論 「高原」 木川氏の評論について	不明	鉛筆書 A 5 ザラ紙1枚孔版印刷裏面使用
<b>M1869</b>	評論 恋愛と結婚について	不明	鉛筆書 B 4 ザラ紙1枚両面

<b>M1870</b>	評論 無題「現実…」	不明	ペン書 罫紙2枚
<b>M1871</b>	評論 「広船」職場便り原稿	不明	鉛筆書 B4原稿用紙1枚
<b>M1872</b>	評論 「感覚について」ほか	不明	青ペン書 中国電気協会原稿用紙1枚
<b>M1873</b>	評論 詩に於けるヒューマニズム運動	22	ペン書 A4原稿用紙1枚
<b>M1874</b>	随想 牡蠣について	不明	ペン書 B5原稿用紙1枚
<b>M1875</b>	評論 雑草	不明	青ペン書 B5原稿用紙半切 裏面メモ?
<b>M1876</b>	覚書 詩という言葉にある二つの意味について	不明	裏面メモ
<b>M1877</b>	覚書 無題「人民を離れて名作なし…」	不明	鉛筆書 B4原稿用紙1枚 裏面メモ
<b>M1878</b>	覚書 『われらの詩』 西條の意見	不明	広島詩人協会会則裏面使用
<b>M2119</b>	評論 「〈我は海の子〉をよまされて」作品模写・感想	不明	ペン書 原稿用紙6枚
<b>M1911</b>	講演草稿 詩の話 峠三吉名	23	ペン書 ザラ紙7枚 印刷物裏面使用
<b>M1896</b>	宣言 八月六日を迎ふるに当りて	24 08	ザラ紙短冊状両面 峠三吉名
<b>M1897</b>	宣言 八月六日を迎ふるに当りて	24 08	青・赤ペン書 原稿用紙2枚
<b>T0844A</b>	ノート memo Mitsuyoshi	24 09	A4 ノート T0845~T0848 所収
<b>T0845</b>	覚書 民主主義藝術論		
<b>T0846</b>	覚書 創作方法		
<b>T0847</b>	筆写 「抵抗詩人アラゴン」(矢内原伊作)	24 11 24	
<b>T0848</b>	覚書 社研メモなど		
<b>T0844B</b>	裏表紙		
<b>M2894</b>	宣言 「ことば」(「われらの詩の会」結成宣言)	24	ペン書 A4原稿用紙1枚 画像欠
<b>M1728</b>	覚書 児童教育に関するメモ 峠三吉名	25 04 01~	大学ノート
<b>T0083</b>	*覚書 原爆三部作赤松さんの説明文	25 10 09	T0082 の続きに記入
<b>M1729</b>	覚書 「詩に関するノート」後半は「権利のための闘争」(イエーリング)覚書	25 12~	大学ノート
<b>M2898</b>	覚書 例会作品批評	不明	ペン書 B5 ザラ紙1枚 画像欠
<b>M1879</b>	覚書 無題「荒地の…」	27	鉛筆書 B4 ザラ紙1枚 孔版刷裏面使用

M1880	覚書 無題「破滅…」	不明	鉛筆書 箋2枚両面
M1881	覚書 無題「芸術哲学の中心課題…」	不明	鉛筆書 文化評論社封筒裏面
M1882	覚書 本当のものを知る気持ち	不明	青ペン書 B5 ザラ紙半切2枚
M1883	覚書 男女の交際について	不明	鉛筆書 B5 ザラ紙2枚両面
M1884	覚書 無題「個性が眞に…」	不明	鉛筆書 日英濠交歓音楽会の券裏面使用
M1885	覚書 無題「時代の悩みを…」	不明	鉛筆書 A5 箋1枚
M1886	覚書 創作メモ	不明	鉛筆書 封筒裏面使用
M1887	覚書 小説に関するメモ	不明	鉛筆書 薬包紙1枚
M1889	覚書 「人民文学」予告	不明	
M1890	覚書 『われらの詩』作品合評	xx 12 08	B4 ザラ紙1枚
M1892	覚書 「われらの詩の会」定例会内容	xx 12 14	青ペン書 B4 ザラ紙1枚 チラシ裏面使用
M1893	覚書 愛すればこそこのメモ	不明	青ペン書 B5 ザラ紙1枚 両面
M1894	覚書 無題「創作のモチーフとなる…」	不明	鉛筆書 封筒に記入
M1895	覚書 詩作に必要なもの	不明	赤ペン書 A4 原稿用紙裏面使用
M1898	覚書 無題「肉体関係を…」	不明	鉛筆書 原稿用紙2枚
M1899	覚書 無題「このようにして展開されてきた…」	不明	ペン書 ザラ紙3枚
M1900	覚書 無題「嘗て山上に…」	25	ペン書 広電労組用箋3枚
M1901	覚書 人間性の解放	23	鉛筆書 B5 陸軍用箋2枚両面
M1902	随想 文学サークル運動について	不明	ペン書 ノート用紙3枚両面 画像なし
M1903	古典的象徴主義	不明	鉛筆書 B5 原稿用紙裏面使用 2枚目覚書断片
M1904	評論 ヒロシマレポート 山下良夫名	不明	A4 原稿用紙4枚
M1905	評論 方向について	不明	ペン・鉛筆書 B4 原稿用紙 署名 2枚目 覚書断片
M1906	評論 詩誌評論	不明	青ペン書 B4 原稿用紙5枚
M1907	覚書 原養詩の会	24	ペン書 原稿用紙半切1枚 2枚目没草稿
M1908	評論 わかば文化サークル	不明	青ペン書 A4 原稿用紙1枚
M1909A	評論 「高原詩の会」について	不明	青ペン書 A4 原稿用紙

M1909B	評論 「われらの詩の会宮内支部」について	不明	
M1909C	覚書 「原療詩の会」	不明	A 4 原稿用紙半切 2 枚
M1917	評論 『反戦詩歌集』あとがき	25 08	ペン書 B 4 ザラ紙 2 枚
M1910	評論 無題「…一九二九年…」	25	鉛筆書 B 5 (No.1 欠) 孔版刷裏面使用
M2331	覚書 破防法反対対策準備会メモ	25 頃	B 5 ザラ紙半切 1 枚
M2409	*原爆詩画展割付メモ自筆 一部 詩文を含む	25	青ペン書 B 5 ザラ紙半切 1 枚 (28 綴) 旧版では、1 枚ごとに異なる番号を付与しているが、内容からして同一資料とする。
M1912	訴え 百合子二周忌記念会と多喜二祭を開こう	不明	ペン書 原稿用紙 2 枚
M1913	組合雑誌評	不明	ペン書 原稿用紙 6 枚 6 枚目裏面メモ
M1914	評論 われらの詩はどのようにすすむべきか	不明	ペン書・鉛筆書 A 4 原稿用紙 6 枚
M1915	覚書 われら詩の会の方向と任務	不明	ペン書 原稿用紙裏面使用 裏面メモ
M1916	評論 無題「かくて道は…」	26	青ペン書 原稿用紙裏面 1 枚
M2407	*覚書 原爆詩画展計画メモ	26	鉛筆書 B 4 ザラ紙 1 枚
M1918	評論 ちいさいたより 冒頭のみ峠筆?	不明	ペン書 B 5 青木書店原稿用紙 4 枚
M1919	書評 『風の子物語』増岡敏和生活詩集	不明	ペン書 B 5 青木書店原稿用紙 4 枚
M2303	覚書 年賀展準備メモ	27 01	鉛筆書 B 5 ザラ紙 会計報告裏面使用
M2302	覚書 原爆の子友の会 (結成会) メモ	27 02 17	鉛筆書 A 4 ザラ紙半切 1 枚
M1920	座談会記録 文学運動をどう進めるべきか - 破防法をめぐって	27 06 01	ペン書 原稿用紙 1 2 枚 記録者不詳
M2406	*覚書 「原子雲の下に」序文メモ	27 07	鉛筆書 青木書店原稿用紙裏面 1 枚
M2379	*覚書 『原子雲の下より』青木文庫用序文 (「1945年…」)	27 08 06	ペン書 原稿用紙 19 枚
T0010	宣言 広島平和大会宣言草稿	27 08 06	
M2296	宣言 「平和宣言」(草稿)	27 08 06	ペン書 B 5 原稿用紙
M2297	「宣言」 平和大会宣言文案	27 08 06	ペン書 原稿用紙 1 枚
T0032	覚書 8. 6 平和行進に向けてのメモ	27 08	
M2357	*覚書 『原子雲の下より』に現れた問題	27 08	鉛筆・青ペン書 A 5 ザラ紙 裏面メモ
M2358	*覚書 「原爆の詩」応募作品に対する感想ほか	27 08	鉛筆・青ペン書 B 5 原稿用紙

M2359	*覚書 「原爆の詩」序文	27 08	青ペン書 B 5 ザラ紙2枚
M2906	*『われらの詩』16号あとがき	27 09 04	ペン書 A 4原稿用紙1枚 画像なし
M2292	覚書 『原爆詩集』出版記念会の準備メモ	27 09 21	青ペン書 A 4原稿用紙1枚
M2293	覚書 『原爆詩集』出版記念会のメモ	27 09 21	B 4 ザラ紙3枚両面
M2294	覚書 『原爆詩集』出版記念会収支メモ	27 09 21	
M1923	訴え メッセージ「世界連邦アジア会議に…」	27 11 04	鉛筆書 B 4 ザラ紙3枚
M1924	訴え メッセージ「世界連邦アジア会議に…」	27 11 04	罫紙3枚(カーボン複写) M1923 の浄書
M1891	覚書 オストロフスキーの詩の訳	27	鉛筆書 B 4 ザラ紙1枚
M1921	覚書 戦争と文学	27	ペン書 原稿用紙裏面2枚
M1922	訴え すべての人々に『新日本文学』の支持を訴える	27	ペン書 原稿用紙2枚
M1925	訴え 共通の問題点	28 01	ペン書 原稿用紙7枚
M1926	訴え 呼びかけ	28 02 10	ペン書 B 5 青木書店原稿用紙4枚
M1928	覚書 政治と文学についての討論会まとめ	xx 07 22	鉛筆書 原稿用紙6枚
M2104A	覚書 峠家家系図	不明	
T0030	覚書 詩作メモ	不明	
T0034	覚書 無題「歩いてゆく…」	不明	詩作断片か
T0038	覚書 アメリカへの手紙	不明	
T0039	評論 新しき道德目標の把握	不明	
T0040	随筆 夕ぐれの感想	不明	
T0041B	覚書 哲学に関するメモ	不明	T0041 の裏面
T0031	覚書 被爆状況の聞書	不明	
M2258	覚書 「小林さんの話」として聞書	不明	青ペン書 B 5 ザラ紙1枚 裏面断片か?
M2290	覚書 正田篠枝の生い立ち・被爆・体験記他	不明	鉛筆書 A 4 ザラ紙半切5枚
M2300	覚書 平和運動プログラム	不明	青ペン書 帳簿の裏面使用
M2317	覚書 アンケート発送者名簿	不明	B 5 ザラ紙半切 詩人協会会則裏面使用
M2939	*覚書 『われらの詩』「あとがき」	不明	青ペン書 B 4原稿用紙1枚 画像なし
M2373	*評論 「原子雲の下より・序文」草稿	不明	ペン書 原稿用紙1枚
M2374	*評論 「子供の詩は教える」	不明	青・赤ペン書 原稿用紙14枚

			No. 6, 7 欠
<b>M2375</b>	*評論 「原子雲の下より」序文	不明	鉛筆書 B5原稿用紙20枚 画像不鮮明 No. 15 欠

(5) 台本・シナリオ

資料番号	資料名	日付	備考
M2123	台本 合唱劇 僕たちの恋	24 03 08 発表	謄写印刷 B5 ザラ紙 17頁 振り付け指定記入
M2124	合唱劇 僕たちの恋 峠三吉・詩	24 03 08 発表	謄写印刷 B5 ザラ紙 17頁 (2部) M2123 と同一
M2127	台本 シュプレコール 革命の前夜 楽譜 (弾圧の嵐は...) 付き	24	謄写印刷 B4 ザラ紙 書き込みあり 1枚目メモ (入場券裏面使用)、3枚目楽譜 (答案用紙裏面使用)、
T0015	台本 シュプレヒコール リベットの響き	24 08 28	謄写印刷 振り付け指定記入
M2120	台本 シュプレヒコール 解放の歌	25	B4 原稿用紙 色付き
M2121	台本 人民解放の歌	25 08 15 発表	謄写印刷 B4 ザラ紙半切 15頁 振り付け指定記入
M2122	合唱詩 赤土の丘 峠三吉・詩	27	原稿用紙 15枚
M2126	台本 構成プロット 合唱構成	不明	B5 レポート用紙 17頁
M2128	場割り 合唱劇・寸劇場割り	不明	ペン書 ザラ紙 平和祭ビラ裏面使用
M2256	合唱劇草稿	不明	青ペン書 メモ用紙 旧版に青木書店原稿用紙も使用とあるが、画像なし
T0014	台本 シュプレヒコール 人民解放の歌 (8. 15 解放記念日のために)	不明	
T0035	台本 詩劇 憤怒 構成プラン	不明	



## 峠三吉自筆草稿表題索引 (アイウエオ順)

### 凡例

- \*印あるものは別項目にも掲載予定。
- 網掛けは一綴りのノートや詩集などの始まりと終わりを示す。
- 『自筆草稿画像目録』所収資料のうち、画像のないものは本索引からのぞいた。
- 原則として題名あるいは副題冒頭の語（句）または題名中あるいは副題中の語（句）二つを索引の対象とした。
- 無題の詩については冒頭部分、詞書のない俳句、短歌については最初の一句、一首の冒頭を索引の対照とした。無題と題されたものはこの限りでない。
- 下線は、その部分が索引の対象であることを示す。
- 題名にA, B, C, …, 1, 2, 3, …など番号の振られている場合、番号自体は無視した。
- 旧仮名遣い及び片仮名はそれぞれ現代仮名遣い、平仮名に変換して配列した。年月日を示す漢数字は英数字に変換した。
- 数字、英字は末尾に配列した。
- 読みに疑義のある語句と本索引での読みを以下に示す。
  - 「…の詩」など、文節末尾の「詩」は「うた」と読んだ。
  - 「石菰」(T0286 及び T0319) : 「つわぶき」。池田正彦氏のご教示によれば、「ふき」と読まず場合もある。
  - 「初玄」(M1952 及び T0368) : 「しょげん」。
  - 「後愁」(T0523) : 「ごしゅう」。
  - 「傷痕」(M2377) : 「しょうこん」
  - 「稚彦様」(M2047) : 「わかひこさま」
  - 「夜汐」(T0780) : 「やしお」
  - 「其為の心」(T0793) : 「そのためのこころ」

あ行	
T0334	あゝ我に
M1938	無題「あゝ学舎もこの業も…」
M1995	無題「あゝ私にこんな幸福が…」
M2042C	無題「ああ一人で…」
M1994	無題数点「あゝ氷山か南に流れ…」ほか
T0183	噫！否！（死の刻に寄せて）
T0614	まことの愛
T0309	愛
T0029	愛と屍と
T0370	愛のうた
T0020	愛の季節 峠みつぼし名
T0663	愛の極北
M1991	愛の風景
T0021	愛の黎明
T0376	愛の黎明
T0028	詩集 愛と屍 (M.TOGE)
T0236	真実の愛
T0202	愛苦
T0292	愛国行進曲
T0229	秋の日（遠き人の愛情を歌える）
T0454	わが愛するもの
M1893	覚書 愛すればこそそのメモ
M1961	あひ寄る魂は
T0683	あをいよる 11句
T0368	初玄（青い上着の女に寄す）（西條にて）
T0436	青い焰のやうに
T0488	青い海の絵
T0389	青い星
T0781	青柿 6首
T0796	蒼き夢 4首
T0144	海をあをきを
T0514	蒼く昏れる心の中に
T0260	蒼く昏れる心の中に
T0688	青芝 107句
M2010	碧空
M1996	1首 MITSU名 <青野原…>
T0371	少女像（紅いオーバーをまとい白いマスクをせる絵にそへて）
T0729	紅き小櫛 13首
T0195	ダリアと赤児

T0623	暁
T0208	暁の戦闘
M2122	合唱詩 赤土の丘 峠三吉・詩
T0083	*覚書 原爆三部作赤松さんの説明文
M2254	丸木位里・赤松俊子原爆の図に寄せて
T0234	うす明り
T0521	ラヂオのあかり
T0812	夏より秋へ 14首
T0647	見出し <<秋>>
T0783	此の秋 6首
M2071	秋
T0782	秋に入る頃 8首
T0146	秋の思ひ
T0388	秋の小山
T0320	秋の人
T0229	秋の日 (遠き人の愛情を歌える)
T0404	秋の林
T0626	秋月夜
T0363	秋二題 (表紙のポスターのために)
T0452	峠の秋
T0678	林の秋 22句
T0498	秋空
T0758	20首<暁け空の…>
T0296	憧れ
T0393	あさ・ひる・ばん (タカシをよめる)
T0394	よいあさ
T0731	或る朝の歌 57首
T0331	夏の朝
M1955	却初の朝
M1956	却初の朝
T0343	劫初の朝
M1977	朝
T0007	朝
T0450	朝の徑にて
T0284	朝静か
T0434	道化師の朝の唄
T0207	梅雨曇りの朝一病院にて一
T0677	朝霧の駅 10句
T0242	朝夕
M1923	訴え メッセージ「世界連邦アジア会議に…」
M1924	訴え メッセージ「世界連邦アジア会議に…」

T0513	<sup>アツカ</sup> 晨
T0668	俳句 葦笛 308句
T0797	飛鳥の代 6首
T0764	～新しきいのち～ 27首
T0835	随筆 新しき道德目標の把握
T0039	評論 新しき道德目標の把握
T0385	暑い日
T0425	病ひ篤き時の或る心象
T0754B	或る人の病ひ篤しと聞きて 17首
T0703	*覚書 あと書き (抄録)
M1917	評論 『反戦詩歌集』あとがき
T0803	月と兄 6首
T0550	讚美のうた 姉のコラール作曲のために
T0303	姉のコラールの為に (2)
T0308	二人の姉
T0214A	詩集表紙：峠 みつぼし 第一頁：あふれ 溢れ みつよし
M1987	溢れる想ひ
T0275	雨
T0725	雨の唄 3首
T0524	雨の日に
T0532	無題「雨が降る…」
T0180	横さまの陽かげの中に～雨之助先生の為に～
T0038	覚書 アメリカへの手紙
T0847	筆写 「抵抗詩人アラゴン」(矢内原伊作)
T0471	アラビヤの黄金
T0795	霞 8首
T0174	あらはれ
T0179	一或る苦しき日に 六編
T0117	*短歌：紫なせる (ある人に)
M2260	ある婦人え
T0012	ある婦人え
T0013	ある夜のコンサート
T0676	アル日のうた 26句
T0607	或るベアトリッチェ
T0420	或る唄
T0737	或る時 13首
T0806	或る時 5首
T0561	或る少年の手紙
T0754B	或る人の病ひ篤しと聞きて 17首
T0547	或る想念
T0731	或る朝の歌 57首

T0294	或る突撃の歌
T0307	或る日
T0726	或る日のひと 13首
T0827	或る病友 10首
M2261	或る婦人へ
T0206	或る未明の戦闘 (突撃)
T0415	或る夜の私・Q氏
T0747	或る友より 7首
T0761	或る夕ぐれに 7首
T0808	又或る時 9首
M2102	無題「僕は歯科医の…」、「或る静かな…」「風化してみた…」
T0187	河沿ひに歩いてみると
T0034	覚書 無題「歩いてゆく…」
T0330	抱擁 (或る種 <sup>KYOSAN</sup> の青年達 <sup>JINEI</sup> に) <sup>NO</sup>
M1879	覚書 無題「荒地の…」
M2317	覚書 アンケート発送者名簿
T0544	暗夜
T0779	南部の家 8首
T0473	岬の家
T0662	いかで忘れむ
M2056	怒りのうた
T0507	怒りのうた (日鋼争議暴圧事件)
T0621	怒りの焰
M2266	生埋 母と娘、裏面 別人の原稿?
M1982A	歌詩「 <u>軍都</u> 廢墟と化して…」 <small>いくさまちはいきよ</small>
T0306	生くるといふ事は
M1878	覚書 『われらの詩』 西條の意見
T0226	憩ひ
T0776	医師の子 11首
T0694	凝り輝る月の石 28句
T0482	自然意志
T0109	聾啞学校に移譲せられたる旧校舎の講堂に寄せて
T0505	無題「いたづらな子供が…」
T0137	いたみ
T0789	冬至る 5首
T0510	痴呆の市
T0257	痴呆の市
T0196	一途
T0744	一周忌の谷山宅を訪れて 39首
M2037A	無題「この一書の中には…」
T0285	凍雲

T0605	病ひ (糸崎にて)
M1973	営み
T0183	噫！否！（死の刻に寄せて）
T0114	ジャック（戦死した犬の為に）
T0588	犬
T0764	～新しきいのち～ 27首
T0462	祈り
M1986	無題「今私は東京を…」
T0158	夢いまだ
M1876	覚書 詩という言葉にある二つの意味について
T0423	わが季節の <u>I m a g e</u>
T0655	心の入江
T0163	花を入ると
T0402	瞼の裏の印象
M1974B	たそがれのウィーン
T0126	ヴィンの森の物語—或る人の夢に和して
M2079B	無題「再び浮かぶ顔がある…」
T0243	雨後に
T0167	動いてはいけない
T0464	黄金の牛
T0130	<u>潮</u> と浮標と
T0755	宇品保養園にて 16首
T0148	失ひ
T0237	喪ひ
M2082A	失はれた腕に
T0234	うす明り
T0784	薄粥 6首
T0266	埋火
T0023	<u>歌</u>
T0186	「七洋制覇の歌」応募作
T0522	みんなの歌
T0687	わがうたよ 45句
T0676	アル日のうた 26句
M1988	カズ子の歌
S0008	カチューシャ楽団に捧ぐる詩
M2072	プークに捧ぐる詩
T0536	プークに捧ぐる詩
T0370	愛のうた
T0420	或る唄
T0731	或る朝の歌 57首
T0294	或る突撃の歌

T0725	雨の唄 3首
T0684	雲のうた 9句
T0281	英魂に捧ぐ (英霊を讃える歌応募作)
M2075	歌 (「焚火は消され…」)
M2074	歌 (「焚火は消された…」)
T0289	勤労奉仕の歌
T0537	劇団ブークに捧ぐる詩
T0550	讚美のうた 姉のコラール作曲のために
T0336	寂しき歌
M2039	寂しき歌
T0440	春の唄 (小英雄を読みて)
T0165	小さい詩
T0154	昭和十六年十二月八日の詩
M2120	台本 シュプレヒコール 解放の歌
T0014	台本 シュプレヒコール 人民解放の歌 (8. 15解放記念日のために)
M2121	台本 人民解放の歌
T0004	大山郁夫氏に捧げる詩
T0227	稚き歌 (草上ピアノに添えて)
M2056	怒りのうた
T0507	怒りのうた (日鋼争議暴圧事件)
M2058	同志山本均に贈る詩
T0434	道化師の朝の唄
T0517	文化の日の歌
T0245	平和の歌 (懸賞応募)
T0246	平和の歌 2
T0431	洋紅の詩
T0155	流れに歌ふ
T0001	くろい燕に寄せて歌える
T0641	美し
T0384	美しい日は去る
M2015	無題「美しい風景は…」
T0184	美しき時 (青春) の秘密
T0463	美しき序詩
T0595	戦ひにより美しく
T0037	すべての声は訴える~序文にかえて (『原子雲の下より』序文原稿)
M2082A	失はれた腕に
M1937	懸命に立っている 裏面 「生まれて…」
M2048	「灯」「海に臨む街の夏の夜」ほか
T0567	海に寄せて
T0144	海をあをきを

T0488	青い海の絵
T0470	憧憬（海を隔てての）
M2119	評論 「〈我は海の子〉をよまされて」 作品模写・感想
T0857	小説 鏡占
T0017	小説 鏡占い 山下三夫名
M2117	小説 鏡占ひ
T0368	初玄（青い上着の女に寄す）（西條にて）
M1859	主張 広島に於けるヒューマニズム運動
T0837	随筆 青年運動の行く道
M1873	評論 詩に於けるヒューマニズム運動
T0814B	絵に寄せて 4首
T0488	青い海の絵
T0305	調べの想い（絵に添えて）
T0509	永遠
T0455	永遠の座~故谷山巖君の霊に捧ぐ~
T0820	ニュース映画を観て（11月14日） 10首
T0281	英魂に捧ぐ（英霊を讃える歌応募作）
T0103	夕ぐれ（映像）
T0543	無題「英タン父タン…」 -Oのために-
T0534	無題「英タン父タン…」 ~同志Oのために~
M2059	小説 えいちゃん 野田二郎名
T0281	英魂に捧ぐ（英霊を讃える歌応募作）
T0282	英霊讃頌
M2086	駅にて
T0677	朝霧の駅 10句
T0610	絵本
T0249	絵本
M2247	絵本
T0539	絵本
M2248	繪本
T0833	*小説 遠雷
T0686	<sup>オアシス</sup> 緑地 27句
M2290	覚書 正田篠枝の生い立ち・被爆・体験記他
T0288	王冠
T0471	アラビヤの黄金
T0464	黄金の牛
M2081	黄金の魚
T0697	Nの応召を送る 27句
M2358	*覚書 「原爆の詩」 応募作品に対する感想ほか
T0574	小さくておほきな花
T0799	わが大君 11首



M2093	大土堤に上れば
M2084	大橋の夕べ
T0004	大山郁夫氏に捧げる詩
T0005	丘のある風景
M2122	合唱詩 赤土の丘 峠三吉・詩
T0729	紅き小櫛 13首
T0753	人を送りて 20首
T0738	夜を送りて 10首
T0697	Nの応召を送る 27句
M2259A	第三次世界大戦はおこるかもしれない
T0219	幼い二人
T0227	稚き歌 (草上ピアノに添えて)
T0851	童話 お爺さんと娘
M2374	*評論 「子供の詩は教える」
T0430	押花に寄せて
T0486	お正月
M1891	覚書 オストロフスキーの詩の訳
T0483	お空に住んでいるもの
T0342	月夜の怖れ
T0241	怖れ
T0127	怖しき悲しみなく
T0439	おとうと (スティーブソン・ほんあん)
M2107	童話 おとぎばなし 狐と狸
T0823	男の子 6首
T0448	訪れ
T0122	はつ夏の少女 (ヲトメ)
T0204	透身の踊り
T0022	透身の踊り
T0321	驚きと歎びと
T0813	己れ 21首
T0707	139首 <尾羽 <sup>ヲハ</sup> うち振る…>
T0371	少女像 (紅いオーバーをまとい白いマスクをせる絵にそへて)
M1720	「断想 覚書」みつよし
M1722	覚書 「覚え書 (4)」 みつよし
T0696	おぼろ夜 27句
T0197	朧夜
T0635	朧夜
M2073A	加代子よお前は叫べ
T0643	わが想ひ
M1987	溢れる想ひ
T0146	秋の思ひ

T0305	調べの <u>想</u> い (絵に添えて)
T0554	二度目の <u>思慕</u> <sup>おもひ</sup>
M2066	無題「わが <u>想</u> ひ咲きゆくなべに…」ほか断片
T0327A	シオンを <u>想</u> ひて泣けるヘブレアの歌人に和して
T0459	<u>思</u> ひ出
M1950	<u>思</u> ひ出
M1975	花に <u>思</u> ふ M. TOGE名
T0104	<u>おも</u> かげ
T0649	<u>面</u> 影
T0215	<u>倅</u>
T0701	<u>折</u> 々に 29句
T0762	～ <u>オ</u> リオンの頃～ 12首
T0508B	無題「われらは <u>愚</u> か者だから…」
M1953	尾張町すきや橋にて
T0016	小説 ヨハン少年物語 (バルバラの <u>恩</u> 返し)
T0162	<u>恩</u> 寵
T0645	夏 <u>の</u> 女
T0368	初玄 (青い上着の <u>女</u> に寄す) (西條にて)
M2014	和さんという <u>女</u> のひとに
か行	
T0027	<u>回</u> 帰
M1957	<u>回</u> 帰
M2279	「 <u>生</u> 」(会社へと食物あさりにと…)
T0270	<u>回</u> 想
T0101A	表紙「(詩二) ゆたか・みつぼし・光芳・峠」、「推稿一束 <u>回</u> 想のよすがに みつよし」と記
T0263	白い <u>外</u> 套 (奉秋の夜に)
T0190	結核 <u>恢</u> 復者 (複十字人)
M1901	覚書 人間性の <u>解</u> 放
M2120	台本 シュプレヒコール <u>解</u> 放の歌
T0014	台本 シュプレヒコール 人民 <u>解</u> 放の歌 (8. 15解放記念日のために)
M1863	評論 美の <u>解</u> 放
M2121	台本 人民 <u>解</u> 放の歌
M1968	<u>会</u> 話
M1967	<u>会</u> 話 峠みつよし名
T0372	<u>會</u> 話～情念は過度でなくては美しくあることができぬ～パスカル
T0675	か・え・る・よ 4句
M2087	<u>顔</u>
M2079B	無題「再び浮かぶ <u>顔</u> がある…」
T0857	小説 <u>鏡</u> 占

T0017	小説 <u>鏡占い</u> 山下三夫名
M2117	小説 <u>鏡占ひ</u>
T0252	たかきものは群れ輝いて
T0369	<u>輝き</u>
T0199	<u>かかる</u> 時にも
M1874	随想 <u>牡蠣</u> について
T0781	<u>青柿</u> 6首
T0556	<u>楽想</u>
S0008	カチューシャ <u>楽団</u> に捧ぐる詩
M1916	評論 無題「 <u>かくて道は…</u> 」
M2127	台本 シュプレコール <u>革命</u> の前夜 楽譜（弾圧の嵐は…）付き
T0633	<u>隠れん坊</u>
T0591	わが心の <u>陰</u> を
T0164	街角の <u>陰</u>
M2104A	覚書 <u>峠家家系図</u>
M1948	「自分との別れ」、「何を書こうか」
T0658	暈月
M1976B	無題「 <u>重なり重なり…</u> 」
T0344	由美子と <u>火事</u>
M2088	由美子と <u>火事</u> 峠みつぼし名
T0327A	シオンを想ひて泣けるヘブレアの <u>歌人</u> に和して
T0333	天なる <u>假睡</u>
M1988	<u>カズ子</u> の歌
M2014	和さんという女のひとに
M1954	随想 <u>風</u> のなかに
T0606	<u>風</u>
T0608	<u>風</u>
T0361	<u>風</u>
M1939	無題「南の <u>風</u> が湿りを…」
M1919	書評 『 <u>風の子物語</u> 』増岡敏和生活詩集
T0129	昔の <u>家族</u>
M2253	無題「さらに数年…」 裏面無題「 <u>家族</u> が…」
T0786	<u>硬き花</u> 5首
T0476	<u>かたばみ</u>
M1855	評論 広島 <u>歌壇</u> 評
S0008	カチューシャ <u>楽団</u> に捧ぐる詩
T0205	日本は <u>勝つ</u> （山本兵長の記事に感動して）
M2256	<u>合唱劇</u> 草稿
M2128	場割り <u>合唱劇</u> ・寸劇場割り
M1900	覚書 無題「 <u>嘗て</u> 山上に…」
M1890	覚書 『われらの詩』作品 <u>合評</u>

T0176	過程
M1942	プロテスタントとカトリシズム
T0340	プロテスタントとカトリシズムの交響
T0291	悲しみ
T0316	悲しみの
T0127	怖しき悲しみなく
T0805	花粉 6首
T0492	南瓜畑を歩きし時
T0553	樹木と神
T0314	神のよろこび
T0564	神の中に
T0821	神風特別攻撃隊出撃情景 15首
T0784	薄粥 6首
M2073A	加代子よお前は叫べ
T0287	からの花 ~ 西お兄よりもらいし花
T0354	体 <sup>カラダ</sup> をかけて
T0110	彼
T0278	河
M2267	河のある風景
M2268	河のある風景
T0187	河沿ひに歩いてみると
T0493	川端に涼む若き母親
T0756	～河辺貞吉師傳道会～ 9首
T0763	寒の夜 6首
T0348	棺の釘を打つ者
M1872	評論 「感覚について」ほか
T0571	鹹湖
T0006	患者輸送車にて
M2358	*覚書 「原爆の詩」応募作品に対する感想ほか
T0040	随筆 夕ぐれの感想
M2119	評論 「〈我は海の子〉をよまされて」作品模写・感想
T0560	藤樹の死に寄す~その日我は観能の席にありき~
T0233	陥没
T0802	眼裏 8首
T0708	155首 <樹の闇に…>
M1868	評論 「高原」 木川氏の評論について
M2258	覚書 「小林さんの話」として聞書
T0031	覚書 被爆状況の聞書
T0295	菊 国民歌謡応募
T0400	無題「銀の木靴が・・・」
T0825	菊名池 7首

M1940	義兄危篤にて長崎へ急ぎつつ
T0205	日本は勝つ（山本兵長の <u>記事</u> に感動して）
M2376	<u>傷</u>
M2378	<u>傷</u>
T0423	わが <u>季節</u> の I m a g e
T0020	愛の <u>季節</u> 峠みつぼし名
T0689	<u>季節</u> <u>季節</u> 17句
T0465	<u>季節</u> の鈴
M1854B	随想<断片> <u>季節</u> の雑感
M2103	封殺の <u>季節</u>
M2042B	無題「 <u>キタイスカヤ街</u> の…」
M1990	無題「 <u>汚い服</u> の人達は…」
T0745	<u>喫茶店</u> に一人行きて 20首
T0293	誰も知らない <u>喫茶店</u>
M2107	童話 おとぎばなし <u>狐</u> と <u>狸</u>
T0474	<u>汽笛</u> に寄する <u>想念</u>
T0767	<u>祈祷会</u> 7首
M1940	義兄危篤にて長崎へ急ぎつつ
M1912	訴え 百合子二周忌 <u>記念会</u> と多喜二祭を開こう
T0640	<u>気まぐれ</u>
M2275	無題「 <u>君</u> はそこに…」
M1882	覚書 本当の <u>もの</u> を知る <u>気持ち</u>
T0003	<u>急患</u> 輸送車にて
T0002A	白衣～H旧軍人療養所にて
T0109	聾啞学校に移譲せられたる旧校舎の講堂に寄せて
M1728	覚書 児童教育に関するメモ 峠三吉名
T0665A	句集 俳句「 <u>饗宴</u> 」 みつよし
M2057B	無題「 <u>行政協定</u> は…」
T0850	童話 百足競争
M1925	訴え <u>共通</u> の問題点
T0508A	<u>共闘</u> の誓い～日鋼労働者の妻子に捧ぐ～
M2055	<u>共闘</u> の誓ひ
T0107	<u>郷里</u>
T0611	聖き憎しみ
T0663	愛の <u>極北</u>
T0240	<u>霧闇</u>
T0271	<u>銀</u> の笛
T0400	無題「 <u>銀</u> の木靴が・・・」
T0511	<u>金貨</u>
T0258	<u>金貨</u>
T0403	瀕死の <u>金魚</u>

T0506	金婚式 (頼雄の編曲のために)
T0256	金婚式 (頼雄の編曲のために)
T0711	* 覚書 近代短歌の流れ
T0785	金木犀 6首
T0289	勤労奉仕の歌
T0515	悔
M2042E	焦燥と空虚と
T0772	空襲 4首
T0828	戦ひ (5. 29 横浜大空襲)
T0749	苦患 11首
T0348	棺の釘を打つ者
T0421	二つの草花
T0399	くすり詩抄
T0392	ぼんがん靴
M2255	靴
T0600	苦痛
M2042Z	無題「くったくのなさそうな…」
T0211	日輪の国
T0841	随筆 新時代への苦悩 広島青年文化連盟
M1989	熊まつり
M1913	組合雑誌評
T0468	雲
T0801	雲 13首
T0578	雲 (雲よ! 遠く沈んでより心をみせるお前よ)
T0684	雲のうた 9句
T0134	月夜の雲
M1982B	無題「雲は灰金?…」
M2007	宗大仙苑書簡草稿 裏面無題「空は曇り…?」
T0207	梅雨曇りの朝
T0563	暗い路
T0596	暗く寂しく (K. T. に寄す)
M2077	クリスマス
T0179	一或る苦しき日に 六編
T0178	メシ (苦しき日に)
T0585	苦しみは
M2076	苦しみは 峠みつよし名
M2078	呉の街にて
M2079A	呉の街にて
T0156	紅の章 <sup>シレン</sup>
T0514	蒼く昏れる心の中に
T0260	蒼く昏れる心の中に

M2045	「恋人」、「黒い屍」、「焼跡」ほか
T0001	くろい燕に寄せて歌える
M2407	*覚書 原爆詩画展計画メモ
T0501	色彩風景~交通警官に~
T0845	覚書 民主主義藝術論
M1881	覚書 無題「芸術哲学の中心課題…」
M1867	評論 芸術に於ける普遍性の問題
T0537	劇団プークに捧ぐる詩
M2075	歌（「焚火は消され…」）
M2074	歌（「焚火は消された…」）
T0190	結核恢復者（複十字人）
T0201	結婚
M2002	小説「二人は結婚…」
M1869	評論 恋愛と結婚について
M2269	山口県平和擁護委員会結成大会の記録 裏面メモ
T0041	袂別
M2035A	無題「煙りの咽ぶ遠い…」
T0599	盲ひた獣が
M2070	「白衣」「療養所の幻影」
T0443	幻影
T0299	幻影
T0754	健康相談所に行き 18首
T0716	徴兵検査 14首
T0157	顯示
T0549	顯示（「逸楽」を変更）
M2406	*覚書 「原子雲の下に」序文メモ
M2357	*覚書 『原子雲の下より』に現れた問題
M2379	*覚書 『原子雲の下より』青木文庫用序文（「1945年…」）
M2373	*評論 「原子雲の下より・序文」草稿
M2375	*評論 「原子雲の下より」序文
M1870	評論 無題「現実…」
T0699	無題 212句 <幻日や…>
T0152	原生
T0105	幻想の地に
M2407	*覚書 原爆詩画展計画メモ
M2409	*原爆詩画展割付メモ 自筆 一部 詩文を含む
T0083	*覚書 原爆三部作赤松さんの説明文
M2293	覚書 『原爆詩集』出版記念会のメモ
M2292	覚書 『原爆詩集』出版記念会の準備メモ
M2294	覚書 『原爆詩集』出版記念会収支メモ
M2251	原爆詩抄構想

M2302	覚書 <u>原爆の子友の会</u> (結成会) メモ
M2358	*覚書 「 <u>原爆の詩</u> 」 応募作品に対する感想ほか
M2359	*覚書 「 <u>原爆の詩</u> 」 序文
M2254	丸木位里・赤松俊子 <u>原爆の図</u> に寄せて
M2263	希い - <u>原爆の図</u> 出版によせて
T0750	<u>縣病院の庭</u> に行く 14首
M1937	<u>懸命</u> に立っている 裏面 「生まれて…」
M1729	覚書 「詩に関するノート」 後半は「 <u>権利</u> のための闘争」(イーリング) 覚書
M1909C	覚書 「 <u>原療詩の会</u> 」
M1907	覚書 <u>原療詩の会</u>
T0776	医師の <u>子</u> 11首
M2302	覚書 <u>原爆の子友の会</u> (結成会) メモ
T0542	<u>子よ</u>
T0622	<u>子よ</u> 四つ手網を
T0528	時々母の <u>みない子</u> のような気がする
T0823	男の <u>子</u> 6首
T0120	貧しき <u>児</u>
T0147	盲目の <u>児</u> と <u>瑪瑙</u> の塔
M2124	合唱劇 僕たちの <u>恋</u> 峠三吉・詩
M2123	台本 合唱劇 僕たちの <u>恋</u>
M2045	「 <u>恋人</u> 」、「 <u>黒い屍</u> 」、「 <u>焼跡</u> 」ほか
T0604	死 ( <u>壕</u> の中にて)
M2036B	無題「 <u>光栄</u> ある…」
T0340	プロテスタントとカトリシズムの <u>交響</u>
T0743	未完成 <u>交響曲</u> を観て 7首
T0702	山口司令搭乗我が航空母艦 20句
M1868	評論 「 <u>高原</u> 」 木川氏の評論について
M1909A	評論 「 <u>高原詩の会</u> 」について
T0709	103首 <かうかうと…>
M1883	覚書 男女の <u>交際</u> について
M1955	<u>却初</u> の朝
M1956	<u>却初</u> の朝
T0343	<u>劫初</u> の朝
T0826	<u>工場</u> 10首
T0292	<u>愛国行進曲</u>
T0283	<u>大陸行進曲</u> 応募作
M2283	A. <u>構図</u>
M2282	*構成案 詩集の <u>構成</u> ・プラン
M2252	<u>構成案</u>
M2126	台本 <u>構成プロット</u> 合唱構成



T0427	リリィ島では (小唄風に)
T0501	色彩風景~ <u>交通</u> 警官に~
T0109	聾啞学校に移譲せられたる旧校舎の <u>講堂</u> に寄せて
M1995	無題「あゝ私にこんな <u>幸福</u> が…」
T0357	<u>公報</u>
T0377	<u>公報</u>
T0037	すべての <u>声</u> は訴える~序文にかえて (『原子雲の下より』序文原稿)
T0487	<u>小鬼</u>
T0128	<u>蟋蟀</u>
T0238	<u>誤解</u>
T0512	<u>故郷</u>
T0259	<u>故郷</u>
T0324	<u>故郷</u> 良夜
T0359	<u>故郷</u> 良夜
T0587	<u>告知</u>
M2257	無題「 <u>国内</u> のわたしたちが…」
T0295	菊 <u>国民</u> 歌謡応募
T0839	宣言 <u>吉田</u> 内閣打倒 <u>国民</u> 大会へ送るメッセージ
M2044	<u>こゝろ</u> の村
T0516	<u>こころ</u> の蛇行
T0591	わが <u>心</u> の陰を
T0578	雲 (雲よ! 遠く沈んでより <u>心</u> をみせるお前よ)
M2259B	求めようとする <u>心</u> のために
T0627A	詩集 表紙: 詩集< 3の附録> 峠三吉 表題 みつぼし小曲・抒情詩抄『 <u>こころ</u> の虹』
T0168	<u>心</u> に
T0437	<u>心</u> のたから
T0311	<u>心</u> の園
T0732	<u>心</u> の隅より 24首
T0135	<u>心</u> の船
T0655	<u>心</u> の入江
T0445	<u>心</u> の風景 (1) 飛行機 (2) 潜航艇
T0514	蒼く昏れる <u>心</u> の中に
T0260	蒼く昏れる <u>心</u> の中に
T0793	其為の <u>心</u> 6首
M2110	童話 シャボン玉とユリの <u>心</u>
T0018	童話 シャボン玉とユリの <u>心</u>
T0642	瞳く <u>心</u>
T0742	<u>心</u> 弱き折 20首
T0499	*引用: <u>ユサク</u> 古代民謡より
T0523	後愁

T0469	白き梢
M1884	覚書 無題「個性が眞に…」
T0499	*引用：コサック古代民謡より
M1903	古典的象徴主義
T0494	孤獨
T0472	遺す言葉
M1876	覚書 詩という言葉にある二つの意味について
T0327	言葉
T0458	春の夜の言葉
M2008	無題「日本という言葉が…」
M2374	*評論 「子供の詩は教える」
M2281	こどもえ
T0558	子供
T0854	童話 三人の子供
T0505	無題「いたづらな子供が…」
M1978B	無題「子供に…」
T0161	此の時
T0783	此の秋 6首
M2037A	無題「この一書の中には…」
M1899	覚書 無題「このようにして展開されてきた…」
M2258	覚書 「小林さんの話」として聞書
T0388	秋の小山
T0550	讚美のうた 姉のコラール作曲のために
T0303	姉のコラールの為に (2)
T0304	嘆きの聖母 (美戸律子曲コラール一篇に附して)
T0433	空をごらん
M2095	無題「咳きあげるとどろどろと凝りかけた…」
T0694	凝り輝る月の石 28句
T0194	聲音
T0013	ある夜のコンサート
T0250	こんなとき父親となる
T0778	金刀羅夏祭り 19首
M2042A	混迷
M2043	混迷
M2042D	混迷 山本理枝名
さ行	
T0721	採果の幸 17首
T0659	再会
T0217	再会
T0692	再建 8句
T0739	最後の夢 44首

T0508A	共闘の誓い～日鋼労働者の <u>妻子</u> に捧ぐ～
M1878	覚書 『われらの詩』 <u>西條</u> の意見
T0368	初玄 (青い上着の女に寄す) (西條にて)
T0375	希い <u>西條療養所</u> のために～白井氏作曲～
T0811	<u>サイパン島</u> 女子自決 16首
M2038	<u>サーカス</u>
M2052	8. 3 <u>サーカス</u> にて
M2081	黄金の <u>魚</u>
M2066	無題「わが想ひ咲きゆくなべに…」ほか断片
M1890	覚書 『われらの詩』 <u>作品合評</u>
M1858	覚書 <u>作品分析</u> ほか
M2119	評論 「〈我は海の子〉をよまされて」 <u>作品模写・感想</u>
T0719	<u>桜の実</u> 抒情 16首
M2041	無題「さわさわと <u>桜若木</u> に…」
T0121	<u>さくらんぼ</u>
M1908	評論 <u>わかば文化サークル</u>
T0269	<u>ざくろ</u>
T0386	<u>柘榴</u>
M2073A	加代子よお前は <u>叫べ</u>
T0636	<u>漣</u>
T0669	俳句 <u>砂城</u> 1025句
M1920	<u>座談会記録</u> 文学運動をどう進めるべきか 一破防法をめぐって
T0721	採果の <u>幸</u> 17首
T0235	<u>幸連禱</u>
T0809	八月雑詠 18首
M1854B	随想<断片> 季節の <u>雑感</u>
T0200	<u>五月</u>
M1913	組合雑誌評
M1875	評論 <u>雑草</u>
T0674	九月の <u>サナトリウム</u> にて 37句
T0336	<u>寂しき歌</u>
M2039	<u>寂しき歌</u>
T0596	暗く <u>寂しく</u> (K. T. に寄す)
T0112	ゆたかな <u>寂しさ</u> の
M2040A	<u>三郎君</u> の見た夢
T0757	<u>左部寿一郎</u> 先生逝去の通知を受く 23首
T0141	晩秋茶房譜
M2253	無題「 <u>さらに</u> 数年…」 裏面無題「 <u>家族が</u> …」
M2053A	評論 <u>花咲く広島サロン</u>
M2041	無題「 <u>さわさわ</u> と <u>桜若木</u> に…」
T0680	「 <u>ニッポン号</u> 」 <u>讃歌</u> 8句

T0720	夕暮の散景 19首
T0282	英霊讃頌
M1900	覚書 無題「嘗て山上に…」
T0181	残照 (まどみの療友達へ)
T0854	童話 三人の子供
T0550	讚美のうた 姉のコラール作曲のために
T0083	*覚書 原爆三部作赤松さんの説明文
T0718	散歩にて 23首
T0722	散歩より 23首
T0417	椿と山脈
M2286	2. 死
M2285	B. 死
T0604	死 (壕の中にて)
M2284	死—全ての理想と勇気を失った夜に—
T0192	早吉の死 (頼雄への頼りに添えて)
T0807	藤樹の死 4首
T0560	藤樹の死に寄す~その日我は観能の席にありき~
M1867B	評論 ども又の死
T0183	噫! 否! (死の刻に寄せて)
M2374	*評論 「子供の詩は教える」
M1729	覚書 「詩に関するノート」 後半は「権利のための闘争」(イエーリング) 覚書
M1876	覚書 詩という言葉にある二つの意味について
M1911	講演草稿 詩の話 峠三吉名
T0101A	表紙「(詩二) ゆたか・みつぼし・光芳・峠」、「推稿一束 回想のよすがに みつよし」と記
M1873	評論 詩に於けるヒューマニズム運動
M2065	無題「もはや詩に戯れる事を…」
T0136A	詩集:「NOTE BOOK 詩(三)」
T0175A	シ(四) 峠 光芳
T0581	泪 (仕合せは飛び掠める翼なの)
M1709B	*詩集「潮鳴り」
T0667	俳句 潮鳴り 202句
T0327A	シオンを想ひて泣けるヘブレアの歌人に和して
M1860	覚書 自我と社会
M2102	無題「僕は歯科医の…」、「或る静かな…」「風化してみた…」
M1917	評論 『反戦詩歌集』あとがき
M2407	*覚書 原爆詩画展計画メモ
M2409	*原爆詩画展割付メモ 自筆 一部 詩文を含む
M2045	「恋人」、「黒い屍」、「焼跡」ほか
T0029	愛と屍と

T0028	詩集 <u>愛と屍</u> (M.TOGE)
T0253	<u>色彩風景</u>
T0501	<u>色彩風景</u> ~交通警官に~
T0222	<u>しぐれ</u>
T0223	<u>時雨</u>
T0811	サイパン島女子自決 16首
M1895	覚書 <u>詩作に必要なもの</u>
T0030	覚書 <u>詩作メモ</u>
M1906	評論 <u>詩誌評論</u>
M2282	*構成案 <u>詩集の構成・プラン</u>
M2293	覚書 『 <u>原爆詩集</u> 』出版記念会のメモ
M2292	覚書 『 <u>原爆詩集</u> 』出版記念会の準備メモ
M2294	覚書 『 <u>原爆詩集</u> 』出版記念会収支メモ
T0247A	<u>詩集</u>
T0019	詩集 Lyrical Ballads (Mitsuyoshi Toge)
T0545A	詩集 S.TOGE (中扉あり)
T0323A	詩集 <u>峠みつぼし</u>
T0627A	詩集 表紙： <u>詩集&lt;3の附録&gt;</u> 峠三吉 表題 <u>みつぼし小曲・抒情詩抄『こころの虹』</u>
T0575	<u>詩集</u> ： 峠 みつよし
T0300	<u>詩集</u> (主として小曲) 峠みつよし (合冊の2)
T0399	<u>くすり詩抄</u>
T0847	筆写 「 <u>抵抗詩人アラゴン</u> 」(矢内原伊作)
T0284	<u>朝静か</u>
M2102	無題「 <u>僕は歯科医の…</u> 」、「 <u>或る静かな…</u> 」「 <u>風化してゐた…</u> 」
T0482	<u>自然意志</u>
M1885	覚書 無題「 <u>時代の悩みを…</u> 」
M1862	評論 <u>広島詩壇の歴史</u>
T0186	「 <u>七洋制覇の歌</u> 」応募作
M1728	覚書 <u>児童教育に関するメモ</u> 峠三吉名
T0688	<u>青芝</u> 107句
M1948	「 <u>自分との別れ</u> 」、「 <u>何を書こうか</u> 」
M1959	無題「 <u>四辺の山々に…</u> 」
T0119	<u>思慕</u>
T0467	<u>初秋の島</u>
M1939	無題「 <u>南の風が湿りを…</u> 」
M1860	覚書 <u>自我と社会</u>
T0848	覚書 <u>社研メモ</u> など
T0815	出撃 (車中にて詠める) 62首
T0114	<u>ジャック</u> (戦死した犬の為に)
M2110	童話 <u>シャボン玉とユリの心</u>

T0018	童話 <u>シャボン玉とユリの心</u>
T0698	軍鶏 7句
M2108	<u>修学旅行</u>
T0251	<u>修学旅行</u> ～第二の父の歌える
M2109A	<u>修学旅行</u> の夜に
T0428	<u>習作</u>
T0713	新古今 <u>習作</u> 4 5 6 首
M2294	覚書 『原爆詩集』出版記念会 <u>収支メモ</u>
T0106	<u>鞆</u>
T0788	<u>秋夜</u> 9首
M2287	C. 負傷者 <u>収容所</u>
M2246	負傷者 <u>収容所</u>
T0710	<u>自由律短歌</u> 2 0 3 首
T0364	<u>祝婚歌</u>
T0740	<u>祝日歌</u> 3 5 首
T0142	<u>珠數</u> のやうに
T0815	<u>出撃</u> (車中にて詠める) 6 2 首
T0814	<u>出撃前後</u> 1 4 首
T0821	神風特別攻撃隊 <u>出撃情景</u> 1 5 首
T0526	<u>出発</u>
M2263	希い 一原爆の凶 <u>出版</u> によせて
M2293	覚書 『原爆詩集』 <u>出版記念会</u> のメモ
M2292	覚書 『原爆詩集』 <u>出版記念会</u> の準備メモ
M2294	覚書 『原爆詩集』 <u>出版記念会収支メモ</u>
T0700	<u>朱泥</u> 1 1 7 句
M1866	評論 <u>象徴的手法</u> について
T0553	<u>樹木と神</u>
M1978A	<u>真理の狩獵</u>
T0220	<u>春怨</u>
T0024	<u>春釀</u>
T0409	<u>春雪</u> の夜 (ポストへと或る便りを)
M2303	覚書 <u>年賀展準備メモ</u>
T0193	<u>春夜の賦</u>
T0601	<u>復讐の頌</u>
T0440	春の唄 ( <u>小英雄</u> を讀みて)
M1857	評論 <u>ショパンの生涯</u> ほか
T0486	<u>お正月</u>
T0300	詩集 (主として <u>小曲</u> ) 峠みつよし (合冊の2)
T0470	<u>憧憬</u> (海を隔てての)
T0821	神風特別攻撃隊 <u>出撃情景</u> 1 5 首
M2377	<u>傷痕</u>

T0244	少女の希い
T0579	少女裸像
M2265	無題「その少女をどうしよう…」
T0371	少女像（紅いオーバーをまとい白いマスクをせる絵にそへて）
M1887	覚書 小説に関するメモ
M2005	小説作品プロットなど
T0373	焦燥
M2042E	焦燥と空虚と
M2290	覚書 正田篠枝の生い立ち・被爆・体験記他
M1903	古典的象徴主義
M1866	評論 象徴的手法について
T0561	或る少年の手紙
T0372	會話～情念は過度でなくては美しくあることができぬ～パスカル
M1719	覚書 「落書（3）」（抄録帳）峠光芳
T0714	昭和16年 372首
T0154	昭和十六年十二月八日の詩
M2276	序曲（曲ったペン）
T0691	食の夜 201句
M1952	初玄 M.TOGE 名
T0368	初玄（青い上着の女に寄す）（西條にて）
T0811	サイパン島女子自決 16首
T0463	美しき序詩
T0115	初秋の頃
T0467	初秋の島
T0719	桜の実 抒情 16首
T0627A	詩集 表紙：詩集<3の附録> 峠三吉 表題 みつぼし小曲・抒情詩抄『こころの虹』
T0213	*覚書：ショパンの“澄心”について
M1857	評論 ショパンの生涯 ほか
M2406	*覚書 「原子雲の下に」序文メモ
M2359	*覚書 「原爆の詩」序文
M2379	*覚書 『原子雲の下より』青木文庫用序文（「1945年…」）
M2373	*評論 「原子雲の下より・序文」草稿
M2375	*評論 「原子雲の下より」序文
T0037	すべての声は訴える～序文にかえて（『原子雲の下より』序文原稿）
T0293	誰も知らない喫茶店
T0305	調べの想い（絵に添えて）
T0118	知りたいこと
T0156	紅の <sup>ソル</sup> 章
T0263	白い外套（奉秋の夜に）
T0149	白い寝巻

T0381	白い生活より
T0469	白き梢
T0713	新古今習作 456首
T0841	随筆 新時代への苦悩 広島青年文化連盟
T0236	真実の愛
T0615	真実
T0695	九つの真珠のみたま 13句
T0751	ハワイ真珠湾潜入の詳細をきいて 10首
T0441	たそがれの心象
T0425	病ひ篤き時の或る心象
T0654	真情
T0172	親切にしてやったとき
M2438	*詩画 「ピカドンで死んだトウチャン」 峠三吉詩 四国五郎画
M2204B	無題「しんちゅうの…」
T0752	17首<沈丁の花を…>
T0418	沈丁の花
M1884	覚書 無題「個性が真に…」
M1922	訴え すべての人々に『新日本文学』の支持を訴える
M1877	覚書 無題「人民を離れて名作なし…」
T0014	台本 シュプレヒコール 人民解放の歌 (8.15解放記念日のために)
M2121	台本 人民解放の歌
M1889	覚書 「人民文学」予告
M1978A	真理の狩猟
T0374	推移
T0101A	表紙「(詩二) ゆたか・みつぼし・光芳・峠」、「推稿一束 回想のよすがに みつよし」と記
T0572	彗星
M2253	無題「さらに数年…」 裏面無題「家族が…」
T0302	梳雲
M1953	尾張町すきや橋にて
T0465	季節の鈴
T0656	芒野
T0493	川端に涼む若き母親
T0439	おとうと (ステューブソン・ほんあん)
T0538	無題「すでに落日は…」
T0650	昂 <small>スバル</small>
M1922	訴え すべての人々に『新日本文学』の支持を訴える
T0037	すべての声は訴える~序文にかえて (『原子雲の下より』序文原稿)
T0732	心の隅より 24首
T0760	住吉橋病院にて 9首



T0519	住吉祭り
M2128	場割り 合唱劇・寸劇場割り
T0483	お空に住んでいるもの
M2279	「生」(会社へと食物あさりにと…)
M2280	「生」(勤めえと食物あさりて…) 裏面別草稿?
T0335	聖暗
T0670	俳句 星雲 7 1 5 句
T0143	その人～聖画に題して
T0736	1 7 首<生活に…>
T0679	生活 7 句
T0770	生活よ 6 首
T0381	白い生活より
T0791	正義 3 首
T0757	左部寿一郎先生逝去の通知を受く 2 3 首
M1928	覚書 政治と文学についての討論会まとめ
T0184	美しき時(青春)の秘密
T0338	蘇る春一広島青年文化聯盟の生誕を祝して
T0838	随筆 青年よ蘇れ
M1864	評論 青年と文化
T0837	随筆 青年運動の行く道
M1853	評論 伝導の前衛としての青年会の前進
T0330	抱擁 (或る種の青年達に)
T0832	随筆 V 青年に
M1865	評論 青年文化連盟用
T0186	「七洋制覇の歌」応募作
T0304	嘆きの聖母(美戸律子曲コラール一篇に附して)
T0497	私の世界
M2259A	第三次世界大戦はおこるかもしれない
M1923	訴え メッセージ「世界連邦アジア会議に…」
M1924	訴え メッセージ「世界連邦アジア会議に…」
M2095	無題「咳きあげるとどろどろと凝りかけた…」
T0123	惜離
T0411	寂寥
T0520	切線
T0456	絶頂
T0576	絶望
M1941	絶望
M1974A	背中・ボタン
M1853	評論 伝導の前衛としての青年会の前進
T0341	先駆者 H・Y・C・Aの人々に
M2297	「宣言」 平和大会宣言文案

M2296	宣言 「平和宣言」(草稿)
T0010	宣言 広島平和大会宣言草稿
T0814	出撃前後 14首
T0777	退院前後 6首
T0445	心の風景 (1) 飛行機 (2) 潜航艇
T0114	ジャック (戦死した犬の為に)
T0757	左部寿一郎先生逝去の通知を受く 23首
T0559	揚棄 (宣戦)
M1921	覚書 戦争と文学
M2036A	無題「戦争なんて…」
T0206	或る未明の戦闘 (突撃)
T0208	暁の戦闘
T0751	ハワイ真珠湾潜入の詳細をきいて 10首
M2127	台本 シュプレコール 革命の前夜 楽譜 (弾圧の嵐は…) 付き
M1886	覚書 創作メモ
T0846	覚書 創作方法
M1894	覚書 無題「創作のモチーフとなる…」
T0856A	小説集 「創作 m. とうげ」
T0555	そうして!
M2096	操車場にて
T0413	早春
T0768	早春 7首
T0265	早春譜
T0227	稚き歌 (草上ピアノに添えて)
T0754	健康相談所に行き 18首
T0547	或る想念
T0474	汽笛に寄する想念
M2275	無題「君はそこに…」
T0133	そのこと
T0116	そのまぶた
T0143	その人～聖画に題して
T0741	その夜 7首
M2265	無題「その少女をどうしよう…」
T0311	心の園
T0793	其為の心 6首
T0728	七月二十八日祖母命日 7首
M1935A	そよ風
T0483	お空に住んでいるもの
T0433	空をごらん
M2007	宗大仙宛書簡草稿 裏面無題「空は曇り…?」
T0498	秋空

T0613	遙かなる <u>空</u> に
M1960	<u>それは</u> …
T0173	無題「 <u>それはほんの他愛のない</u> …」
M2104B	無題「 <u>それは私が</u> …」
た行	
T0173	それはほんの <u>他愛のない</u>
T0777	<u>退院前後</u> 6首
M2290	覚書 正田篠枝の生い立ち・被爆・ <u>体験記</u> 他
M2331	覚書 破防法反対対策準備会メモ
M2259A	<u>第三次世界大戦</u> はおこるかもしれない
T0412	<u>猫抱いて</u>
T0251	修学旅行～ <u>第二の父</u> の歌える
T0353	<u>太陽</u>
T0283	<u>大陸行進曲</u> 応募作
T0609	<u>対話</u>
T0189	花を <u>手折るとき</u> に
T0733	<u>タオルズボン</u> を作りもらひて 4首
T0252	<u>たかき</u> ものは群れ輝いて
T0393	あさ・ひる・ばん ( <u>タカシ</u> をよめる)
T0651	<u>高殿</u>
M1943	無題「 <u>昂ぶりし後の湛えの</u> …」ほか
T0437	心の <u>たから</u>
M1912	訴え 百合子二周忌記念会と <u>多喜二祭</u> を開こう
M2075	歌（「 <u>焚火は消され</u> …」）
M2074	歌（「 <u>焚火は消された</u> …」）
T0232	年 <u>闌</u> けて
T0516	こころの <u>蛇行</u>
M1974B	<u>たそがれ</u> のウィーン
T0441	<u>たそがれ</u> の心象
M1943	無題「 <u>昂ぶりし後の湛えの</u> …」ほか
T0281	英魂に捧ぐ（ <u>英霊を讃える</u> 歌応募作）
T0828	<u>戦ひ</u> （5. 29横浜大空襲）
T0595	<u>戦ひ</u> により美しく
T0771	<u>曇</u> 12首
T0177	<u>立場</u>
M1937	懸命に <u>立っている</u> 裏面 「生まれて…」
T0594	<u>脱皮</u>
T0310	み <u>楯</u> の日
T0169	<u>立札</u>
T0209	遠い <u>谷間</u>
T0455	永遠の座～ <u>故谷山巖君</u> の霊に捧ぐ～

T0744	一周忌の <u>谷山宅を訪れて</u> 39首
M2107	童話 おとぎばなし <u>狐と狸</u>
T0485	<u>たのしさ</u>
T0396	たばこ
T0817	<u>旅の地</u> 11首
M2279	「生」(会社へと <u>食物あさり</u> にと…)
M2280	「生」(勤めえと <u>食物あさり</u> て…) 裏面別草稿?
M1966	「泪」「ねらい」「 <u>弾</u> 」ほか
M1961	あひ寄る <u>魂</u> は
T0409	春雪の夜 (ポストへと或る <u>便り</u> を)
T0192	早吉の死 (頼雄への <u>頼り</u> に添えて)
M1918	評論 <u>ちいさい</u> たより 冒頭のみ峠筆?
T0108	<u>便り</u> に添へて
T0195	<u>ダリア</u> と赤児
T0293	誰も知らない喫茶店
M2111	無題「誰も知らぬ病院の…」 裏面無題「私は枕の横に…」
T0818	<u>太郎</u> 11首
T0631	<u>戯れ</u>
M2065	無題「もはや詩に <u>戯れる</u> 事を…」
M2127	台本 シュプレコール 革命の前夜 楽譜 ( <u>弾圧</u> の嵐は…) 付き
T0711	*覚書 近代 <u>短歌</u> の流れ
T0704A	歌集 <u>短歌</u> Mitsyosi <sup>BENZURU</sup> 紅鶴 みつよし
T0717A	歌集 <u>短歌</u> Mitsyosi (ママ)
T0712A	歌集 <u>短歌</u> mitsyosi
T0710	自由律 <u>短歌</u> 203首
M1935B	<u>短歌</u> 10首
T0766A	歌集 <u>短歌</u> (4) 峠みつよし
M1932	峠三吉 <u>短歌抄</u>
T0426	<u>短劔</u>
M1883	覚書 <u>男女の交際</u> について
M1720	「 <u>断想</u> 覚書」みつよし
T0105	幻想の <u>地</u> に
T0817	<u>旅の地</u> 11首
T0165	<u>小さい</u> 詩
M1918	評論 <u>ちいさい</u> たより 冒頭のみ峠筆?
M1944	<u>小さき</u> 花
T0584	<u>小さき</u> 者
T0347	<u>小さき</u> 星
M1965	<u>小さき</u> 星
T0574	<u>小さくて</u> おほきな花
T0508A	共闘の <u>誓い</u> ～日鋼労働者の妻子に捧ぐ～

M2055	共闘の誓ひ
T0312	近寄っては！
T0378	僕達の力は根を張ってゆく
M2054	僕達の力は根を張ってゆく
T0317	痴愚
T0210	地圖
T0251	修学旅行～第二の父の歌える
M2089	父
T0533	父の病氣
T0759	父よ！ 24首
T0734	父上 5首
T0250	こんなとき父親となる
M2437	*詩画 「花と乳房で…」 峠三吉詩 四国五郎画
T0510	痴呆の市
T0257	痴呆の市
T0503	巷にて
T0254	巷にて
M2080	巷にて
M1881	覚書 無題「芸術哲学の中心課題…」
T0495	中年の労働者
T0794	弔歌 4首
T0213	*覚書：ショパンの“澄心”について
T0716	徴兵検査 14首
T0276	花散れば
T0798	入院追詠 8首
T0326	追憶の美果
T0419	追恨
T0140	追想
T0694	凝り輝る月の石 28句
T0803	月と兄 6首
T0248	電車路線のつぎ目を見たまえ
T0273	月夜
T0274	月夜
T0290	月夜
T0134	月夜の雲
T0342	月夜の怖れ
T0626	秋月夜
T0733	タオルズボンを作りもらひて 4首
T0620	土
T0652	度 <sup>ツ</sup> しみ
M2280	「生」(勤めえと食物あさりて…) 裏面別草稿？

T0268	<u>つとめ帰り</u>
T0218	<u>津浪</u>
T0267	<u>椿</u>
T0417	<u>椿</u> と山脈
T0581	泪（仕合せは飛び掠める <u>翼</u> なの）
M2099	「 <u>つばめ</u> 」他
T0001	くろい <u>燕</u> に寄せて歌える
T0451	眞白なる <u>壺</u>
T0207	<u>梅雨曇り</u> の朝－病院にて－
T0261A	詩集： <u>つる草文集</u> みつぼしの署名 「古きノートより」と「詩集（主として小曲） 峠みつよし」を合冊
T0405	<u>石菫</u>
T0286	<u>石菫</u>
T0319	<u>石菫</u> の花
T0491	<u>手</u>
T0264	僕の手
M2100	無題「 <u>手</u> をにぎらうよ…」
T0847	筆写 「 <u>抵抗</u> 詩人アラゴン」（矢内原伊作）
M1892	覚書 「われらの詩の会」 <u>定例会</u> 内容
T0356	（Kの <u>手紙</u> に）
T0566	ゆふぐれへの <u>手紙</u>
T0561	或る少年の <u>手紙</u>
T0038	覚書 アメリカへの <u>手紙</u>
T0228	<u>手紙</u>
T0435	<u>デス・マスク</u>
T0577	<u>手帳</u> より
T0666	俳句 <u>手帳</u> ・ノートより 1 2 3 句
T0041B	覚書 <u>哲学</u> に関するメモ
M1881	覚書 無題「 <u>芸術哲学</u> の中心課題…」
M1899	覚書 無題「このようにして <u>展開</u> されてきた…」
T0735	<u>轉機</u> 1 4 首
T0185	<u>天才</u>
M2273	無題「 <u>電車通り</u> を渡ったそれは…」、「 <u>爆裂</u> 」ほか
T0248	<u>電車路線</u> のつぎ目を見たまえ
T0800	<u>轉住</u> 8 首
M1861	評論 講演草稿（ <u>伝道</u> の母体としての…）
M1853	評論 <u>伝導</u> の前衛としての青年会の前進
T0756	～ <u>河辺貞吉師傳道会</u> ～ 9 首
T0382	<u>テント虫</u>
T0333	<u>天なる</u> 假睡

T0231	吐息
T0147	盲目の児と瑪瑙の塔
T0406	<sup>とうおう</sup> 冬鶯
M1986	無題「今私は東京を…」
T0452	峠の秋
M2104A	覚書 峠家家系図
M1932	峠三吉短歌抄
M1933	峠三吉俳句抄
T0434	道化師の朝の唄
T0765	*覚書 投稿時筆名
T0618	登行
T0562	同志
M2058	同志山本均に贈る詩
T0534	無題「英タン父タン…」～同志〇のために～
T0807	藤樹の死 4首
T0560	藤樹の死に寄す～その日我は観能の席にありき～
T0702	山口司令搭乗我が航空母艦 20句
M2265	無題「その少女をどうしよう…」
T0204	透身の踊り
T0022	透身の踊り
M1729	覚書 「詩に関するノート」 後半は「権利のための闘争」(イーリング) 覚書
T0543	無題「英タン父タン…」 -〇のために-
T0534	無題「英タン父タン…」～同志〇のために～
T0816	到着 6首
M2438	*詩画 「ピカドンで死んだトウチャン」 峠三吉詩 四国五郎画
T0546	道程
T0835	随筆 新しき道徳目標の把握
T0039	評論 新しき道徳目標の把握
M1928	覚書 政治と文学についての討論会まとめ
T0849A	童話集「童話 とうげみつよし」
T0209	遠い谷間
T0229	秋の日 (遠き人の愛情を歌える)
T0578	雲 (雲よ! 遠く沈んでより心をみせるお前よ)
T0737	或る時 13首
T0806	或る時 5首
T0161	此の時
T0191	負けさうな刻
T0808	又或る時 9首
T0528	時々母のみない子のような気がする
T0182	水音 「何処かで…」

T0705	38首 <何処となく…>
T0232	年 <small>あ</small> 蘭けて
T0294	或る突撃の歌
T0206	或る未明の戦闘（突撃）
T0853	童話 <u>ドッチ・ボール</u>
M2093	大土堤 <small>おほつち</small> に上れば
M1914	評論 われらの詩は <u>どのよう</u> にすすむべきか
T0496	鳶 <small>とび</small> と私
T0581	泪（仕合せは飛び掠める翼なの）
M2272	無題「7丁目の <u>トーフ</u> や…」
T0747	或る友より 7首
T0748	又別の友より 3首
M2249	友
T0318	友（T. T. 君へ）
T0349	友よ
M2048	「灯」「海に臨む街の夏の夜」ほか
T0460	灯を
T0685	夜の灯 16句
M2302	覚書 原爆の子友の会（結成会）メモ
M1867B	評論 <u>ども又</u> の死
T0125	囚 <small>こ</small> はれ
T0461	鳥
M2095	無題「咳きあげると <u>どろどろ</u> と凝りかけた…」
T0350	日頃（どん底）
T0203	曇天薄暮
な行	
T0124	名
M1940	義兄危篤にて <u>長崎</u> へ急ぎつつ
T0711	*覚書 近代短歌の <u>流れ</u>
T0155	<u>流れ</u> に歌ふ
T0279	渚 <small>しづな</small> には
T0131	慰め
T0304	嘆きの聖母（美戸律子曲コラール一篇に附して）
T0327A	シオンを想ひて <u>泣ける</u> ヘブレアの歌人に和して
T0351	何故？
T0529	<u>なぜ</u> に
T0531	<u>なぜ</u> に
T0541	<u>なぜ</u> に
T0301	雪崩
M2048	「灯」「海に臨む街の夏の夜」ほか
T0645	<u>夏</u> の女



T0331	夏の朝
T0397	夏の夜
T0812	夏より秋へ 14首
T0639	見出し <<夏>>
T0313	懐しき
T0387	夏祭
T0442	夏祭
M1969	夏祭り
M1970	夏祭り
M1971	夏祭り
T0778	金刀羅夏祭り 19首
M2272	無題「7丁目のトーフや…」
M1948	「自分との別れ」、「何を書こうか」
T0398	走りゆく波
M1966	「泪」「ねらい」「弾」ほか
T0581	泪（仕合せは飛び掠める翼なの）
M1885	覚書 無題「時代の悩みを…」
T0113	一筋の道 ~ 故成瀬軍曹に捧ぐ~
T0638	汝に
T0779	南部の家 8首
M2100	無題「手をにぎらうよ…」
T0611	聖き憎しみ
T0355	肉体の上に
M2050	肉体の上に
M1898	覚書 無題「肉体関係を…」
M2037B	無題「逃げて…」
T0627A	詩集 表紙：詩集<3の附録> 峠三吉 表題 みつぼし小曲・抒情詩抄『こころの虹』
T0852	童話 虹
T0481	虹
T0628	虹
T0287	からの花 ~ 西お兄よりもらいし花
M1912	訴え 百合子二周忌記念会と多喜二祭を開こう
T0211	日輪の国
T0525	笑いの花~日鋼事件法廷にて~
T0540	笑いの花~日鋼事件法廷にて~
T0507	怒りのうた（日鋼争議暴圧事件）
T0508A	共闘の誓い~日鋼労働者の妻子に捧ぐ~
T0205	日本は勝つ（山本兵長の記事に感動して）
M2008	無題「日本という言葉が…」
T0680	「ニッポン号」讃歌 8句

T0554	二度目の <sup>おもひ</sup> 思慕
M2002	小説「二八は結婚…」
T0773	入院前 12首
T0798	入院追詠 8首
T0820	ニュース映画を観て(11月14日) 10首
T0416	庭で
T0750	縣病院の庭に行く 14首
M1901	覚書 人間性の解放
M1915	覚書 われら詩の会の方向と任務
T0484	ネギの根
T0444	臥椅子にて
M2264	希い
M2263	希い 一原爆の凶出版によせて
T0375	希い 西條療養所のために～白井氏作曲～
T0422	希ひ
T0244	少女の希い
T0484	ネギの根
M1945	「猫」ほか
T0661	猫
T0412	猫抱いて
T0149	白い寝巻
T0598	眠り
T0449	星を見ながら眠るとき
M1966	「泪」「ねらい」「弾」ほか
T0352	ねらひ
T0378	僕達の力は根を張ってゆく
M2054	僕達の力は根を張ってゆく
M2303	覚書 年賀展準備メモ
T0224	年月
T0145	野にて
T0472	遺す言葉
M1729	覚書 「詩に関するノート」 後半は「権利のための闘争」(イエーリング) 覚書
T0262	詩集「古きノートより」(合冊の1)
T0666	俳句 手帳・ノートより 123句
T0634	野火
M2051	野火 峠みつよし名
T0077	*随筆 無題「…伸び上がりながら…」
は行	
T0039	評論 新しき道德目標の把握
M2289	無題「梁の下 埃煙の…」

M1982A	歌詩「 <small>いくさまちはいきよ</small> 軍都廢墟と化して…」
T0671	句集 俳句 (2) MITSYOSI (ママ)
M1933	峠三吉俳句抄
T0026	灰碧の花
T0782	秋に入る頃 8首
T0328	墓穴掘り
M2034	墓穴掘り
M2070	「白衣」「療養所の幻影」
T0002B	白衣
M2073B	白衣(部分)
T0002A	白衣～H旧軍人療養所にて
T0391	白蛾
T0831	随筆 拍手について
T0203	曇天薄暮
T0160	薄暮
T0787	薄明 6首
M2273	無題「電車通りを渡ったそれは…」、「爆裂」ほか
T0398	走りゆく波
T0372	會話～情念は過度でなくては美しくあることができぬ～パスカル
T0479	旗
M1934	裸木
T0580	裸木
T0492	南瓜畑を歩きし時
T0809	八月雑詠 18首
M2317	覚書 アンケート発送者名簿
T0122	はつ夏の少女 (ヲトメ)
T0380A	表紙：詩集 <small>HATODOKETI</small> 鳩時計 みつよし
M1964	夜の波止場 トウゲ名
M2437	*詩画 「花と乳房で…」 峠三吉詩 四国五郎画
T0287	からの花 ～ 西お兄よりもらいし花
M1975	花に思ふ M. TOGE名
T0637	花の眸
T0189	花を手折るときに
T0163	花を入ると
T0276	花散れば
T0026	灰碧の花
T0786	硬き花 5首
M1944	小さき花
T0574	小さくておほきな花
T0525	笑いの花～日鋼事件法廷にて～
T0540	笑いの花～日鋼事件法廷にて～

T0319	石菫の花
T0418	沈丁の花
T0337	風媒の花
M2049	風媒の花
T0573	花陰
M2053A	評論 花咲く広島サロン
M2258	覚書 「小林さんの話」として聞書
M1911	講演草稿 詩の話 峠三吉名
T0322	花鉢
T0216	花鉢
T0565	花火
T0528	時々母のゐない子のような気がする
M2266	生理 母と娘、裏面 別人の原稿？
T0298	母
T0570	母が嶺
T0493	川端に涼む若き母親
M2331	覚書 破防法反対対策準備会メモ
M1920	座談会記録 文学運動をどう進めるべきか 一破防法をめぐって
M1880	覚書 無題「破滅…」
T0192	早吉の死（頼雄への頼りに添えて）
T0404	秋の林
T0678	林の秋 22句
M2289	無題「梁の下 埃煙の…」
T0221	ゆく春
T0629	見出し <<春>>
T0548	春
T0332	春
T0440	春の唄（小英雄を読みて）
T0458	春の夜の言葉
T0592	春浅い半月の
M1951	蘇へる春
T0338	蘇る春—広島青年文化聯盟の生誕を祝して
M2057	無題「春がくるというのに…」
T0358	春風
T0613	遙かなる空に
T0715	春雨の日 83首
T0016	小説 ヨハン少年物語（バルバラの恩返し）
M1997	春日
T0325	雪晴れ
T0792	雪晴れ 11首
M2274	晴れた日

T0751	ハワイ真珠湾潜入の詳細をきいて 10首
M2128	場割り 合唱劇・寸劇場割り
T0393	あさ・ひる・ばん (タカシをよめる)
T0530	夜の <u>反逆</u>
T0592	春浅い <u>半月</u> の
T0141	晩秋茶房譜
M1917	評論 『 <u>反戦詩歌集</u> 』あとがき
M2331	覚書 破防法 <u>反対</u> 対策準備会メモ
T0179	一或る苦しき <u>日</u> に 六編
T0310	み楯の <u>日</u>
T0676	アル <u>日</u> のうた 26句
T0178	メシ (苦しき <u>日</u> に)
T0307	或る <u>日</u>
T0726	或る <u>日</u> のひと 13首
T0524	雨の <u>日</u> に
T0229	秋の <u>日</u> (遠き人の愛情を歌える)
T0715	春雨の <u>日</u> 83首
T0385	暑い <u>日</u>
M2274	晴れた <u>日</u>
T0693	雪の <u>日</u> に 28句
T0384	美しい <u>日</u> は去る
T0681	<u>火</u> の星 6句
T0166	燐寸の <u>火</u>
T0583	美と美は
M1863	評論 <u>美</u> の解放
T0490	<u>ピアノ</u>
T0227	稚き歌 (草上 <u>ピアノ</u> に添えて)
T0326	追憶の <u>美果</u>
T0180	横ざまの <u>陽かげ</u> の中に~雨之助先生の為に~
M2438	*詩画 「 <u>ピカドン</u> で死んだトウチャン」 峠三吉詩 四国五郎画
T0438	<u>ひかり</u>
T0589	<u>悲劇</u>
T0445	心の風景 (1) <u>飛行機</u> (2) 潜航艇
M1983	無題「 <u>飛行機</u> が広島のこと」
T0350	<u>日頃</u> (どん底)
T0765	*覚書 投稿時筆名
M1895	覚書 詩作に必要なもの
T0117	*短歌：紫なせる (ある <u>人</u> に)
T0143	その <u>人</u> ~聖画に題して
T0754B	或る <u>人</u> の病ひ篤しと聞きて 17首
T0726	或る日の <u>ひと</u> 13首

T0320	秋の人
T0753	人を送りて 20首
T0113	一筋の道 ~ 故成瀬軍曹に捧ぐ~
M1990	無題「汚い服の人達は…」
T0341	先駆者 H・Y・C・Aの人々に
T0637	花の眸
T0593	瞳
T0466	灯ともし頃
T0724	ひとり 22首
T0745	喫茶店に一人行きて 20首
M2042C	無題「ああ一人で…」
T0582	雛鷺
M2290	覚書 正田篠枝の生い立ち・被爆・体験記他
T0031	覚書 被爆状況の聞書
T0015	台本 シュプレヒコール リベットの響き
T0646	向日葵
T0184	美しき時（青春）の秘密
T0025	秘め言
T0456B	ひめぐと
T0102	比喩
M1859	主張 広島に於けるヒューマニズム運動
M1873	評論 詩に於けるヒューマニズム運動
M1913	組合雑誌評
T0760	住吉橋病院にて 9首
T0207	梅雨曇りの朝—病院にて—
T0774	病院にて 11首
M2111	無題「誰も知らぬ病院の…」 裏面無題「私は枕の横に…」
T0151	病臥しつつ
T0533	父の病氣
M1994	無題数点「あゝ氷山か南に流れ…」ほか
T0363	秋二題（表紙のポスターのために）
T0827	或る病友 10首
M1868	評論 「高原」 木川氏の評論について
M1906	評論 詩誌評論
S0009	「Album に寄せて」—平岡嬢へ—
T0393	あさ・ひる・ばん（タカシをよめる）
T0401	無題「ヒルムのように・・・」
M2278	一九五一年のヒロシマ（その1）
M1859	主張 広島に於けるヒューマニズム運動
T0836	随筆 二十年後のヒロシマ
T0010	宣言 広島平和大会宣言草稿

M1904	評論 <u>ヒロシマ</u> レポート 山下良夫名
M2053A	評論 <u>花咲く広島</u> サロン
M1983	無題「 <u>飛行機が広島</u> の…」
M1855	評論 <u>広島歌壇</u> 評
M1862	評論 <u>広島詩壇</u> の歴史
T0841	随筆 <u>新時代への苦悩</u> <u>広島青年文化連盟</u>
T0338	<u>蘇る春</u> — <u>広島青年文化連盟</u> の生誕を祝して
M1871	評論 「 <u>広船</u> 」職場便り原稿
T0603	わが故郷の <u>曠野</u> は
T0403	<u>瀕死</u> の金魚
T0193	春夜の <u>賦</u>
T0130	<u>潮</u> と <u>浮標</u> と
M2102	無題「 <u>僕は歯科医</u> の…」、「 <u>或る静かな</u> …」「 <u>風化</u> してゐた…」
M1991	愛の <u>風景</u>
M2267	河のある <u>風景</u>
M2268	河のある <u>風景</u>
T0005	丘のある <u>風景</u>
T0253	色彩 <u>風景</u>
T0501	色彩 <u>風景</u> ~ <u>交通警察</u> に~
T0445	心の <u>風景</u> (1) <u>飛行機</u> (2) <u>潜航艇</u>
M2015	無題「 <u>美しい風景</u> は…」
M2103	<u>封殺</u> の季節
T0337	<u>風媒</u> の花
M2049	<u>風媒</u> の花
T0271	銀の <u>笛</u>
T0272	<u>笛</u>
M2061	童話 <u>万三郎</u> の <u>笛</u>
M1990	無題「 <u>汚い服</u> の人達は…」
M2072	<u>プーク</u> に捧ぐる詩
T0536	<u>プーク</u> に捧ぐる詩
T0537	劇団 <u>プーク</u> に捧ぐる詩
M2105	<u>復員列車</u> MEMO Mitsuyoshi 名
T0601	<u>復讐</u> の <u>頌</u>
T0190	<u>結核</u> 回復者 (複十字人)
T0824	<u>富士</u> 22首
M2246	<u>負傷者</u> 収容所
M2287	C. <u>負傷者</u> 収容所
M2260	ある <u>婦人</u> え
T0012	ある <u>婦人</u> え
M2261	或る <u>婦人</u> へ
M2079B	無題「 <u>再び</u> 浮かぶ顔がある…」

T0421	二つの草花
T0308	二人の姉
T0219	幼い二人
M2006	「復活祭に寄せて」ほか
T0769	復活祭に寄せて 6首
T0727	葡萄畑など 30首
T0624	舷 <small>フナタ</small> にて
T0135	心の船
T0625	船にて
M1867	評論 芸術に於ける普遍性の問題
T0657	見出し <<冬>>
T0789	冬至る 5首
T0855	*覚書 フランス文学者名列挙
T0532	無題「雨が降る…」
T0262	詩集「古きノートより」(合冊の1)
T0603	わが故郷 <small>ふるさと</small> の曠野 <small>ひろ野</small> は
M2300	覚書 平和運動プログラム
M1949	ブローチ
M1942	プロテスタントとカトリシズム
T0340	プロテスタントとカトリシズムの交響
T0829A	随想集 「文苑」(評論・随筆) 峠三吉
M1908	評論 わかば文化サークル
M1864	評論 青年と文化
M1889	覚書 「人民文学」予告
M1928	覚書 政治と文学についての討論会まとめ
M1921	覚書 戦争と文学
M1920	座談会記録 文学運動をどう進めるべきか 一破防法をめぐって
T0855	*覚書 フランス文学者名列挙
T0517	文化の日の歌
T0261A	詩集：つる草文集 みつぼしの署名 「古きノートより」と「詩集(主として小曲) 峠みつよし」を合冊
T0035	台本 詩劇 憤怒 構成プラン
T0607	或るベアトリッチェ
T0245	平和の歌(懸賞応募)
T0246	平和の歌2
M2300	覚書 平和運動プログラム
M2053B	随想 平和記念聖堂に関する原稿(部分)
T0032	覚書 8. 6 平和行進に向けてのメモ
T0082	*覚書 平和祭
M2296	宣言 「平和宣言」(草稿)



M2297	「宣言」 平和大会宣言文案
T0010	宣言 広島平和大会宣言草稿
M2269	山口県平和擁護委員会結成大会の記録 裏面メモ
T0748	又別の友より 3首
T0477	別離
T0664	紅椿
T0704A	歌集 短歌 Mitsyosi <sup>BENIZURU</sup> 紅鶴 みつよし
T0327A	シオンを想ひて泣けるへブレアの歌人に和して
M2276	序曲 (曲ったペン)
T0597	変革
T0489	勉強
T0506	金婚式 (頼雄の編曲のために)
T0256	金婚式 (頼雄の編曲のために)
T0507	怒りのうた (日鋼争議暴圧事件)
M1915	覚書 われら詩の会の方向と任務
M1905	評論 方向について
T0150	方向
T0263	白い外套 (奉秋の夜に)
T0139	宝石
T0525	笑いの花~日鋼事件法廷にて~
T0540	笑いの花~日鋼事件法廷にて~
T0846	覚書 創作方法
M1856	覚書 方法論
M1947	「抱擁」ほか
T0330	抱擁 (或る種 <sup>KYOSAN</sup> の <sup>JINEI</sup> 青年達 <sup>NO</sup> に)
T0264	僕の手
M2102	無題「僕は歯科医の…」、「或る静かな…」「風化してゐた…」
M2124	合唱劇 僕たちの恋 峠三吉・詩
M2123	台本 合唱劇 僕たちの恋
T0378	僕達の力は根を張ってゆく
M2054	僕達の力は根を張ってゆく
T0858	小説 墓参
T0681	火の星 6句
T0347	小さき星
M1965	小さき星
T0648	星
T0730	星の夜 25首
T0653	星はみどりに
M1976A	星はみどりに 峠三吉・作 水戸嘉子・作曲
T0449	星を見ながら眠るとき
T0389	青い星

T0185B	星かげ
M2064A	列車暮唱
T0363	秋二題 (表紙のポスターのために)
T0409	春雪の夜 (ポストへと或る便りを)
M1861	評論 講演草稿 (伝道の母体としての…)
T0383	ホテル
M1974A	背中・ボタン
T0632	牧歌
T0436	青い焔のやうに
T0621	怒りの焔
M2250	墓標
T0424	ほゝえみ
T0315	ほゝえみ
T0755	宇品保養園にて 16首
T0328	墓穴掘り
M2034	墓穴掘り
T0439	おとうと (スティーブソン・ほんあん)
T0392	ぼんがん靴
M1882	覚書 本当のものを知る気持ち
T0173	それはほんの他愛のない
ま行	
T0819	味爽 7首
M2276	序曲 (曲ったペン)
M2111	無題「誰も知らぬ病院の…」 裏面無題「私は枕の横に…」
T0191	負けさうな刻
T0480	まこと
T0614	まことの愛
T0451	眞白なる壺
M1919	書評 『風の子物語』 増岡敏和生活詩集
T0120	貧しき児
T0808	又或る時 9首
T0748	又別の友より 3首
M2048	「灯」「海に臨む街の夏の夜」ほか
T0407	街
T0810	街にて 4首
M2078	呉の街にて
M2079A	呉の街にて
T0164	街角の陰
T0166	隣寸の火
M1969	夏祭り
M1970	夏祭り

M1971	夏祭り
M1989	熊まつり
M1972	祭
T0519	住吉祭り
T0181	残照 (まどゐの療友達へ)
T0230	惑ひ
M1938	無題「あゝ学舎もこの業も…」
T0116	そのまぶた
T0402	瞼の裏の印象
M2254	丸木位里・赤松俊子原爆の凶に寄せて
T0790	万華鏡 4首
M2061	童話 万三郎の笛
T0673	曼珠沙華 34句
T0719	桜の実 抒情 16首
T0723	三日月の夜更け 3首
T0743	未成交響曲を観て 7首
T0225	岬
T0473	岬の家
T0171	湖
M1963B	湖
T0009	湖
T0182	水音 「何処かで…」
T0310	み楯の日
T0695	九つの眞珠のみたま 13句
T0563	暗い路
T0113	一筋の道 ~ 故成瀬軍曹に捧ぐ~
T0450	朝の徑にて
T0239	道
M1916	評論 無題「かくて道は…」
T0478	水禽 (みづどり)
T0627A	詩集 表紙：詩集<3の附録> 峠三吉 表題 みつぼし小曲・抒情詩抄『こころの虹』
T0653	星はみどりに
M1976A	星はみどりに 峠三吉・作 水戸嘉子・作曲
T0429	みどりいろの夢
T0304	嘆きの聖母 (美戸律子曲コラール一篇に附して)
T0212	みどりなす
M2271	無題「見なければならぬ…」ほか
T0834	随筆 港にて
M1939	無題「南の風が湿りを…」
M1994	無題数点「あゝ氷山か南に流れ…」ほか

T0570	母が嶺
M1715	句集「 <u>蓑虫</u> 」第二輯（3 2 3 句）
T0642	<u>瞳く心</u>
T0206	或る <u>未明</u> の戦闘（突撃）
M1909B	評論 「われらの詩の会 <u>宮内支部</u> 」について
T0822	<u>妙蓮寺</u> にて 8 首
T0379	<u>未来</u>
T0845	覚書 <u>民主主義</u> 藝術論
T0522	<u>みんな</u> の歌
T0499	*引用：コサック古代民謡より
M1897	宣言 八月六日を <u>迎ふる</u> に当りて
T0129	<u>昔</u> の家族
T0850	童話 <u>百足競争</u>
T0329	<u>無関心</u>
T0590	<u>無極</u> の赦し
T0301B	無題「われ <u>無限</u> へ…」
T0535	無題「 <u>むこう</u> の…」
M2266	生理 母と娘、裏面 別人の原稿？
T0851	童話 お爺さんと娘
M2035A	無題「 <u>煙り</u> の <u>咽ぶ</u> 遠い…」
T0446	無題
T0453	無題
T0690	無題 1 4 8 句
M1888	無題 判読不能 裏面和歌
T0447	<u>夢魔</u>
M2044	こゝろの <u>村</u>
T0117	*短歌： <u>紫なせる</u> （ある人に）
T0252	たかきものは <u>群れ</u> 輝いて
T0170	<u>眼</u>
M1877	覚書 無題「 <u>人民</u> を離れて <u>名作</u> なし…」
T0414	<u>瞑想</u>
T0728	七月二十八日祖母 <u>命日</u> 7 首
M2317	覚書 アンケート発送者 <u>名簿</u>
T0568	<u>めざめ</u>
T0362	<u>めざめ</u>
M1962	<u>めざめ</u>
M1963A	<u>めざめ</u>
T0008	<u>めざめ</u>
T0569	<u>眼覚め</u>
T0746	2 5 首< <u>飯</u> 止めて…>
T0178	<u>メシ</u> （苦しき日に）

T0599	盲ひた獣が
T0840	宣言 <u>メーデー</u> に送るメッセージ
T0839	宣言 吉田内閣打倒国民大会へ送るメッセージ
T0132	滅亡
T0840	宣言 <u>メーデー</u> に送るメッセージ
T0147	盲目の児と <u>瑪瑙</u> の塔
T0804	目張り 7首
T0147	盲目の児と <u>瑪瑙</u> の塔
T0830	目次
T0682	夜の <u>木馬</u> 3句
M1894	覚書 無題「 <u>創作のモチーフ</u> となる…」
T0159	求め
T0188	求め
T0036	求めあえなく
M2259B	求めようと <u>する心</u> のために
T0348	棺の釘を打つ者
T0584	小さき者
T0126	ヴィンの <u>森の物語</u> —或る人の夢に和して
M1919	書評 『 <u>風の子物語</u> 』増岡敏和生活詩集
T0016	小説 ヨハン少年 <u>物語</u> (バルバラの恩返し)
M2065	無題「 <u>もはや詩に戯れる事</u> を…」
T0126	ヴィンの <u>森の物語</u> —或る人の夢に和して
T0408	森
M2357	*覚書 『 <u>原子雲の下より</u> 』に現れた問題
M1925	訴え 共通の <u>問題点</u>
や行	
M2045	「 <u>恋人</u> 」、「 <u>黒い屍</u> 」、「 <u>焼跡</u> 」ほか
T0780	夜汐 12首
T0754B	或る人の <u>病ひ篤し</u> と聞きて 17首
T0605	病ひ (糸崎にて)
T0425	病ひ篤き時の或る心象
T0775	病ひ良き折 11首
M2269	山口県平和擁護委員会結成大会の記録 裏面メモ
T0702	山口司令搭乗我が航空母艦 20句
M2058	同志 <u>山本均</u> に贈る詩
T0205	日本は勝つ (山本兵長の <u>記事</u> に感動して)
M1959	無題「 <u>四辺の山々</u> に…」
T0708	155首 <樹の <u>闇</u> に…>
T0240	霧闇
M2062	2首<病む身ひとり…>
T0432	夕方

M2284	死—全ての理想と <u>勇氣</u> を失った夜に—
T0566	<u>ゆふぐれ</u> への手紙
T0761	或る <u>夕ぐれ</u> に 7首
T0040	随筆 <u>夕ぐれ</u> の感想
T0103	<u>夕ぐれ</u> (映像)
T0111	<u>夕ぐれ</u> は
T0552	<u>夕ぐれ</u> は
T0616	<u>夕暮</u> に
T0720	<u>夕暮</u> の散景 19首
T0138	<u>勇者</u>
T0390	ゆふべ
M2084	大橋の <u>夕べ</u>
T0277	<u>夕焼け</u>
T0365	<u>雪</u>
T0366	<u>雪</u>
T0367	<u>雪</u>
T0693	<u>雪</u> の日に 28句
T0325	<u>雪</u> 晴れ
T0792	<u>雪</u> 晴れ 11首
T0410	<u>雪解</u>
T0617	<u>雪野</u>
T0221	<u>ゆく春</u>
T0837	随筆 青年運動の <u>行く道</u>
T0006	患者 <u>輸送車</u> にて
T0003	急患 <u>輸送車</u> にて
T0112	ゆたかな寂しさの
T0344	<u>由美子</u> と火事
M2088	<u>由美子</u> と火事 峠みつぼし名
T0429	みどりいろの <u>夢</u>
T0126	ヴィンの森の物語—或る人の <u>夢</u> に和して
T0739	最後の <u>夢</u> 44首
M2040A	三郎君の見た <u>夢</u>
T0796	蒼き <u>夢</u> 4首
T0660	<u>夢</u>
T0518	<u>夢</u>
T0158	<u>夢</u> いまだ
M2110	童話 シャボン玉と <u>ユリ</u> の心
T0018	童話 シャボン玉と <u>ユリ</u> の心
M1912	訴え <u>百合子</u> 二周忌記念会と多喜二祭を開こう
T0590	無極の <u>赦し</u>
T0696	おぼろ <u>夜</u> 27句

T0797	飛鳥の代 6首
T0630	宵
T0394	無題「よいあさであった・・・」
T0644	宵路
T0559	揚棄（宣戦）
T0431	洋紅の詩
T0775	病ひ良き折 11首
T0180	横さまの陽かげの中に～雨之助先生の為に～
T0828	戦ひ（5. 29 横浜大空襲）
T0839	宣言 吉田内閣打倒国民大会へ送るメッセージ
T0622	子よ四つ手網を
T0016	小説 ヨハン少年物語（バルバラの恩返し）
M1926	訴え 呼びかけ
T0723	三日月の夜更け 3首
M1951	蘇へる春
T0338	蘇る春—広島青年文化聯盟の生誕を祝して
T0838	随筆 青年よ蘇れ
T0506	金婚式（頼雄の編曲のために）
T0256	金婚式（頼雄の編曲のために）
T0192	早吉の死（頼雄への頼りに添えて）
M2048	「灯」「海に臨む街の夏の夜」ほか
T0013	ある夜のコンサート
T0683	あをいよる 11句
T0741	その夜 7首
T0415	或る夜の私・Q氏
T0397	夏の夜
T0763	寒の夜 6首
M2109A	修学旅行の夜に
T0458	春の夜の言葉
T0409	春雪の夜（ポストへと或る便りを）
T0691	食の夜 201句
T0730	星の夜 25首
M2262	夜
T0685	夜の灯 16句
M1964	夜の波止場 トウゲ名
T0530	夜の反逆
T0682	夜の木馬 3句
T0738	夜を送りて 10首
T0321	驚きと歎びと
T0314	神のよるこび
T0742	心弱き折 20首

ら行	
M1719	覚書 「 <u>落晝</u> （3）」（抄録帳）峠光芳
T0586	<u>落差</u>
T0538	無題「すでに <u>落日</u> は…」
T0521	<u>ラヂオ</u> のあかり
T0579	少女裸像
T0153	<u>らっきょう</u> に寄せて
M2284	死－全ての <u>理想</u> と勇気を失った夜に－
T0346	<u>離脱</u>
M1958	<u>離脱</u>
T0015	台本 シュプレヒコール <u>リベット</u> の響き
T0198	<u>領域</u>
T0324	故郷 <u>良夜</u>
T0359	故郷 <u>良夜</u>
M1946	<u>良夜</u>
T0181	残照（まどみの療友達へ）
M2070	「白衣」「 <u>療養所</u> の幻影」
T0002A	白衣～旧軍人療養所にて
T0427	<u>リリィ島</u> では（小唄風に）
T0345	<u>リルケ</u> に捧ぐ
T0602	<u>累戦</u>
T0339	<u>流刑</u>
T0455	永遠の座～故谷山巖君の <u>霊</u> に捧ぐ～
T0021	愛の黎明
T0376	愛の黎明
M2063	<u>黎明</u>
M1862	評論 広島詩壇の <u>歴史</u>
T0475	<u>歴史</u>
M2288	<u>歴史</u> 峠三吉名
M2105	復員列車 MEMO Mitsuyoshi 名
M2064A	<u>列車暮唱</u>
M1904	評論 ヒロシマ <u>レポート</u> 山下良夫名
M1869	評論 <u>恋愛</u> と結婚について
T0235	幸連禱
T0109	<u>聾啞学校</u> に移譲せられたる旧校舎の講堂に寄せて
T0557	<u>老人</u>
T0495	中年の労働者
T0706	203首 < <u>六尺</u> の天地…>
T0612	<sup>ロキ</sup> <u>念珠</u>
T0248	<u>電車路線</u> のつぎ目を見たまえ
わ行	



T0603	わが故郷の曠野は
T0687	わがうたよ 45句
T0454	わが愛するもの
T0423	わが季節のImage
T0591	わが心の陰を
T0643	わが想ひ
T0799	わが大君 11首
M2066	無題「わが想ひ咲きゆくなべに…」ほか断片
T0493	川端に涼む若き母親
T0360	若樹
M2041	無題「さわさわと桜若木に…」
T0504	わか葉
T0255	わか葉
M1908	評論 わかば文化サークル
M2047	童話「稚彦様」プロット
T0297	我が家
M1948	「自分との別れ」、「何を書こうか」
T0551	別れは
M2001	別れていったもの
T0662	いかで忘れむ
T0415	或る夜の私・Q氏
T0280	私
T0497	私の世界
T0496	鳶と私
M1995	無題「あゝ私にこんな幸福が…」
M2104B	無題「それは私が…」
M1986	無題「今私は東京を…」
M2111	無題「誰も知らぬ病院の…」 裏面無題「私は枕の横に…」
M2257	無題「国内のわたしたちが…」
M2273	無題「電車通りを渡ったそれは…」、「爆裂」ほか
T0525	笑いの花～日鋼事件法廷にて～
T0540	笑いの花～日鋼事件法廷にて～
M2409	*原爆詩画展割付メモ 自筆 一部 詩文を含む
T0301B	無題「われ無限へ…」
T0334	あゝ我に
M2119	評論 「〈我は海の子〉をよまされて」作品模写・感想
T0508B	無題「われらは愚か者だから…」
M1878	覚書 『われらの詩』 西條の意見
M1890	覚書 『われらの詩』 作品合評
M1909B	評論 「われらの詩の会宮内支部」について
M1914	評論 われらの詩はどのようにすすむべきか

M1892	覚書 「われらの詩の会」 定例会内容
M1915	覚書 <u>われら詩の会</u> の方向と任務
英数字	
M1910	評論 無題「…一九二九年…」
M2379	*覚書 『原子雲の下より』 青木文庫用序文（「 <u>1945年</u> …」）
M2270	<u>一九五〇・八・六</u>
M2298	<u>一九五〇年</u> の八月六日
M2278	<u>一九五一年</u> のヒロシマ（その1）
T0836	随筆 <u>二十年後</u> のヒロシマ
T0728	<u>七月二十八日</u> 祖母命日 7首
T0014	台本 シュプレヒコール 人民解放の歌（ <u>8. 15</u> 解放記念日のために）
M2052	<u>8. 3</u> サーカスにて
T0032	覚書 <u>8. 6</u> 平和行進に向けてのメモ
T0619	<u>八月十五日</u>
M2298	<u>一九五〇年</u> の八月六日
M1896	宣言 <u>八月六日</u> を迎ふるに当りて
M2277	<u>八月六日</u> 峠三吉名
T0674	<u>九月</u> のサナトリウムにて 37句
T0695	<u>九つ</u> の眞珠のみたま 13句
S0009	「 <u>Album</u> に寄せて」 - 平岡嬢へ -
T0704A	歌集 短歌 Mitsuyosi <sup>BENZURU</sup> 紅鶴 みつよし
T0500A	詩集 B U I C K
M1718	覚書 「 <u>f a i t h</u> 」 キリスト教に関する文章
T0002A	白衣～ <u>H</u> 旧軍人療養所にて
T0380A	表紙：詩集 <sup>HATODOKETI</sup> 鳩時計 みつよし
T0341	先駆者 <u>H・Y・C・A</u> の人々に
T0423	わが季節の <sup>イメーシ</sup> <u>I m a g e</u>
T0356	（ <u>K</u> への手紙に）
T0596	暗く寂しく（ <u>K. T.</u> に寄す）
T0330	抱擁（ <sup>KYOSAN JINEI NO</sup> 或る種の青年達に）
T0665A	句集 俳句「 <sup>KYOUEN</sup> 饗宴」 みつよし
T0019	詩集 <u>Lyrical Ballads</u> (Mitsuyoshi Toge)
T0844A	ノート <u>memo Mitsuyoshi</u>
M2105	復員列車 <u>MEMO</u> Mitsuyoshi 名
T0697	<u>N</u> の応召を送る 27句
T0136A	詩集：「 <u>NOTE BOOK</u> 詩（三）」
M1723	覚書 <u>OBOEGAKI</u>
T0415	或る夜の私・ <u>Q</u> 氏
T0318	友（ <u>T. T.</u> 君へ）

<b>T0832</b>	随筆 <u>V青年に</u>
<b>T0527</b>	<u>WANA</u>

附録

<研究ノート>

峠三吉自筆草稿画像目録\*

松尾 雅嗣

広島大学平和科学研究センター

<Research Note>

**A Directory of Electronic Images of Hand-written Manuscripts  
of Sankichi Toge**

**Masatsugu MATSUO**

**Institute for Peace Science, Hiroshima University**

---

\* 初出：『広島平和科学』 (*Hiroshima Peace Science*) (ISSN0386-3565) 28 (2006), pp. 45-62

## SUMMARY

Most of the known historical material of Sankichi Toge, the atomic bomb poet, is in the custody either of the Central Municipal Library of Hiroshima city or of Mr. Takashi Toge. When one tries to examine the material personally, however, the access to it is difficult, if not impossible. Electronic images of the material are one of the ways to make this access much easier. Fortunately, all the above material has already been microfilmed, and, for this purpose, we have converted most of the films into electronic images. In addition, we have also created electronic images of the material not microfilmed so far. At the same time, we have compiled and published a comprehensive directory of the Toge material. The present paper is a report of our attempt at linking the two data in the form of an electronic image directory. At present, the electronic image directory contains only Toge's hand-written manuscripts of literary works and essays.

This paper describes how the directory is prepared, which difficulties and problems are met, and sometimes solved, in the process of preparation, what are its nature and structure, and how the directory can be used. It also provides some examples of images in the directory as illustration.

Though the directory described here is not a finished one, it is hoped that it can make the access to the original material much easier, and thus contribute to further understanding of Toge's works.

## はじめに

現在確認されている峠三吉関係の資料の大半は、広島市立中央図書館と峠鷹志氏によって所蔵されている。広島市立中央図書館所蔵分（以下、中央図書館資料と略称）と峠鷹志氏所蔵分（以下、東京資料と略称）は、いずれもほぼ全点マイクロフィルム化され、広島市立中央図書館に保管されている。確認された資料は、言うまでもなくこれに限らない。例えば、広島文学資料保全の会が保管する資料などもその例である。

2004年に『峠三吉資料目録』（松尾雅嗣・池田正彦（編）、広島大学平和科学研究センター研究報告32、以下「資料目録」と略称）として刊行した目録は、中央図書館資料と東京資料を合わせ、さらに追加資料を加えた既存全資料の統一的目録である<sup>1)</sup>。未確認資料存在の可能性は到底否定できないとしても、現在これが最も網羅的な目録である。

この目録は二次情報であり、飽くまで資料の種類と存在とを示すものに過ぎない。研究者、関心のある人々にとって真に有用なのは、資料そのもの、即ち一次情報である。確かに、峠三吉の作品については、峠自身が編んだ『原爆詩集』（峠三吉著 青木書店、昭和27年）、『にんげんをかえせ・峠三吉全詩集』（且原純夫解説 風土社、昭和45年）、『峠三吉作品集 上・下』（増岡敏和解説 青木書店、昭和50年）などが刊行されている。また他の資料についても、評伝『八月の詩人』（増岡敏和著 東邦出版社、昭和45年）をはじめ、上記作品集から作品、日記、随筆、覚書などの一端を窺うことができる。しかしながら、いずれもページ数などの制約から部分的な紹介にとどまり、原資料について十分な情報を与えるものではない。ましてや、これら原資料へのアクセスは必ずしも容易ではなく、峠三吉とその時代の研究にとって大きな隘路となってきたことは否めない。

原資料を電子画像化し、提供することの意味はここにある。直接に原資料を検討することができればそれに越したことはないが、現実にはさまざまな障害が存在する。それを克服するひとつの方法が資料を電子画像として提供することである。原資料をデジタル画像化し、これをCDあるいはDVDといった

媒体によって提供するという方法である。勿論、電子画像といえども、後述のように画像の精粗や鮮明度によっては、最終的に原資料に拠らなければ内容を確定できないことも少なくはない。しかし、この方法により、原資料へのアクセスの問題は格段に改善できるはずである。資料のデジタル化のメリット、特に峠三吉研究にもたらす新たな可能性については既に他の箇所でも触れたので<sup>2)</sup>、ここでは取り立てて論じない。

電子媒体ではないが、昭和20年8月6日直後の峠三吉の日記の写真画像を冊子体（池田正彦・松尾雅嗣（編）、『峠三吉被爆日記』、広島大学ひろしま平和科学コンソーシアム）で刊行したのは、電子画像を以って原資料に代える試みのひとつである<sup>3)</sup>。しかしながら、日記の一部のような少数の資料であればいざ知らず、数千に及ぶ画像を印刷物として刊行することは不可能ではないとしても実現困難であり、現実的な方法としては電子媒体として利用するほかない。しかも、電子媒体で利用するとしても、CD数枚に格納された画像ファイルの中から探し出すことは相当の時間と労力を要する。利用の便を向上させるためには、何らかの方法で直ちに画像を検索できる形にする必要がある。

この目的のために、上述の資料目録から原資料の画像を迅速かつ容易に呼び出せる形にしたのがここで紹介する画像目録である。

## 1 資料と収録範囲

現在、中央図書館資料については、マイクロフィルムに撮影されている、峠差出、峠宛の書簡類、峠自筆の日記、草稿、ノートなど峠の生涯と作品に密接な関わりをもつ資料を中心に、中央図書館所蔵の詩集『原子雲の下より』の現存する応募原稿も合わせ、電子画像化が終わっている。但し、フィルムが欠落した資料がごくわずかながらある。また、マイクロフィルムに撮影されていない好村富士彦氏寄贈資料などは、スキャナーを利用してデジタル画像化した。東京資料については、そのすべてをマイクロフィルム画像からデジタル化した。その他の資料についても、広島文学資料保全の会保管の詩誌『われらの誌』全号、『反戦詩歌集』1、2、坂田（旧姓平岡）和子氏寄贈資料などをデジタル画

像として記録した。このように現在知られている峠三吉関係の資料については、電子画像化の作業はほぼ終わっていると見てよい。

今回作成した自筆草稿画像目録は、電子画像化した中央図書館資料、東京資料、その他の資料のうち、峠三吉自筆の作品草稿の目録と画像を一体化したものである。具体的には、詩、小説、童話、短歌、俳句、劇作台本、シナリオ、評論、主張の草稿を収録した。檄文、アピールの草稿も含む。また、作品と必ずしも直接のかかわりはないが覚書・メモの類も基本的に収録した。他方で、習字、絵画の類は、除外した。また、自筆のものとはいえ、日記、書簡類は原則として収録対象から除外した。これは現在無条件に公開できないものが含まれるからである。

この画像付き目録の収録対象は、「資料目録」所収の資料のうち、1 自筆草稿類の(1) 詩、(2) 小説・童話、(3) 短歌・俳句、(4) 評論・主張、(5) 台本・シナリオ類に記録された資料である。但し、「資料目録」の誤りの訂正があるので、若干の異同がある。

## 2 目録の形式と構成

本画像目録の形式、構成及び内容は、若干の修正と変更はあるが基本的には上記「資料目録」を踏襲する。資料の分類、配列等はすべて「資料目録」に従っている<sup>4)</sup>。誤解を恐れずに言えば、本画像目録は、「資料目録」の個々の資料にその電子画像を対応させたものである。例えば、本目録の冒頭「(1) 詩」の先頭部分は次のようになっている、

資料番号	資料名	日付	備考
<b>M1934</b>	裸木	不明	鉛筆書 A 5 ザラ紙 1 枚 署名
<b>M1935A</b>	そよ風	不明	鉛筆書 A 5 ザラ紙 1 枚
<b>M1937</b>	懸命に立っている 裏面 「生まれて...」	不明	ペン書 薬包紙 1 枚
<b>M1709B</b>	* 詩集「潮鳴り」	11 ~ 12 晩春	M1709 所収

「資料目録」との違いは二つある。第一は、目録の太字（ボールド体）で示された資料番号がハイパーリンクになっており、任意の資料番号をクリックす



れば、詳細については次節で述べるが、当該資料の画像が表示されることである。例えば、上掲目次の資料番号 **M1935A** をクリックすれば、画像（末尾の画像例1）が表示される。

第二は、冊子体の目録とは異なり、作品名、草稿表題が判れば、比較的容易に検索が可能である。これに関しては、将来的には、表題のみならず、草稿の冒頭の数字ないし一節を抜き出してアイウエオ順などに配列した索引を用意することも考えなければなるまい。

### 3 電子画像の作成の詳細と処理上の問題

ここでは、目録の電子画像使用の前提としてまず電子画像作成の詳細とその際遭遇した問題について述べておく。

目録に収録した電子画像は、Acrobat の PDF 形式で作成されている。作成の手順は大略以下のとおりである。まず、フィルムの画像をひとコマごとに TIF 形式のファイルに変換する。次いで、元のフィルム画像の不要な余白のトリミング、画像の回転などの編集作業を必要に応じ行う。元の画像は、フィルムのリール番号とコマ番号がファイル名として与えられているだけであり、資料との対応をつける必要があるので、TIF のファイル名を「資料目録」の資料番号に変換する。一件の資料が複数画像から成る場合は、資料番号に枝番を付して区別する。他方、フィルムのないものは、スキャナーを利用し、直接 TIF 形式の画像とする。ファイル名は同様の方式で与える。一度書かれた原稿などの上に、付箋を貼り付けて追記、修正などを施した資料もある。この場合は、付箋を付けた状態と付箋を裏返した元の状態それぞれを示す二つの画像を作成した（資料番号 T0040 の一部など）。

この後、TIF 形式の画像を PDF 形式に変換し、複数画像から成る資料は連結してひとつの PDF ファイルとする。上述のように大半がマイクロフィルム画像から作成されたので、目録に収めた電子画像も若干の例外を除きすべてモノクロである。

今回提供する画像には、原資料、元のフィルム画像、作成手順に起因するいくつかの難点が残っている。

第一に、フィルム画像が極めて不鮮明で、次頁の画像例2に示すように、記された文字の判読が困難なものも少なくない。このため、同じ頁や用箋が二度撮影された資料もある。この場合には、画像を取捨することなく両方を電子画像として示した（M1719, M1720 など）。文字の判読困難は、自筆草稿の用紙の変色、特に黒化、ペン書き文字、特に黒以外のペン書き資料の退色などが主な理由である。また、用紙の裏表に記された草稿には、裏面の文字が移ったため、程度の差はあるが読みにくくなったものもある。上掲の画像1は、判読の障害にはなるとも思えないがこの一例である。この種の資料については将来原資料を再度撮影することも考慮しなければなるまい。

第二に、使用された用紙は、個々の資料、具体的には草稿（以下は草稿と覚しき断片も含むものとする）と必ずしも境界が一致するわけではない。一枚の用紙に複数の草稿が記されることもあれば、一編の詩が複数の用紙に部分的に記されることもある。具体的には、次のような事例が頻繁に見られる。

- (1) 「詩集」などと題されたノートの場合、一編の詩が頁の途中から始まり、それ以降の頁の途中で終り、また次の草稿が始まる例。画像例4はその例である。
- (2) おそらくは戦後の物資不足、特に用紙不足によるものと推察されるが、綴りになっていない用紙一枚を使用する場合にも、一編の草稿を記した後、余白があれば別の草稿が記されている例。（画像例3）また、画像例4の最初の左頁の下段に記された「夏祭」（資料番号 T0387）もその一例である。極端な場合、用紙の上下あるいは左右を回転させてあるいは斜めに回転させて記されることもある。また、一綴の用紙についても、用紙の左右と上下使用が混在している例もある（資料番号 T0016 「小説 ヨハン少年物語（バルバラの恩返し）草稿」、M1719「覚書 「落書（3）」（抄録帳）峠光芳」のPDF 2頁目など）。このような画像を見るときには、資料ごとに、場合によっては見開き頁ごとに、PDF 画像を利用者が回転させて見る必要が生ずる。

上記（１）、（２）の場合、些か煩雑冗長ではあるが、当該資料を特定する目的で、当該資料を赤枠で囲って示してある。画像例４には、当該資料が２ページにわたる例を示す。

物資不足、とりわけ用紙不足の影響であろうか、ビラ、反古などの裏面に記された草稿も相当数に上る。この場合、本来は用紙の裏面であったものを草稿の表と解し、本来の表を裏面として扱った。このように利用されたビラなどは作品の理解には直接の関わりはないが、峠の創作活動の一端を窺うよすがともなることから、目録部分に「・・・の裏面使用」と明記し、画像としても草稿部分の後ろに付け加えた。画像例５がその例である。PDF ファイルの最初の頁は資料番号 M1958 「詩 離脱」である。この詩は「日英豪交歓音楽会会員券」の裏面に記されたものである。PDF の２頁目には、本来の表である会員権を示す。

#### ４ 画像付き目録と使用方法

本目録は差し当たり電子媒体で提供の予定である。また、インターネットでも公開予定である。提供に当たっては、当然のことながら、研究目的以外には使用しないこと、目録利用による成果を公表する場合は、原資料所蔵者と目録作成者を明記すること、そのままの形であれかこうした形であれ、第三者に譲渡・提供しないことが条件となる。

本目録はCDで提供する。OSは Windows XP である。CDでも利用可能であるが、ハードディスクに適当なフォルダーを作成してCDの内容をすべてそのフォルダーにコピーしておいたほうがはるかに使い勝手がよい。必要メモリは約600MBである。

本目録に収録された資料はすべて Acrobat の PDF ファイルとして提供される。従って、本目録の使用には Acrobat Reader が必要である。

具体的使用の手順は以下のとおりである。

- （１） 目録本体（「峠三吉自筆草稿」という名のファイル）を開く

(2) 目録を先頭から順次見る場合は別にして、詩、短歌などのカテゴリを利用するか、作品名（の一部）を利用して検索する。（この検索は、目録本体内の文字列についてのみ可能であり、画像に含まれる文字列を対象とするものではない）。

(3) 資料に付された資料番号をクリックすれば、画像が表示される。複数画像からなる資料は、ひとつの PDF ファイルとして連結されているので、Acrobat Reader の機能を使い任意の順で表示できる。Acrobat Reader は利用者にとって最適の拡大率で画像を表示するとは限らないので、表示された画像は拡大・縮小する必要がある。画像の拡大、縮小、回転なども同様に Acrobat Reader の機能を利用する。Acrobat の標準版を利用する場合、利用者の行った変更がそのまま記録されることもある。

(4) 任意の資料の画像を見終わった時には、目録本体に戻る。以後、必要に応じ、上記（2）～（3）を繰り返す。

## 5 結び：課題と展望

ここに紹介した峠三吉自筆草稿の画像目録は決して完全なものではない。現在知られる資料を網羅しているとしても、自筆草稿のすべてを網羅するという保証はない。さらに所収の資料の画像についても、原資料自体の劣化、フィル撮影の問題、電子化過程の問題など多くの問題が残されている。原資料に当たらなければどうしようもない場合も少なくない。にもかかわらず、この種の資料画像が、資料へのアクセスを容易にし、峠三吉の作品を理解するきわめて有用なツールとなることは否定できないと思われる。

本稿で述べた画像目録は峠三吉の自筆草稿のみを対象とする。日記、書簡等も含む峠三吉関連資料の網羅的な画像目録、少なくとも峠の自筆資料の網羅的な画像付目録が望ましいことは明かである。将来的には、この自筆草稿画像目録を拡張して、自筆資料あるいは関連資料全体の画像目録を作成することを計画している。そしてその準備も遅々としてではあるが、整えつつある。しかしながら、いくつかの権利に関わる問題があり、現段階ではすべての資料を無条件

に公開できるものではない。差し当たり公開の範囲は、自筆草稿とし、媒体は、CDとウェブサイトとする。

デジタル化の完成の後には、テキスト化、いわゆる翻刻、の課題が存在する。手書原稿を活字として起こす作業である。上述のように自筆草稿の一部は既に先人の手によって翻刻され、公刊されているが、多くの資料はいまだ翻刻させられていないのが現状である。これはわれわれの時間と能力をはるかに超える作業であり、ここでは将来の課題として指摘するにとどめるが、この作業のためにもデジタル画像が大きな助けとなることは確かであろう。

## 註

- 1 詳細については、松尾・池田(2004)、「まえがき」参照。
- 2 池田正彦・松尾雅嗣(2004), 104-109 参照。
- 3 この画像は、広島大学ひろしま平和科学コンソーシアムのホームページ(<http://home.hiroshima-u.ac.jp/heiwa/cons/05.html>)でも公開している。
- 4 詳細については、松尾・池田(2004), vi-ix 参照。

## 引用文献

- 池田正彦・松尾雅嗣(2004)「峠三吉東京資料：峠資料電子化の文脈で」、『広島平和科学』, 26, 101-131
- 池田正彦・松尾雅嗣(編)(2004)、峠三吉被爆日記、広島大学ひろしま平和科学コンソーシアム
- 松尾雅嗣・池田正彦(編)(2004)、峠三吉資料目録、広島大学平和科学研究センター研究報告 32

## 謝辞

本研究には、平成15年度前期広島大学研究支援金「原爆文学を中心とした広島原爆資料の目録作成と電子化の研究」(研究代表者:松尾雅嗣)平成17~19年度日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究C 研究代表者松尾雅嗣)の支援を受けた。

また、峠三吉著作権継承者である峠鷹志氏と、マイクロフィルム版の所蔵者である広島市立中央図書館には資料閲覧とデジタル化に際しお世話になった。

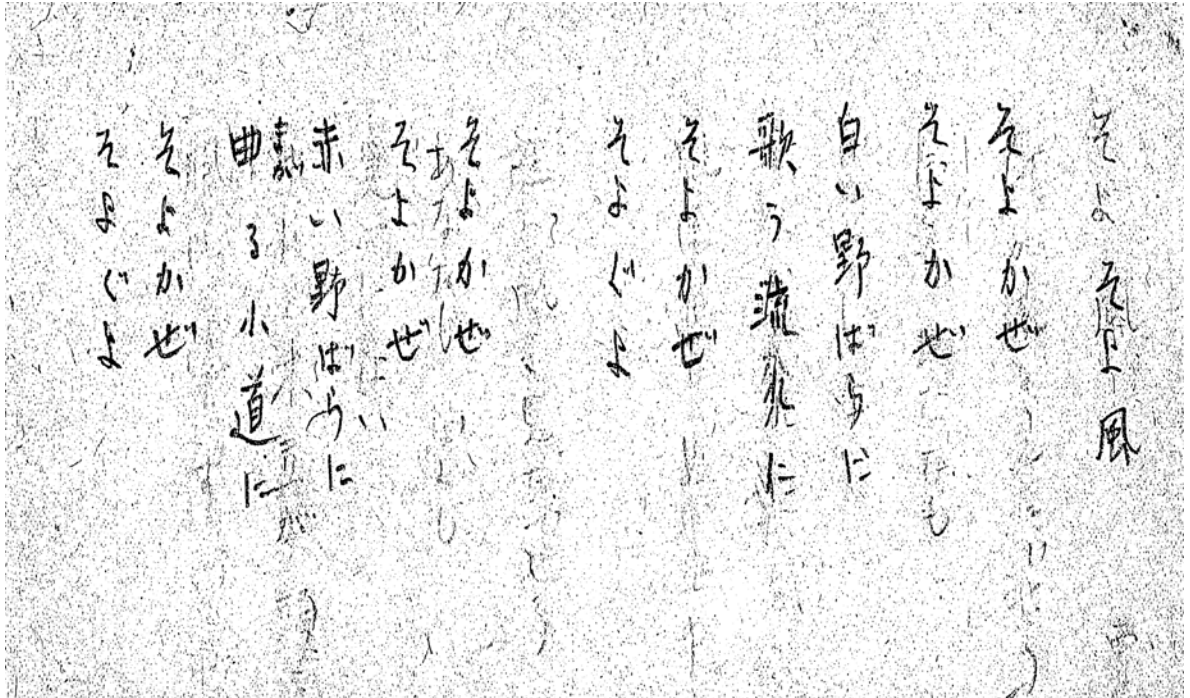
広島大学大学院国際協力研究科博士課程前期の深林真理さん、前田さららさん、橋本金平さん(いずれも当時)、安田女子大学学生の日高愛さんには資料のデジタル化でお世話になった。

広島文学資料保全の会の池田正彦氏には、この研究の機会を提供していただくとともに、資料の整理、資料所有者との仲介、共同研究など多くの協力と支援をいただいた。

ここに記して感謝の意を表したい。

画像例 1

資料番号 M1935A 詩 「そよ風」



画像例 2

資料番号 M1867 評論 芸術に於ける問題

善道の問題

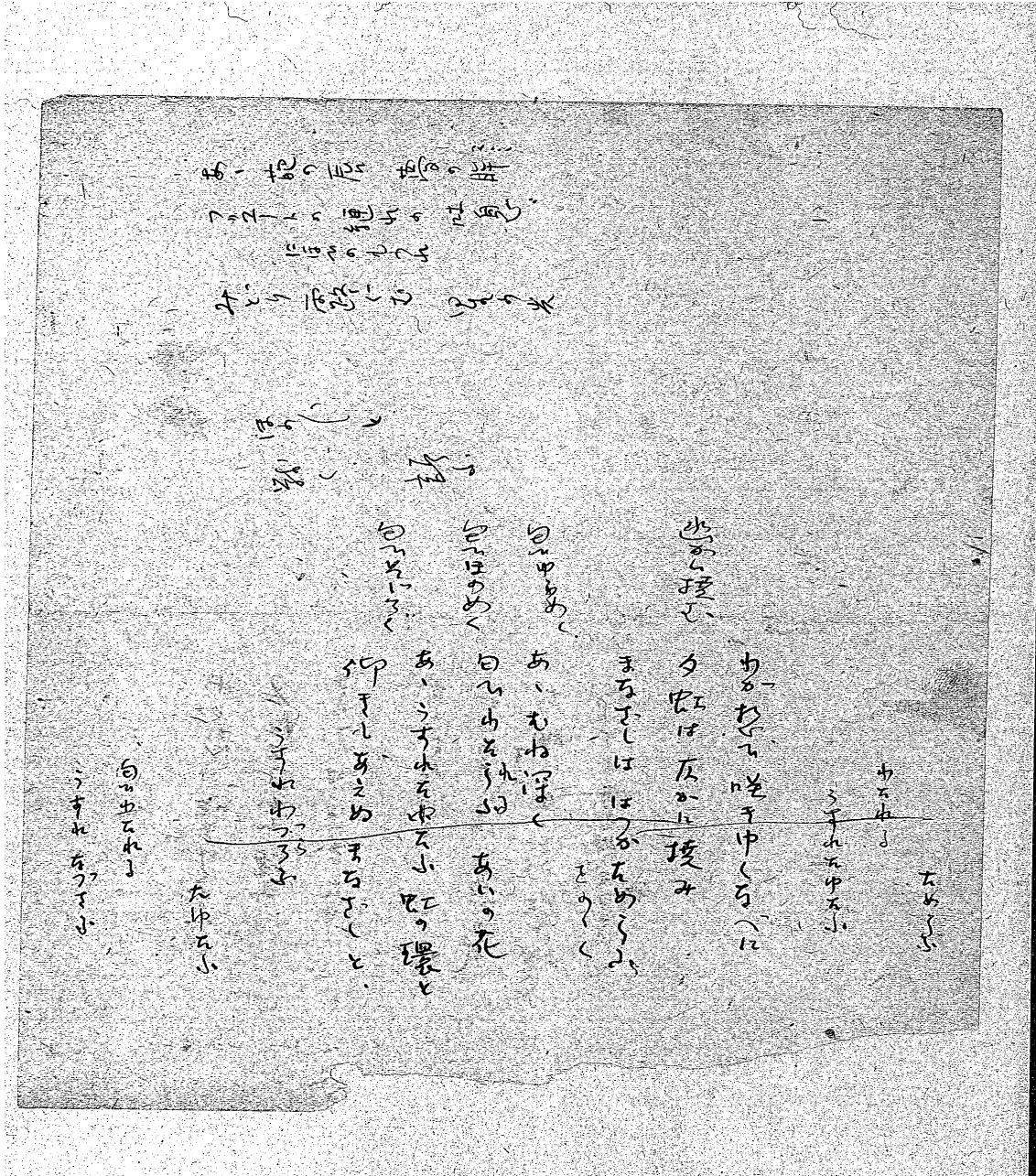
この問題は、個人と社会の間に生ずる摩擦の如何に解決せらるべきか、即ち個人が社会に如何に適合せしめらるべきか、を論ずるものである。この問題を論ずるに當り、個人と社会の間に生ずる摩擦の如何に解決せらるべきか、即ち個人が社会に如何に適合せしめらるべきか、を論ずるものである。この問題を論ずるに當り、個人と社会の間に生ずる摩擦の如何に解決せらるべきか、即ち個人が社会に如何に適合せしめらるべきか、を論ずるものである。

この問題を論ずるに當り、個人と社会の間に生ずる摩擦の如何に解決せらるべきか、即ち個人が社会に如何に適合せしめらるべきか、を論ずるものである。この問題を論ずるに當り、個人と社会の間に生ずる摩擦の如何に解決せらるべきか、即ち個人が社会に如何に適合せしめらるべきか、を論ずるものである。

この問題を論ずるに當り、個人と社会の間に生ずる摩擦の如何に解決せらるべきか、即ち個人が社会に如何に適合せしめらるべきか、を論ずるものである。この問題を論ずるに當り、個人と社会の間に生ずる摩擦の如何に解決せらるべきか、即ち個人が社会に如何に適合せしめらるべきか、を論ずるものである。

画像例 3 回転を要する資料 (表)

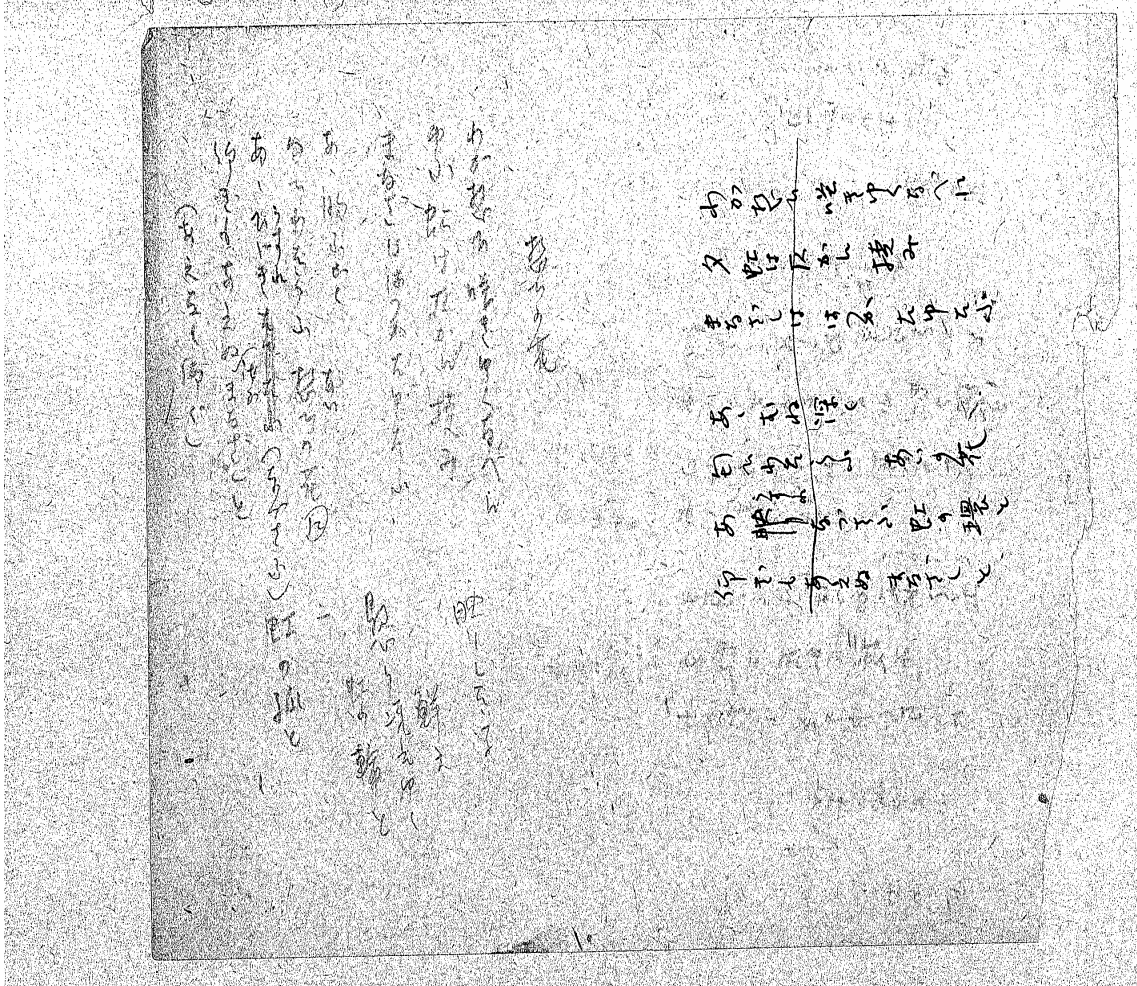
資料番号 M2066 「わが想ひ咲きゆくなべに...」ほか断片



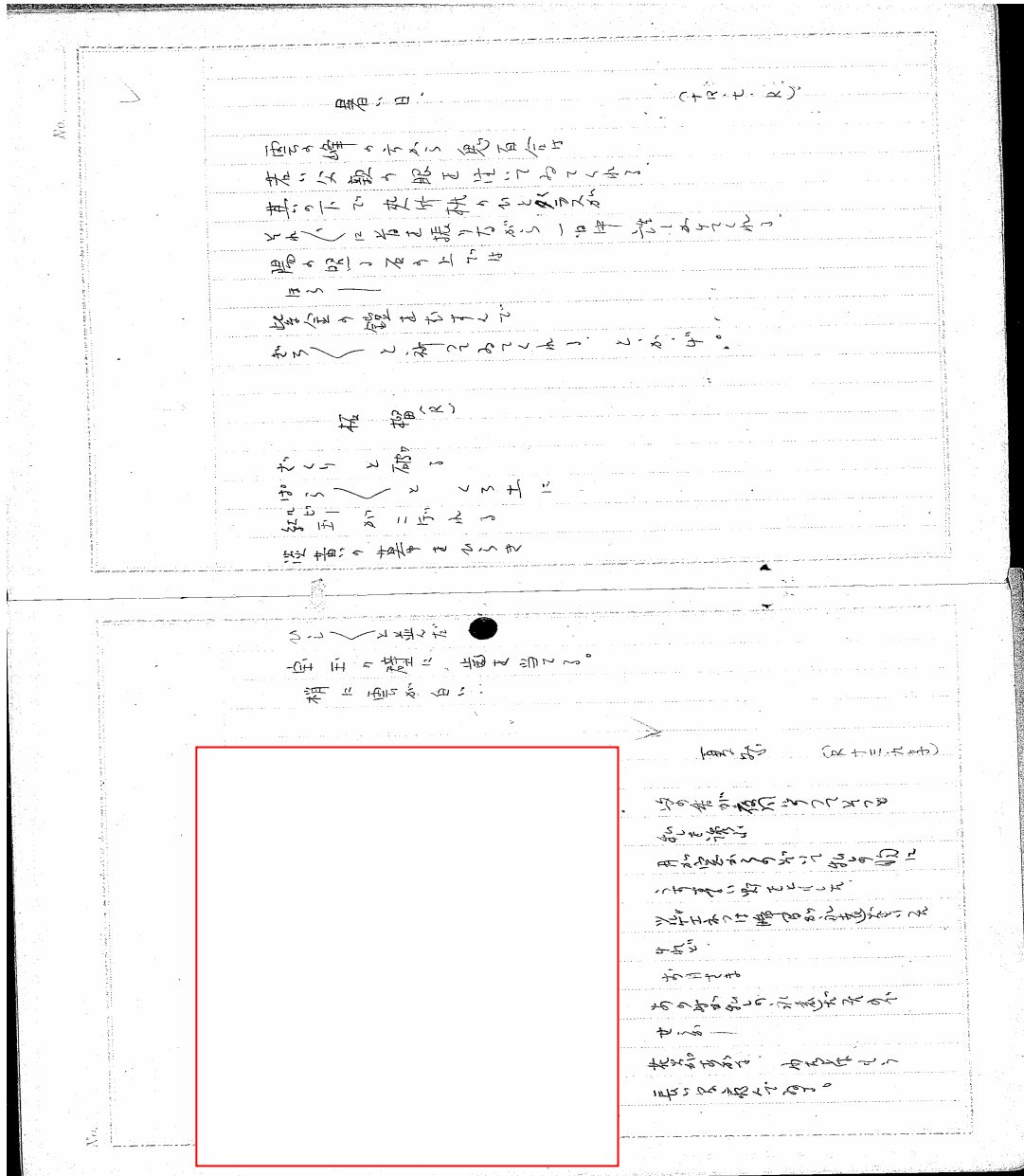


画像例 3 回転を要する資料 続き (裏)

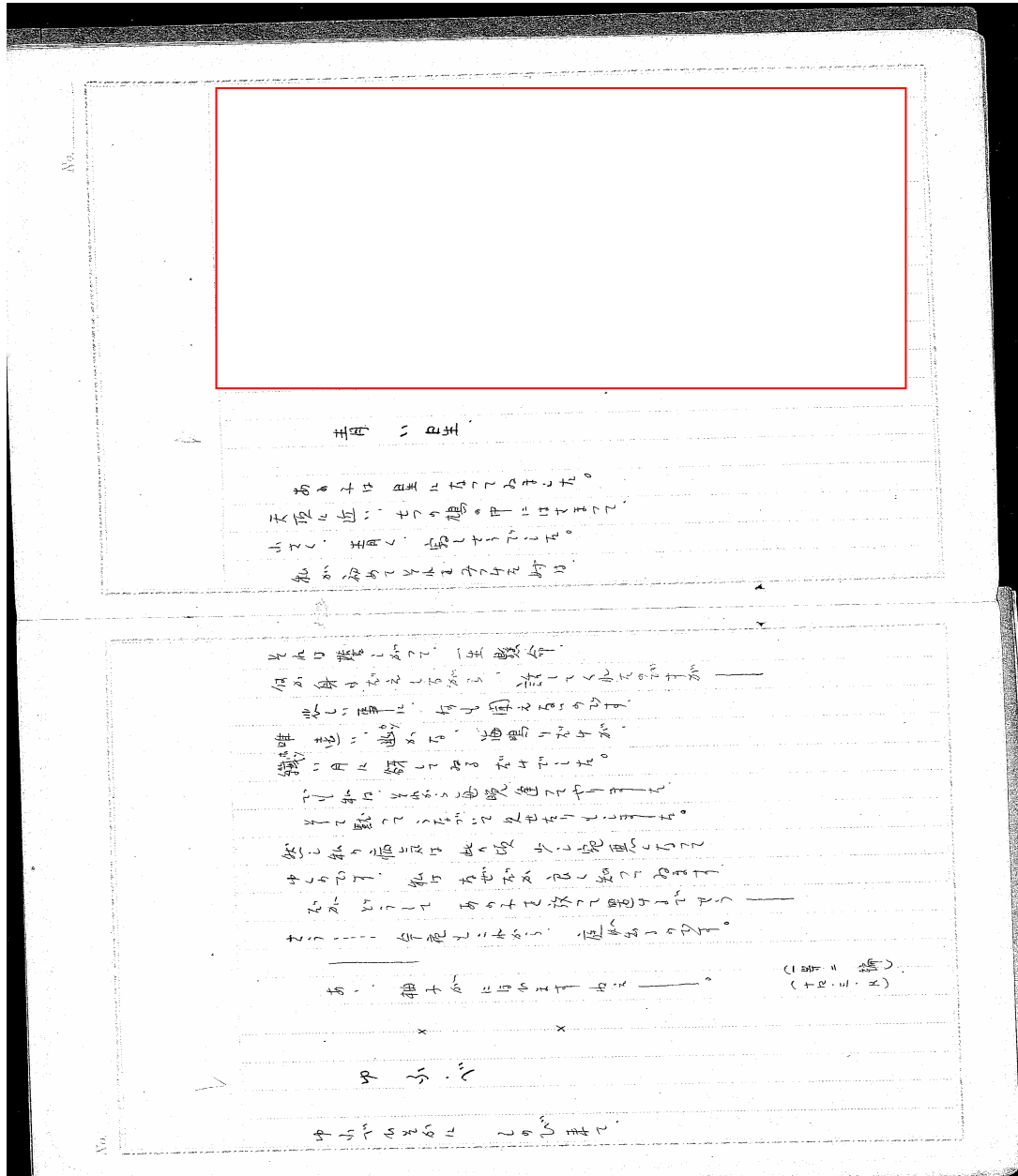
資料番号 M2066 「わが想ひ咲きゆくなべに…」ほか断片 続き



画像例 4 赤枠による資料の特定  
資料番号 T0388 詩 秋の小山



画像例 4 赤枠による資料の特定 (続き)  
資料番号 T0388 詩 秋の小山 (続き)



離脱

烈しい突風の中を  
進む者の心は

あなただけの中を  
通りぬけ

幾分かおの  
山河を越え

今日知しは

新しい心  
作り出す

その止つて  
一瞬

知しつづける  
声に聞かす

裸足の歩む  
眼蓋は落ちて、  
飛ぶ

距離一歩毎に  
知しつづける  
理解はつ

あ、理想  
限りの中を  
進む

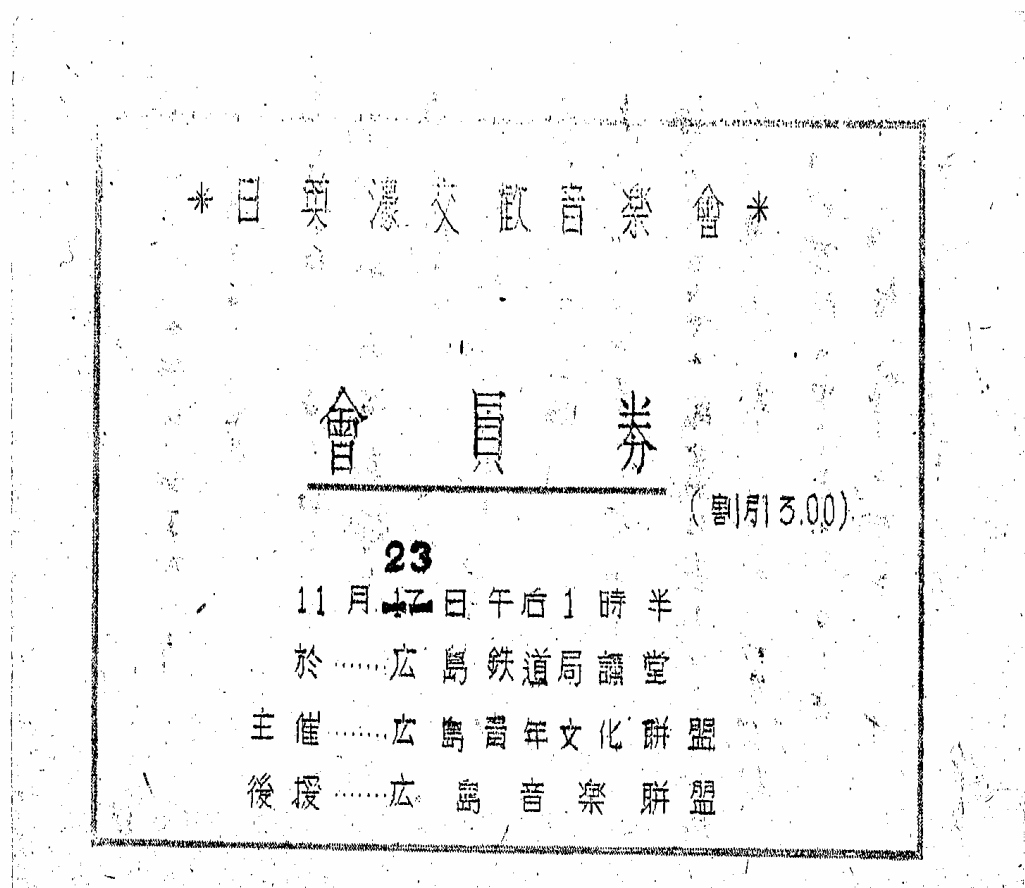
その瞬間  
限りの中  
進む

歩む者の  
心は

と  
進む

4.12

画像例 5 裏面使用の例 (続き 本来の表)  
資料番号 M1958 「詩 離脱」 日英豪交歓音楽会会員券



# 峠三吉自筆草稿画像目録CD

## 利用申込書

広島大学平和科学研究センター

松尾 雅嗣 殿

下記の条件すべてを遵守しますので、標記CDを提供ください。

### 記

研究目的以外には使用しないこと、

目録利用による成果を公表する場合は、原資料所蔵者と目録作成者を明記すること、

そのままの形であれ加工した形であれ、第三者に譲渡・提供しないこと

### 以上

平成 年 月 日

郵便番号

住所  
電話

電話

(携帯、固定いずれでも結構です)

E\_mail

(あれば記入ください)

氏名

(自署ください)

-----  
送付先及び連絡先

730-0053 広島市中区東千田町1丁目1番89号

広島大学平和科学研究センター 松尾 雅嗣

fax: 082-245-0585 E\_mail: xmatsuo@hiroshima-u.ac.jp

郵便、FAX、メール（PDFファイル）のいずれでも結構です。